佐賀県文化財調査報告書第85集

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書 5

１９８７年３月

佐 賀 県 教 育 委 員 会

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書 5

１９８７年3月

佐賀県教育委員会

はじめに

この報告書は、佐賀県農業基盤整備事業の施行に先がけて、国庫補助金を得て実施した埋蔵文化財調査報告書であります。

本県では、農業を営む人々の生活基盤を整備するために年間約1,500ヘクタール相当の農業基盤整備事業を実施しているところでありますが、事業施行予定地区内には多くの埋蔵文化財包蔵地が含まれております。本来これらの遺跡は改変することなく保存されなければならないものですが、農業基盤整備事業側と調整を図り最小限度の発掘調査を実施し、記録保存を行なうものであります。

このため昭和61年度農業基盤整備事業施行予定地区について、昭和60年度に文化財確認調査を行なった結果、縄文時代～江戸時代に至る多くの遺跡が確認されました。

また、佐賀平野における古地割りの保存のための調査として、昨年度に引き続き埋没した条里遺構の確認調査を実施しました。

本書に収められた資料を学術資料として、また重要な文化財を県民の共有財産として大切に保存していくための資料として役立てていただければ幸いです。

この調査にあたって文化庁、県農林部、各市町村の教育委員会・土地改良担当課並びに地元関係各位の深いご理解とご協力に対し、心からお礼申し上げます。

昭和62年３月31日

佐賀県教育委員会

教育長　志岐常文

例　　言

1．本書は国庫補助を受け、昭和60年度に調査を実施した佐賀県農業基盤整備事業に伴う文化財調査報告である。

2．調査は市町村教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が行なった。

3．遺構の実測・写真撮影は調査員が行なった。

4．遺物の実測・製図・報告書作成作業は、県文化課文化財資料室・神埼発掘調査事務所で行なった。

○遺物整理……樋口菅子・中村三千代・梅野角子・中島美須三・三好文子・古賀安子

○遺物実測……上滝光子・神田浩子

○製図……梅野角子・三好文子・鳥谷智子・種浦加代子・樋渡瑞枝・岩井祥子

5．本文の執筆分担は次のとおりである。

Ⅲ－5	田平　徳栄	Ⅴ－3、4	久保　伸洋
Ⅴ－5、6、7	堤　安信	Ⅴ－8	緒方祐次郎
Ⅴ－9	八尋　実	Ⅴ－10	福田　義彦
Ⅴ－11	川崎　吉剛	Ⅴ－12	種浦　修
Ⅴ－14、15	中島　直幸		

他は各調査担当者から提出された確認調査結果の報告票及び実績報告書をもとに徳富則久が行なった。

6．本書の編集は徳富則久・種浦加代子があたった。

凡　　例

1．遺構番号に用いた分類番号は、ＳＴ：古墳、ＳＢ：住居跡・建物跡、ＳＨ：竪穴住居跡、ＳＫ：貯蔵穴・土壙、ＳＥ：井戸跡、ＳＤ：溝跡・溝状遺構、ＳＸ：その他の遺構、Ｐ：柱穴・小土壙、ＳＪ：土器棺墓、ＳＣ：石棺墓である。

2．用いた方位は、地図が座標北、遺構図は磁北である。

3．挿図中の、■は遺構・遺物包含層が検出された試掘溝、□は遺構・遺物包含層が検出されなかった試掘溝、――――は推定される遺跡の広がりを示す。

目　　次

Ⅰ．調査に至る経過…… 6
1．昭和61年度農業基盤整備事業に伴う文化財確認調査…… 6
(1)　農業基盤整備事業に係る協議…… 6
(2)　文化財確認調査…… 6
(3)　開発と文化財保護に係る協議…… 6
2．埋没条里確認調査…… 7
Ⅱ．調査組織 …… 7
Ⅲ．昭和60年度文化財確認調査の内容 …… 9
1．佐賀東部地区の調査…… 9
(1)　鳥栖市……10
(2)　基山町……10
(3)　北茂安町……10
(4)　三根町……13
(5)　上峰村……13
(6)　神埼町……13
(7)　千代田町……18
(8)　東脊振村……18
2．佐賀西部地区の調査……22
(1)　佐賀市……23
(2)　諸富町……24
(3)　多久市……25
3．佐賀南部地区の調査……27
(1)　武雄市……28
(2)　白石町……30
(3)　有明町……32
(4)　鹿島市……32
(5)　太良町……32
(6)　嬉野町……32
4．佐賀北部地区の調査……34
(1)　伊万里市……35
(2)　西有田町……36
(3)　浜玉町……38
(4)　相知町……38
(5)　北波多村……38

5．佐賀上場地区の調査……39
(1) 唐津市……40
(2) 肥前町……40
(3) 玄海町……40
6．筑後川下流用水事業に係る調査……41
(1) 佐賀東部導水路……41
(2) 大詫間幹線水路……41
Ⅳ．埋没条里確認調査……43
1．調査の概要……43
2．調査の内容……43
(1) 神埼町……43
(2) 三田川町……51
(3) 白石町……53
(4) 有明町……55
Ⅴ．昭和60年度農業基盤整備事業に係る発掘調査の概要……58
1．船石南遺跡……58
2．本分遺跡……60
3．大曲遺跡群……62
4．石動遺跡群……64
5．大石遺跡……66
6．上黒井貝塚……68
7．柴尾遺跡……70
8．的小渕遺跡……72
9．本告牟田遺跡……74
10．泉遺跡……77
11．池の上三本松遺跡……79
12．唐人廟遺跡……80
13．馬洗上黒木遺跡……82
14．見借遺跡群……84
15．名場越後田遺跡……86
16．馬郡遺跡……88
Ⅵ．総　括……90

挿　図　目　次

第１図　昭和60年度農業基盤整備事業に伴う文化財確認調査地区・発掘調査遺跡位置図……折り込み
第２図　佐賀東部地区周辺地形図…… 9
第３図　鳥栖市麓第２地区試掘溝配置図……10
第４図　基山町園部地区試掘溝配置図……11
第５図　北茂安町東部地区試掘溝配置図……12
第６図　北茂安町西部地区・三根町三根東地区試掘溝配置図……12
第７図　上峰村上峰北部地区試掘溝配置図……14
第８図　神埼町六丁工区試掘溝配置図……15
第９図　上六丁工区基本土層図……16
第10図　竹原工区基本土層図(1)……16
第11図　竹原工区基本土層図(2)……16
第12図　神埼町竹原工区試掘溝配置図……折り込み
第13図　神埼町石井ヶ里工区古代道路試掘溝実測図……17
第14図　下石動工区基本土層図……19
第15図　村先工区基本土層図……19
第16図　千代田町千代田工区試掘溝配置図……20
第17図　東脊振村下石動工区試掘溝配置図……21
第18図　佐賀西部地区周辺地形図……22
第19図　佐賀市久保泉西部地区試掘溝配置図……23
第20図　佐賀市久保泉東部地区試掘溝配置図……24
第21図　諸富町諸富工区試掘溝配置図……25
第22図　多久市多久東部地区試掘溝配置図……26
第23図　佐賀南部地区周辺地形図……27
第24図　武雄市橘地区試掘溝配置図……28
第25図　武雄市川登地区試掘溝配置図……29
第26図　白石町白石西第３期地区試掘溝配置図……30
第27図　白石町白石西第４期地区試掘溝配置図……31
第28図　嬉野町下岩屋地区試掘溝配置図……33
第29図　佐賀北部地区周辺地形図……34
第30図　伊万里市東山代西部地区試掘溝配置図……35
第31図　伊万里市東山代西部地区基本土層図……36
第32図　西有田町曲川地区基本土層図……36
第33図　西有田町大山地区試掘溝配置図……37
第34図　北波多村稗田地区試掘溝配置図……38
第35図　佐賀上場地区周辺地形図……39
第36図　神埼町鶴地区試掘溝配置図……42
第37図　神埼町・三田川町調査対象地区試掘溝位置図（1/25,000）……44

第38図　埋没条里確認調査神埼町田道ヶ里地区試掘溝配置図……45
第39図　田道ヶ里地区A～E溝跡実測図……46
第40図　埋没条里確認調査神埼町本告牟田地区試掘溝配置図……47
第41図　本告牟田地区遺構平面図・SD003溝跡土層図……48
第42図　本告牟田地区確認調査出土遺物実測図……49
第43図　埋没条里確認調査三田川町箱川地区試掘溝配置図……51
第44図　三田川町箱川地区遺構実測図……52
第45図　白石町・有明町調査対象地区位置図（1/25,000）……53
第46図　白石町埋没条里確認調査試掘溝配置図……54
第47図　白石町埋没条里確認調査検出溝跡実測図……54
第48図　埋没条里確認調査有明町辺田地区試掘溝配置図……55
第49図　船石南遺跡周辺地形図（1/25,000）……58
第50図　本分遺跡周辺地形図（1/25,000）……60
第51図　大曲遺跡群周辺地形図（1/25,000）……62
第52図　石動遺跡群周辺地形図（1/25,000）……64
第53図　大石遺跡周辺地形図（1/25,000）……66
第54図　上黒井貝塚周辺地形図（1/25,000）……68
第55図　柴尾遺跡周辺地形図（1/25,000）……70
第56図　的小渕遺跡周辺地形図（1/25,000）……72
第57図　本告牟田遺跡周辺地形図（1/25,000）……74
第58図　本告牟田遺跡Ⅲ区遺構配置図……75
第59図　泉遺跡周辺地形図（1/25,000）……77
第60図　池の上三本松遺跡周辺地形図（1/25,000）……79
第61図　唐人廟遺跡周辺地形図（1/25,000）……80
第62図　馬洗上黒木遺跡周辺地形図（1/25,000）……82
第63図　馬洗上黒木遺跡遺構配置図……83
第64図　SD002溝跡土層断面図（1/20）……83
第65図　土鈴実測図……83
第66図　見借遺跡群周辺地形図（1/25,000）……84
第67図　名場越後田遺跡周辺地形図（1/25,000）……86
第68図　馬郡遺跡周辺地形図（1/25,000）……88

表　目　次

表1　農業基盤整備事業施工予定地内文化財確認調査一覧表（昭和60年度調査）……折り込み
表2　昭和60年度発掘調査遺跡一覧表……折り込み
表3　本告牟田地区確認調査遺構一覧表……49
表4　本告牟田地区確認調査出土遺物観察表……49

図　版　目　次

図版１　北茂安町西寄集落付近（南から）……12
図版２　神埼町六丁工区（東から）……16
図版３　神埼町竹原工区（東から）……16
図版４　千代田町柴尾地区航空写真……18
図版５　千代田町下直鳥地区航空写真……18
図版６　東脊振村下石動工区航空写真……19
図版７　白石町白石西第４期地区（南から）……32
図版８　①本告牟田地区（南東から）　②Ａ地区SD003溝跡（北から）
③Ｂ地区全景（南から）　④Ａ地区SK005土壙遺物出土状況……50
図版９　①船石南遺跡Ⅰ区全景（南西から）　②Ⅲ区全景（北から）　③Ⅲ区住居跡検出状況
④Ⅴ区全景（南から）⑤Ⅰ区合口土器棺出土状況　⑥Ⅰ区小児用土器棺出土状況 ‥59
図版10　①本分遺跡Ⅰ区全景（南から）　②Ⅱ区全景（東から）
③Ⅰ区発掘調査状況　④鐸形土製品……61
図版11　①松本Ａ遺跡第１地区全景（南から）　②松本Ｂ遺跡第１地区（南から）……63
図版12　①西石動Ａ遺跡第２・3地区全景　②第2地区SB212掘立柱建物跡（北から）
③第2地区SK203土壙（北から）　④西石動Ｂ遺跡第１地区全景（西から）
⑤SC016石棺墓　⑥SB026、SH019　⑦SK020焼土穴（南から）……65
図版13　①大石遺跡調査区全景　②調査後全景……67
図版14　①上黒井貝塚調査区全景（西から）　②調査区全景（東から）　③Ａ区SK005土壙
④Ａ区SK005土壙遺物出土状況　⑤Ｃ区近景……69
図版15　①柴尾遺跡全景（南から）　②遺構検出状況
③遺物出土状況　④遺物出土状況……71
図版16　①的小渕遺跡Ⅲ区全景（西から）　②Ⅳ区全景　③ST501古墳全景
④ST701古墳全景　⑤４区SB403・404・405掘立柱建物跡……73
図版17　①本告牟田遺跡調査区全景（南から）　②Ⅰ区北半建物区検出状況（南から）
③Ⅲ区第８建物区全景（北から）　④第８建物区掘立柱建物跡……76
図版18　①泉遺跡SB001住居跡状遺構　②③溝跡……78
図版19　池の上三本松遺跡全景……79
図版20　①唐人廟遺跡１区近景　②２区近景（西から）
③ＳＥ742井戸跡　④１区東側調査風景 ……81
図版21　①馬洗上黒木遺跡全景（南から）　②SD002溝跡（南から）……83
図版22　①見借遺跡群遠景　②見借野中遺跡全景　③見借西の前遺跡包含層
④見借辻の尾遺跡水田跡……85
図版23　①名場越後田遺跡全景（南から）　②集落跡（北から）　③包含層　④井戸跡……87
図版24　①馬郡遺跡１区全景（東から）　②２区井戸跡検出状況　③３区全景（西から）
④４区全景（東から）　⑤４区遺構検出状況　⑥４区建物跡（東から）
⑦２区井戸跡検出作業　⑧４区遺構検出作業……89

Ⅰ．調査に至る経過

1．昭和61年度農業基盤整備事業に伴う文化財確認調査

(1) 農業基盤整備事業に係る協議

県農林部と県文化課が昭和53年４月に締結し、昭和59年４月に一部改正した「農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項」に基づいて、昭和60年９月に農業基盤整備事業施行計画について事業担当部局から文化財保護担当部局へ協議を求められた。

昭和61年度の対象地区は、佐賀東部地区（鳥栖市・基山町・北茂安町・三根町・上峰村・神埼町・千代田町・三田川町・東脊振村・脊振村・三瀬村）635.75ha、佐賀西部地区（佐賀市・多久市・諸富町・川副町・久保田町・大和町）366.7ha、佐賀南部地区（武雄市・鹿島市・山内町・北方町・白石町・福富町・有明町）479.8ha、佐賀北部地区（伊万里市・西有田町・浜玉町・厳木町・相知町）90.18ha、佐賀上場地区（唐津市・肥前町・玄海町）30.84haの合計1,603.27haである。施行主体は、九州農政局上場水利事業所々管の国営、佐賀県農林部所管の県営、市町村所管の団体営事業に区分される。また、水資源開発公団所管の筑後川下流用水事業に伴う（神埼町・諸富町）協議もなされた。

(2) 文化財確認調査

協議された設計図について現地踏査の結果をもとに検討を行ない、確認調査の必要な地区と必要でない地区との区別を行なう。次いで遺跡の存在が予測され、確認調査の必要性が認められる市町村（表１）の教育委員会、土地改良担当課、当該事業を所管する県農林部との第１回目の合同四者協議会を県教育委員会が主催して10月15日に開催した。

その合意を経て文化財確認調査を稲刈りが終了する10月下旬から麦の作付けが始まる12月上旬までの間に行なったが、農作物の状況によっては調査時期がずれることもあった。確認調査は原則として、２ｍ×２ｍの試掘溝を20ｍ間隔で碁盤目状に設定し、埋蔵文化財の有無、性格、広がりなどを調査した。

(3) 開発と文化財保護に係る協議

確認調査の結果を検討して詳細な遺跡分布図を作成し、佐賀東部地区736,800㎡、佐賀西部地区33,600㎡、佐賀南部地区70,900㎡、佐賀北部地区37,000㎡、佐賀上場地区4,200㎡の計882,500㎡の遺跡が確認された。当該事業と埋蔵文化財保護の調整を図る第２回目の合同四者協議会を12月10日に開いた。その後、昭和61年３月まで各市町村教育委員会が主体となって個別協議が継続され、３月10日に第３回目の合同四者協議会を開き、昭和61年度の当該事業と埋蔵文化財保護との最終調整がなされた。これらの調整で、対象遺跡面積545,000㎡にしぼり、この内487,400㎡については農業基盤整備事業担当部局で盛土法による遺跡の保存をはかるなどの設計変更をお願いし、残る57,600㎡については発掘調査を実施して、記録保存することになった。

昭和60年度に、市町村教育委員会が実施した発掘調査（表２）は、59年度に同様な方法で確認調査を実施し、農業基盤整備事業担当部局との協議を経てきたものである。

２．埋没条里確認調査

昨年度に引続き、佐賀県教育委員会が主体となって条里地割り等の古地割り調査のための対応が進められ、その一環として埋没条里確認調査を実施した。調査は、比較的条里が良好な状態で残っていると考えられる神埼郡神埼町・三田川町、杵島郡白石町・有明町の当該年度工事地区について実施した。

II．調査組織

１．調査主体

佐賀県教育委員会

２．総　　括

局長　北村一義　県文化課長

次長　高島忠平　県文化課参事

　　宮原義幸　県文化課長補佐

　　尾形善郎　県文化課長補佐

３．庶　　務

菊地文夫　県文化課庶務係長

山下行夫　県文化課庶務係

東　英明　県文化課庶務係

鶴田明美　県文化課庶務係

４．調　　査

調査主任　木下　　巧　県文化課調査第２係長

調査員　中牟田賢治　県文化課調査第１係長

田平　徳栄　県文化課調査第２係

蒲原　宏行　県文化課調査第２係

徳富　則久　県文化課調査第２係

森田　孝志　県文化課調査第２係

種浦加代子　県文化課調査第２係

立石　泰久　県文化課調査第１係

七田　忠昭　県文化課調査第１係

福田　義彦　佐賀市教育委員会

中島　直幸　唐津市教育委員会

藤瀬　禎博　鳥栖市教育委員会

石橋　新次　鳥栖市教育委員会

西村　隆司　多久市教育委員会

盛　　峰雄　伊万里市教育委員会

原田　保則　武雄市教育委員会

種浦　　修　諸富町教育委員会

川崎　吉剛　大和町教育委員会

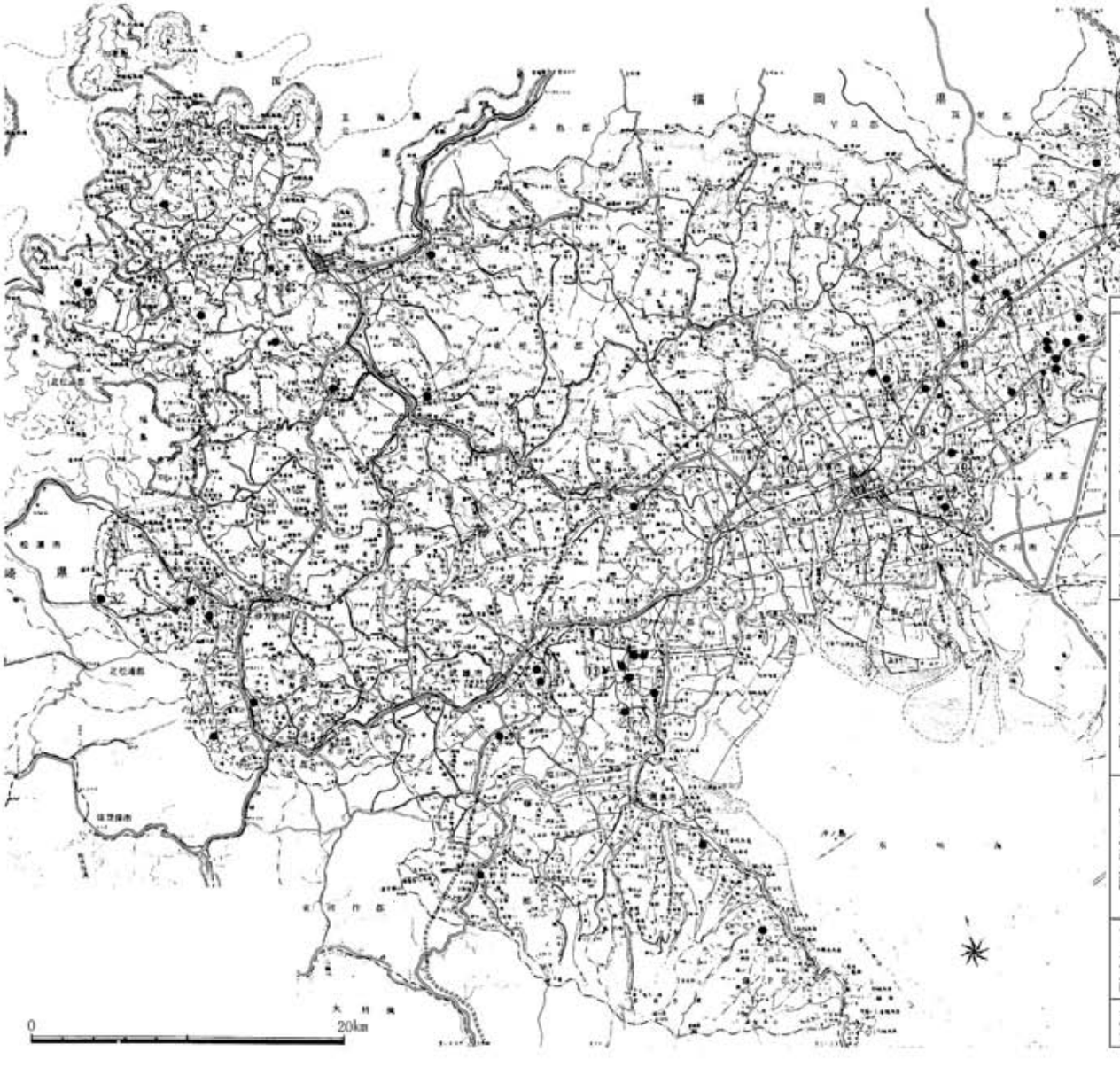
八尋　　実　神埼町教育委員会

緒方祐次郎　神埼町教育委員会
堤　　安信　千代田町教育委員会
久保　伸洋　東脊振村教育委員会
山田　　正　基山町教育委員会
鶴田　浩二　上峰村教育委員会

5．調査協力

佐賀市教育委員会	神埼町教育委員会	北波多村教育委員会
唐津市教育委員会	千代田町教育委員会	肥前町教育委員会
鳥栖市教育委員会	東脊振村教育委員会	玄海町教育委員会
多久市教育委員会	基山町教育委員会	西有田町教育委員会
伊万里市教育委員会	北茂安町教育委員会	白石町教育委員会
武雄市教育委員会	三根町教育委員会	有明町教育委員会
鹿島市教育委員会	上峰村教育委員会	太良町教育委員会
諸富町教育委員会	浜玉町教育委員会	嬉野町教育委員会
大和町教育委員会	相知町教育委員会	

九州農政局上場水利事務所
佐賀県農林部
佐賀中部農林事務所
鳥栖農林事務所
武雄農林事務所
鹿島農林事務所
伊万里農林事務所
唐津農林事務所
各市町村土地改良担当課
地元各位



	確認調査地区名	発掘調査遺跡
佐賀東部地区	1. 鳥栖市（麓第2地区）	① 本分遺跡
	2. 基山町（園部地区）	② 船石南遺跡
	3. 北茂安町（北茂安東部地区）	③ 的小関遺跡
	4. （北茂安中部地区）	④ 本告牟田遺跡
	5. （北茂安西部地区）	⑤ 大曲遺跡群
	6. 三根町（三根西1期地区）	⑥ 石鉄遺跡群
	7. （三根東地区）	⑦ 大石遺跡
	8. 上峰村（上峰北部地区）	⑧ 上黒井貝塚
	9. 神埼町（六丁目地区）	⑨ 栗尾遺跡
	10. （竹原地区）	
	11. （田道ヶ里地区）	
	12. 千代田町（直鳥地区）	
	13. 東背振村（下石動地区）	
	14. （村矢地区）	
佐賀西部地区	15. 佐賀市（久保泉西部地区）	⑩ 泉遺跡
	16. （久保泉東部地区）	⑪ 迫ノ上三本松遺跡
	17. 諸富町（諸富地区）	⑫ 唐人町遺跡
	18. 多久市（多久東部地区）	
佐賀南部地区	19. 武雄市（武雄南部地区）	⑬ 馬洗上黒木遺跡
	20. （橋地区）	
	21. （川登地区）	
	22. 白石町（白石西第1期地区）	
	23. （白石西第2期地区）	
	24. （白石西第3期地区）	
	25. （白石西第4期地区）	
	26. 有明町（有明第3地区）	
	27. 鹿島市（西塩屋地区）	
	28. 太良町（多良地区）	
	29. 嬉野町（下岩屋地区）	
佐賀北部地区	30. 伊万里市（東山代東部地区）	
	31. （東山代西部地区）	
	32. （境地区）	
	33. 西有田町（曲川地区）	
	34. （大白地区）	
	35. （明極農道）	
	36. 浜玉町（横田上地区）	
	37. 相知町（伊岐佐地区）	
	38. 北波多村（梅田地区）	
佐賀上場地区	39. 唐津市（茶河内地区）	⑭ 見借遺跡群
	40. 肥前町（今泉地区）	⑮ 名護越横田遺跡
	41. （波戸岳地区）	
	42. 玄海町（湯野尾地区）	
	43. （納賀河内地区）	
その他		⑯ 馬郡遺跡

第1図　昭和60年度農業基盤整備事業に伴う文化財確認調査地区・発掘調査遺跡位置図

表１．農業基盤整備事業施行予定地内文化財確認調査一覧表（昭和60年度）

地区	市町村名	工事地区名	所在地	確認調査面積	調査結果	担当	備考
佐賀東部	鳥栖市	麓第二	鳥栖市立石町字山田	4.2ha	古墳時代墳墓を検出	石橋	山田遺跡
	基山町	園部	基山町大字園部字立花・花園	3.2	平安時代土壙・小穴を検出	山田	
	北茂安町	北茂安東部	北茂安町大字白壁字五本松・一本杉他	25	遺構・遺物は検出されなかった	森田	
		北茂安中部	北茂安町大字江口字五本松他	64	〃	森田・徳富	
		北茂安西部	北茂安町大字江口・大字中津隈	38	弥生時代包含層、古墳～平安土壙・溝跡等を検出	徳富	
	三根町	三根西Ⅰ期	三根町大字寄人	20	遺構・遺物は検出されなかった	七田	
		三根東	三根町大字西島	29	弥生時代遺物包含層を検出	徳富	
	上峰村	上峰北部	上峰村大字堤	40	弥生時代住居跡・土壙・小穴を検出	蒲原	
	神埼町	神埼工区(六丁)	神埼町大字姉川・横武	193	中世溝跡を検出	田平	環濠集落
		〃(竹原)	神埼町大字鶴・志波屋		奈良・平安時代住居跡・井戸跡・古代道跡を検出	蒲原・田平	中園遺跡ほか
		〃(田道ヶ里)	神埼町大字田道ヶ里		遺構・遺物は検出されなかった	木下	
	千代田町	千代田工区(直鳥)	千代田町大字余り江・用作・直鳥	107	弥生時代～中世集落跡を検出	堤	柴尾遺跡ほか
	東脊振村	東脊振工区(下石動)	東脊振村大字石動字二本松他	35	弥生時代～中世集落跡を検出	久保	下石動遺跡ほか
		村先	東脊振村大字石動字一本杉	3.8	室町時代小穴・遺物包含層を検出	久保	
佐賀西部	佐賀市	久保泉西部	佐賀市久保泉町大字上和泉	12	弥生～古墳時代溝跡・遺物包含層を検出	福田	屋形遺跡
		久保泉東部	佐賀市久保泉町大字下和泉	12	古墳時代～中世溝跡・竪穴を検出	田平	泉遺跡
	多久市	多久東部	多久市東多久町別府・南多久町下多久	25	流れ込みと思われる土器・陶磁器が出土	西村	
	諸富町	諸富工区(大堂)	諸富町大字大堂	105	弥生時代～近世の集落跡を検出	種浦修	太田本村遺跡
佐賀南部	武雄市	武雄南部	武雄市橘町大字大日字大日	20	遺構・遺物は検出されなかった	原田	
		川登	武雄市東川登町大字袴野	46	中世の溝跡・集石等を検出	〃	
		橘	武雄市橘町大字片白・大日	21	中世の土壙・小穴を検出	〃	みやこ遺跡ほか
	鹿島市	西塩屋	鹿島市大字音成	2.7	遺構・遺物は検出されなかった	田平	
	白石町	白石西第1	白石町大字馬洗	29	〃	徳富	
		〃第2	白石町大字今泉	24	〃	〃	
		〃第3	白石町大字廿治	15	中世溝跡・土壙を検出	〃	吉村遺跡
		〃第4	白石町大字堤	9	中世城館堀跡	田平	須古城跡
	有明町	有明第三	有明町大字辺田	32	遺構・遺物は検出されなかった	木下	
	太良町	多良	太良町大字多良	13.4	〃	立石	
	嬉野町	嬉野西部	嬉野町大字岩屋川内	10.1	近世建物跡を検出	中牟田・田平	原の前遺跡
佐賀北部	伊万里市	東山代東部	伊万里市東山代町脇野	2.7	遺構・遺物は検出されなかった	盛	
		境	伊万里市東山代町川内野	8.1	〃	〃	
		東山代西部	伊万里市東山代町里	1.5	古墳～平安時代集落跡・包含層を検出	〃	馬立場遺跡
	西有田町	曲川	西有田町大字曲川	18	遺構は検出されなかった	徳富	
		大山	西有田町大字大木	18	中世の小穴等を検出	森田	
	浜玉町	白野	浜玉町大字横田上	4.2	遺構は検出されなかった	田平	
	相知町	伊岐佐	相知町大字伊岐佐	7	遺構・遺物は検出されなかった	木下	
	北波多村	北波多東	北波多村大字稗田	7	弥生時代包含層・中世小穴等を検出	森田	稗田遺跡
佐賀上場	唐津市	重河内	唐津市重河内	18.8	遺構・遺物は検出されなかった	中島	
	肥前町	遠見岳	肥前町大字納所	3.3	〃	田平	
		今泊	肥前町大字納所	2.1	縄文時代遺物包含層を検出	〃	荒崎遺跡
	玄海町	値賀河内	玄海町大字値賀河内	2.5	遺構・遺物は検出されなかった	〃	
		湯野尾	玄海町大字湯野尾	1	〃	〃	
筑後川下流用水事業	神埼町	鶴	神埼町大字鶴		弥生～古墳時代の集落跡を検出	森田	
		姉川	神埼町大字姉川		遺構は検出されなかった	田平	
	三田川町	田手	三田川町大字田手		遺構・遺物は検出されなかった	森田	
	諸富町	大堂	諸富町大字大堂		弥生時代～鎌倉時代の遺物包含層を検出	田平	

表２．昭和60年度発掘調査遺跡一覧表

市町村名	遺跡名	略号	遺跡の所在地	調査面積	調査主体者	調査担当者	遺跡の内容
三根町	本分遺跡	HON	三養基郡三根町大字西島	800㎡	三根町教委	田平	弥生時代集落跡
上峰村	船石南遺跡	FIM	三養基郡上峰村大字堤字一本松	4,500㎡	上峰村教委	鶴田・蒲原	弥生時代集落跡・墓地
東脊振村	松本A遺跡	MMT(A)	神埼郡東脊振村大字大曲字松本	2,500㎡	東脊振村教委	久保	鎌倉・室町時代集落跡
	松本B遺跡	MMT(B)					鎌倉・室町時代集落跡
	西石動A遺跡	NIN(A)	神埼郡東脊振村大字石動字二本杉	4,000㎡	東脊振村教委	久保	弥生～奈良時代集落跡
	西石動B遺跡	NIN(B)					平安・鎌倉時代集落跡
神埼町	本告牟田遺跡	MMT	神埼郡神埼町大字本告牟田	7,300㎡	神埼町教委	八尋	中世・近世環濠集落跡
	的小渕遺跡	IWO	神埼郡神埼町大字的	6,000㎡	神埼町教委	緒方	古墳・平安時代～近世集落跡
千代田町	大石遺跡	OIS	神埼郡千代田町大字姉	500㎡	千代田町教委	堤	弥生時代遺物包含層
	上黒井貝塚	KKI	神埼郡千代田町大字姉	3,800㎡	千代田町教委	堤	縄文時代～中世集落跡
	柴尾遺跡	SBO	神埼郡千代田町大字用作	1,200㎡	千代田町教委	堤	弥生時代～中世集落跡
佐賀市	泉遺跡	IZM	佐賀市久保泉町大字下和泉	1,200㎡	佐賀市教委	福田	中世～近世集落跡
諸富町	唐人廟遺跡	TZV	佐賀郡諸富町大字大堂字陣内	3,000㎡	諸富町教委	種浦修	弥生～古墳時代集落跡
大和町	池の上三本松遺跡	IUM	佐賀郡大和町大字池上字三本松	1,000㎡	大和町教委	川崎	中世集落跡
白石町	馬洗上黒木遺跡	MKK	杵島郡白石町大字馬洗字上黒木	250㎡	白石町教委	徳富	古代～中世生活跡
唐津市	見借野中遺跡	MKNO	唐津市見借字野中	4,615㎡	唐津市教委	中島	古墳・古墳～室町時代集落跡
	見借西の前遺跡	MKN	唐津市見借字西の前				弥生～古墳時代集落跡
	見借辻の尾遺跡	MKT	唐津市見借字辻の尾				平安～鎌倉時代水田跡・遺物包含層
	名場越後田遺跡	NAU	唐津市枝去木名場越字後田	1,700㎡	唐津市教委	中島	室町時代集落跡
神埼町	馬郡遺跡	MGI	神埼郡神埼町大字鶴	1,800㎡	佐賀県教委	森田	弥生時代～中世集落跡

Ⅲ．昭和60年度文化財確認調査の内容

1．佐賀県東部地区の調査

1．鳥栖市（麓第２地区）
2．基山町（園部地区）
3．北茂安町（北茂安東部地区）
4．北茂安町（北茂安中部地区）
5．北茂安町（北茂安西部地区）
6．三根町（三根西Ⅰ期地区）
7．三根町（三根東地区）
8．上峰村（上峰北部地区）
9．神埼町（六丁工区）
10．神埼町（竹原工区）
11．神埼町（田道ヶ里工区）
12．千代田町（直鳥工区）
13．東脊振村（下石動工区）
14．東脊振村（村先工区）
① 本分遺跡
② 船石南遺跡
③ 的小渕遺跡
④ 本告牟田遺跡
⑤ 大曲遺跡群
⑥ 石動遺跡群
⑦ 大石遺跡
⑧ 上黒井貝塚
⑨ 柴尾遺跡
⑩ 馬郡遺跡

第２図　佐賀東部地区周辺地形図

(1) 鳥栖市（麓第２地区、第３図）

麓第２地区は、鳥栖市立石町字山田に所在する。沼川の上流部が脊振山系の裾部を削って作る谷底平野の標高60～80ｍの水田部に立地する。地区北部は立石古墳群に当っており、また南部は古墳時代の遺物散布地である山田遺跡として周知されている。

調査は対象地4.2haのうち削平予定地を中心に19ヶ所の試掘溝を設けて実施した。その結果、第４・５試掘溝で古墳の石室１基が検出された。上部は後世の開拓で破壊されていたが、腰石以下が残存しており、出土した杯・壺等の須恵器等から７世紀代の古墳と推定される。

(2) 基山町（園部地区、第４図）

園部地区は、基山町大字園部字立花・花園に所在する。権現山から杓子ヶ峰へ延びる丘陵と契山から東へ延びる丘陵に挟まれた標高50～53ｍの水田部に立地する。鳥栖・筑紫野道路の西に接する地区で、地区中央を山下川が東流する。地区南方の丘陵上には馬場古墳群・亀の甲古墳群等が知られている。

調査は対象地3.2haのうち削平予定部及び水路予定部に32の試掘溝を設けて行なった。その結果、第17～21及び32試掘溝で土壙・小穴等が検出された。出土した遺物から、７～10世紀の集落跡の存在が推測される。

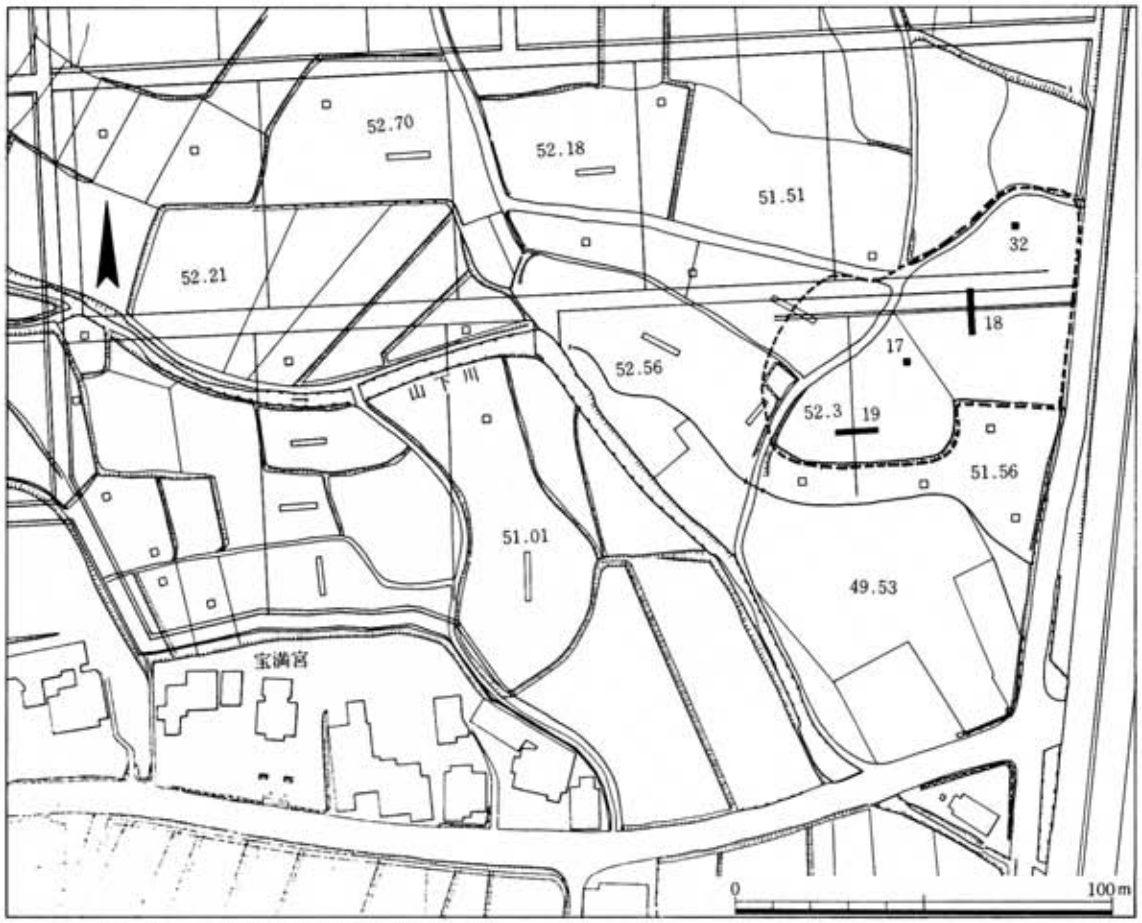
第３図　鳥栖市麓第２地区試掘溝配置図

(3) 北茂安町（北茂安東部地区・北茂安中部地区・北茂安西部地区、第5・6図）

北茂安東部地区は、北茂安町大字白壁字五本松・一本杉他に所在する。通瀬川と筑後川に挟まれた標高3.6～4.3ｍの低平な水田部に立地する。地区の東部には座主野遺跡があり、中世の遺物散布地として知られていた。

調査は対象地25haのうち水路予定地に45の試掘溝を設けて実施した。その結果、表土層より磨耗した土器細片が出土したほかは、遺構・遺物ともに検出されなかった。

北茂安中部地区は、北茂安町大字江口字五本松他に所在する。通瀬川が東尾上地集落付近で西へ大きく屈折する部分の両岸一帯に広がる標高約3.1～3.6ｍの低平な水田部に立地する。地区の北西部には中世の遺



第４図　基山町圏部地区試掘溝配置図

物散布地である江口五本松遺跡が存在する。

調査は対象地64haのうち水路予定地に64の試掘溝を設けて行なった。その結果、表土層から磨滅した土器細片が出土したほかは、遺構・遺物ともに検出されなかった。

北茂安西部地区は、北茂安町大字江口字四本松他・大字中津隈字五本松他に所在する。寒水川と切通川に挟まれた標高3.5～4.1ｍの低平な水田部に立地する。地区の南西部は三根町と接する。調査対象地は北と南の地区に分けられるが、両地区の間に所在する西寄集落付近には中世の遺物散布地である西寄遺跡が知られていた。また南の地区には約１haの溝渠（クリーク）によって方形に囲まれた水田・畑があり（図版１）、地元の人達の話によると屋敷跡といわれており、環濠集落の存在が予想された。

調査は対象地28haのうち水路予定地及び溝渠に囲まれた部分に79の試掘溝を設けて行なった。その結果、北の地区では三根町との境に計画された水路予定地で表土下に暗灰色粘質土が堆積しており、この層中から弥生時代中期の甕・壺が出土したが、遺構は検出できなかった。南の

上　第5図　北茂安町東部地区試掘溝配置図　図版1　北茂安町西寄集落付近(南から)
下　第6図　北茂安町西部地区・三根町三根東地区試掘溝配置図

地区では、上記環濠集落地割りの南方で土壙・溝跡・小穴が検出され、古墳～平安時代の須恵器・土師器・鉄器等が出土した。また溝渠に囲まれた水田部では中～近世期のものと思われる木棺墓が検出された。北の地区で弥生時代の遺物包含層が、南の地区で古墳～平安時代の集落跡及び中近世期の墓地の存在が推測される。

(4) 三根町（三根西Ⅰ期地区・三根東地区、第6図）

三根西Ⅰ期地区は、三根町大字寄人に所在する。井柳川右岸の標高約3mの水田部に立地する。地区南には大宰府統命院の寺領である統命院が存在する。

調査は対象地20haに33の試掘溝を設けて行なった。その結果地区中央、井柳川の西に接する付近で溝跡・黒色土層が検出されたが遺物は出土しなかった。

三根東地区は、三根町大字西島に所在する。本地区は更に北と南の地区に分けられる。北の地区は三根町の北東隅、北茂安町と接する標高約3.8mの水田部で、周辺に周知された遺跡は存在しない。南の地区は寒水川と筑後川に挟まれた標高約3mの水田部で、地区の西側に接して弥生時代及び中世の遺物散布地である西島二本杉遺跡が知られていた。

調査は対象地29haのうち水路予定地に60の試掘溝を設けて行なった。その結果、北の地区の北茂安町との境に計画された水路予定部で弥生時代中期の土器を包含する暗灰色粘質土層が検出されたが、遺構は検出できなかった。

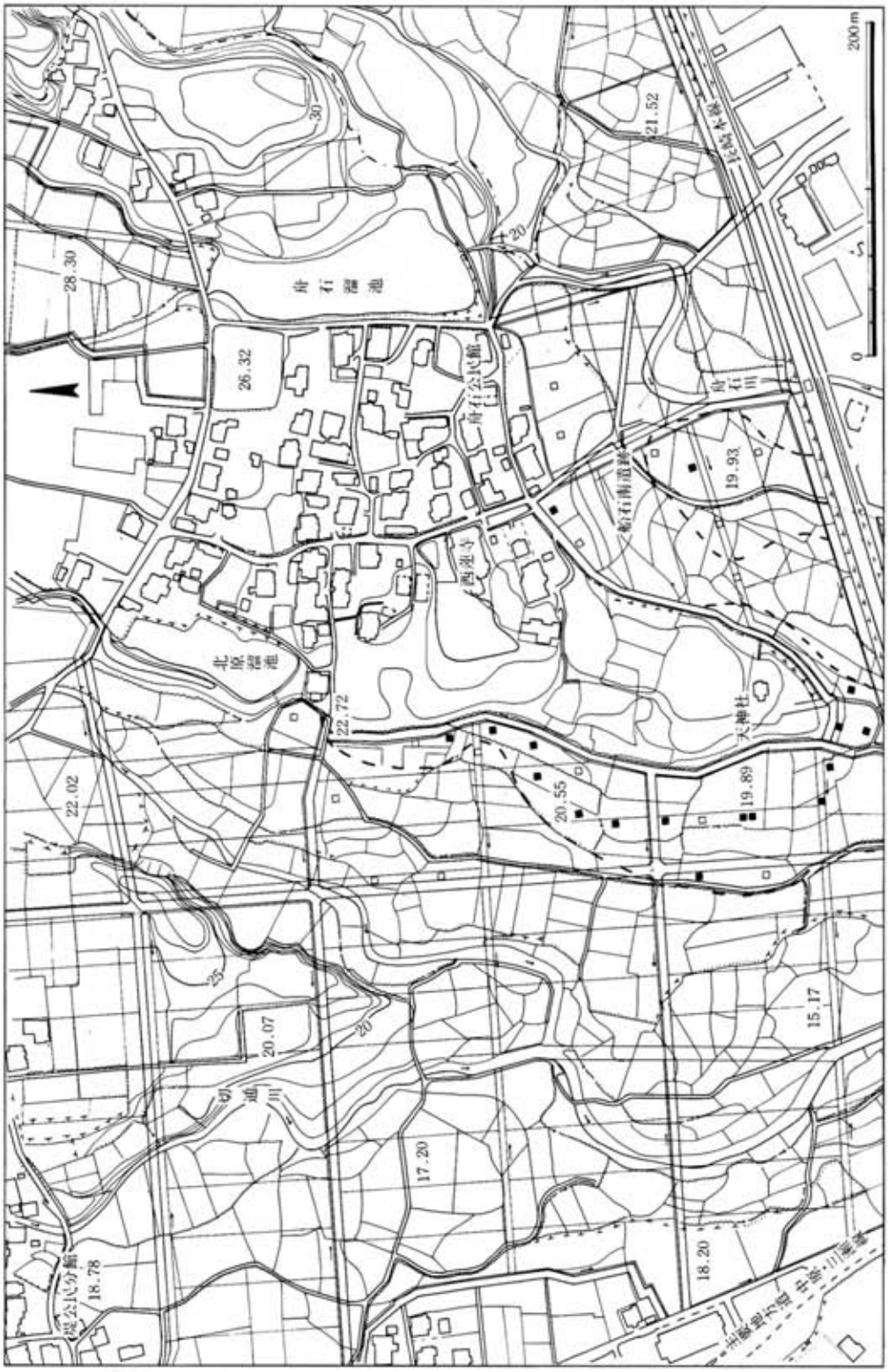
(5) 上峰村（上峰北部地区、第7図）

上峰北部地区は、上峰村大字堤に所在する。寒水川上流の切通川によって作られた中位段丘縁辺部、標高18～23mの水田部に立地する。当地区は著名な船石遺跡の周辺地区にあたる。船石遺跡は昭和57年度に上峰村教育委員会によって発掘調査が実施された遺跡で、弥生時代中期の住居跡・土器棺墓・支石墓、古墳時代中期の円墳等が検出されている。また地区南西の船石南遺跡は昭和60年度に発掘調査が実施され（本書58頁）、約500基の土器棺墓や住居跡の存在が判明した。

調査は対象地40haに268の試掘溝を設けて行なった。その結果、船石遺跡の立地する丘陵の縁辺部で弥生時代を主体とする住居跡・土壙・小穴等多数が検出された。今回確認された遺跡は昨年度の確認調査で判明した遺跡に連続するもので、船石遺跡の縁辺部及び船石南遺跡の北端部にあたるものと思われる。

(6) 神埼町（佐賀東部地区六丁工区・竹原工区・田道ヶ里工区、第8・12図、図版2・3）

六丁工区は、神埼町大字姉川・横武に所在する。東西を城原川と中地江川に、南北を長崎本線と国道34号線に囲まれた標高約3.4mの低平な水田部に立地する。地区一帯には縦横に溝渠（クリーク）が走り、その中に環濠集落が分布している。環濠集落については、昭和60年度神埼町教育委員会により本告牟田環濠集落の一部が調査され（本書74頁）、その実態が明らかになりつつある。当地区にも、南北朝時代の築造と伝えられる姉川城を始め、下六丁・上六丁や、伝柳



第７図　上峰村上峰北部地区試掘溝配置図

第８図　神埼町六丁工区試掘溝配置図

▲図版 2　神埼町六丁工区（東から）

▲図版 3　神埼町竹原工区（東から）

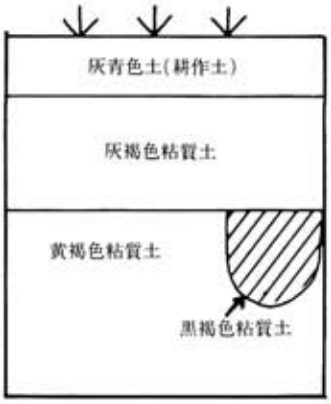
後城跡・伝宝蔵寺跡等の環濠集落が存在する。

調査は、対象地130haのうち水路予定地を中心に130の試掘溝を設けて行なった。その結果上記環濠集落の要注意地区の他に、姉川城北方の第98・99試掘溝及び上六丁と下六丁集落の間の第33・35試掘溝で溝跡が検出され、中世の土師器・須恵器・陶器が出土した。本地区については、佐賀平野低湿地部の開発過程を解明する鍵といっても過言でなく、環濠集落の保存問題も含めて考えていかなければならない。

竹原地区は、神埼町大字鶴・志波屋に所在する。城原川の中位段丘にあたり、三本松川と吉野ヶ里丘陵に挟まれた標高８～15ｍの水田部に立地する。馬郡集落北側にはほぼ東西に走る古代道と推定される遺構が、道路幅９～15ｍ、長さ150ｍに渡って確認された。吉野ヶ里丘陵上の古代道推定部にも切通しが見られるが、この間は道路跡としての地割りは不明瞭である。"馬郡"は古代馬飼部の居住に因むという説がある。吉野ヶ里丘陵東にある古代寺院の辛上廃寺の存在等、古代官衙との関連が考えられる地区である。また、吉野ヶ里丘陵では神埼工業団地の造成に先立ち確認調査が実施されたが、その結果縄文～江戸時代に至る広範な遺跡の存在が確認されており当地区にも広がっているものと思われる。

調査は対象地63haのうち水路予定部及び削平予定部に約300の試掘溝を設けて行なった。その結果、地区のほぼ全域で住居跡・井戸跡・土壙等が検出され（第12図）、弥生土器・須恵器・土師器等が出土した。特に注目されるものとしては、Ａの地区では鉄滓を伴う小穴が検出されており、小鍛冶跡が存在する可能性がある。また、馬郡集落の北側では版築状の層序を持つ

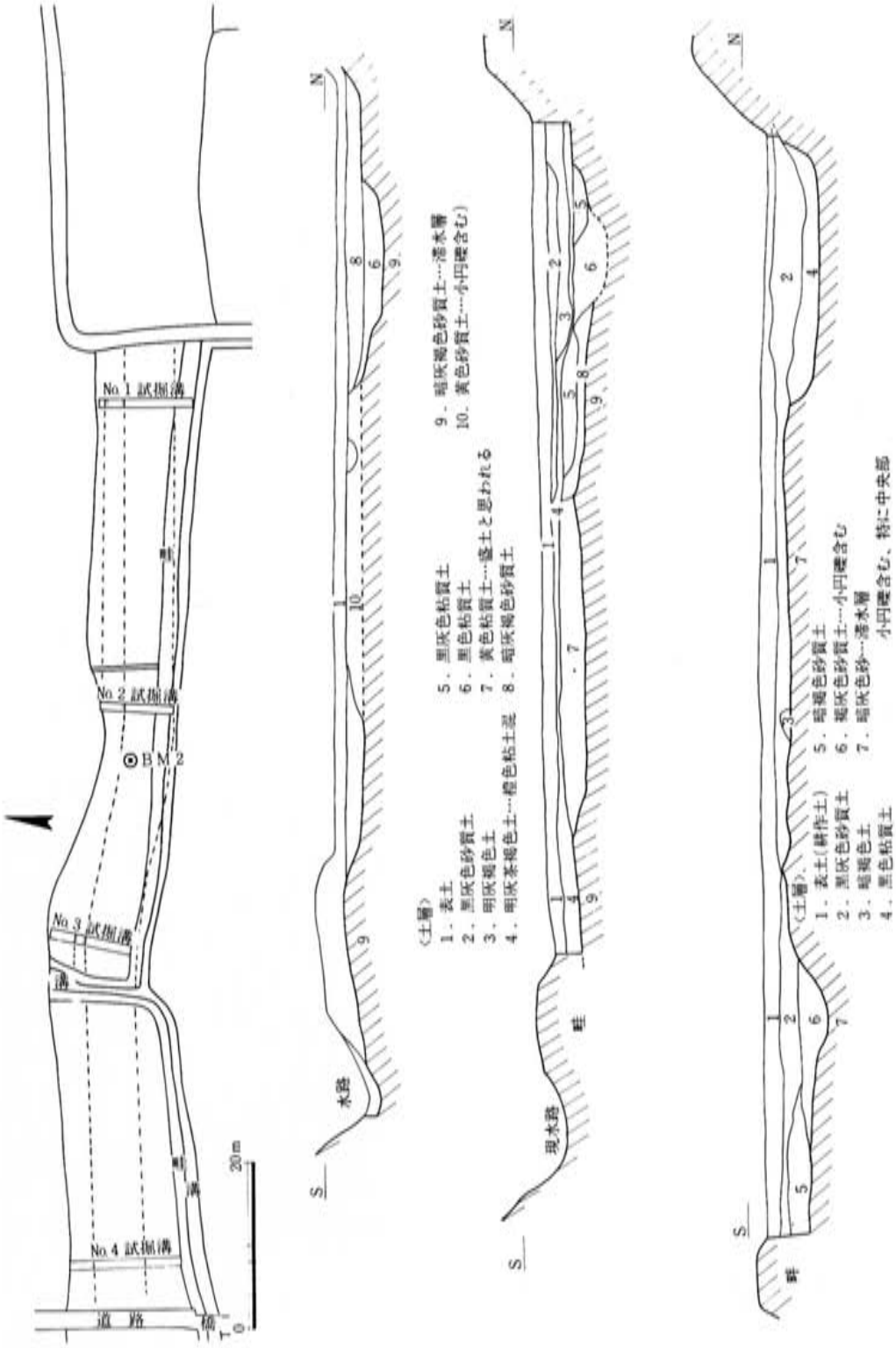
第９図　上六丁工区基本土層図



第10図　竹原工区基本土層図(1)

第11図　竹原工区基本土層図(2)

第12図　神埼町竹原工区試掘溝配置図



No1.試掘溝(S＝1/80)　No3.試掘溝(S＝1/80)　No4.試掘溝(S＝1/80)

第13図　神埼町石井ヶ里工区古代道路試掘溝実測図

遺構が検出されており、大形の建物跡の存在が考えられる。地区の東側には南北に遺構が検出されていない部分があるが、この部分は層序から河川跡であろう（第11図）。

馬郡集落の北側の古代道推定地部分に設けた試掘溝の状況は第13図の通りである。古道と思われる部分の幅は、広いところで6.4m、狭いところで3.4m、道路跡中央にいくほど土がしまっている。道路跡両側には側溝を有する。遺物としては側溝より土師器片数点が検出されたのみである。また、当地点と吉野ヶ里丘陵切通し部の中間付近に設けた試掘溝では、幅1.6mの狭小な同様の道路敷遺構が検出された。このように竹原地区では7～8世紀を中心とする遺跡及び推定古代道が検出されており、更に古代官衙との関連も考えられる。

田道ヶ里工区は、神埼町大字田道ヶ里に所在する。田手川と三本松川に挟まれた標高6m前後の低平な沖積平野に立地する。地区西北方には古代～中世の遺物散布地として知られる本堀朝日遺跡が存在する。また当地区一帯には整然とした条里的地割りが遺存しており、"田道ヶ里"も条里制に起因する地名である。

調査は対象地43haのうち水路予定地に52の試掘溝を設けて行なった。その結果明瞭な遺構・遺物は検出されなかった。

(7) 千代田町（佐賀東部地区直鳥工区、第16図）

直鳥工区は、千代田町大字余り江・用作・直鳥に所在する。城原川右岸の標高3.5m前後の低平な沖積平野である。調査対象地には弥生時代及び中世の遺物散布地である直鳥四本松遺跡・川崎遺跡・柴尾遺跡が所在する。また、地区南側の主要地方道佐賀一八女線ぞいに柴尾・余り江等、地区北側には下直鳥等の環濠集落が見られる。昭和60年度に柴尾集落の南側で柴尾遺跡の発掘調査が実施された（本書70頁）。

調査は対象地107haのうち南半部の水路予定地を中心に148の試掘溝を設けて行なった。その結果、川崎及び柴尾集落付近の周知されていた遺跡の部分で遺構が検出され、弥生土器・須恵器・土師器が出土した。それぞれの地点で弥生時代～中世の遺跡の存在が推測される。

図版4　千代田町柴尾地区航空写真
図版5　千代田町下直鳥地区航空写真

(8) 東脊振村（佐賀東部地区下石動工区・村先工区、第17図）

下石動工区は、東脊振村大字石動字二本松・三本松・四本松に所在する。田手川東岸に形成された河岸段丘上の標高34～38mの水田部に立地する。地区一帯は、弥生～古墳時代の遺跡が

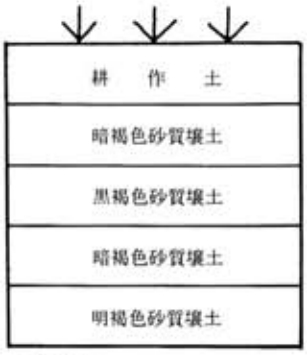
密集している。地区内にも石動二本松・石動三本松・石動四本松遺跡等が知られており、また地区北側の下石動遺跡については、九州横断自動車道に係る調査で弥生時代～中世の集落跡が確認されている。

調査は対象地35haに155の試掘溝を設けて行なった。その結果、地区全域にいくつかのまとまりをもって遺構が検出された。出土した遺物からこれらの遺跡は中世を中心とする弥生時代～中世の集落跡と考えられる。

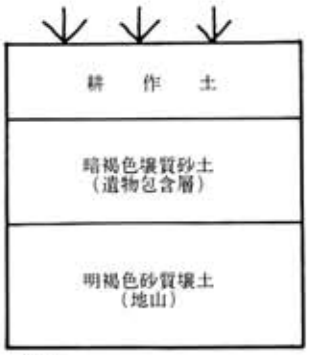
村先工区は、東脊振村大字石動字一本杉に所在する。田手川に東から流れ込む小河川によって作られた小扇状地上の標高65～100ｍの水田部に立地する。周辺には古墳時代後期の古墳群が分布している。

調査は対象地3.8haに20の試掘溝を設けて行なった。その結果、約600㎡の広がりをもつ室町期の生活跡が検出された。検出された遺構は20cm大の小穴で、その上に土師器・陶磁器細片を含む包含層が確認された。地区東側に"東ノ城"という山があり、中世山城に関連した遺跡の可能性がある。

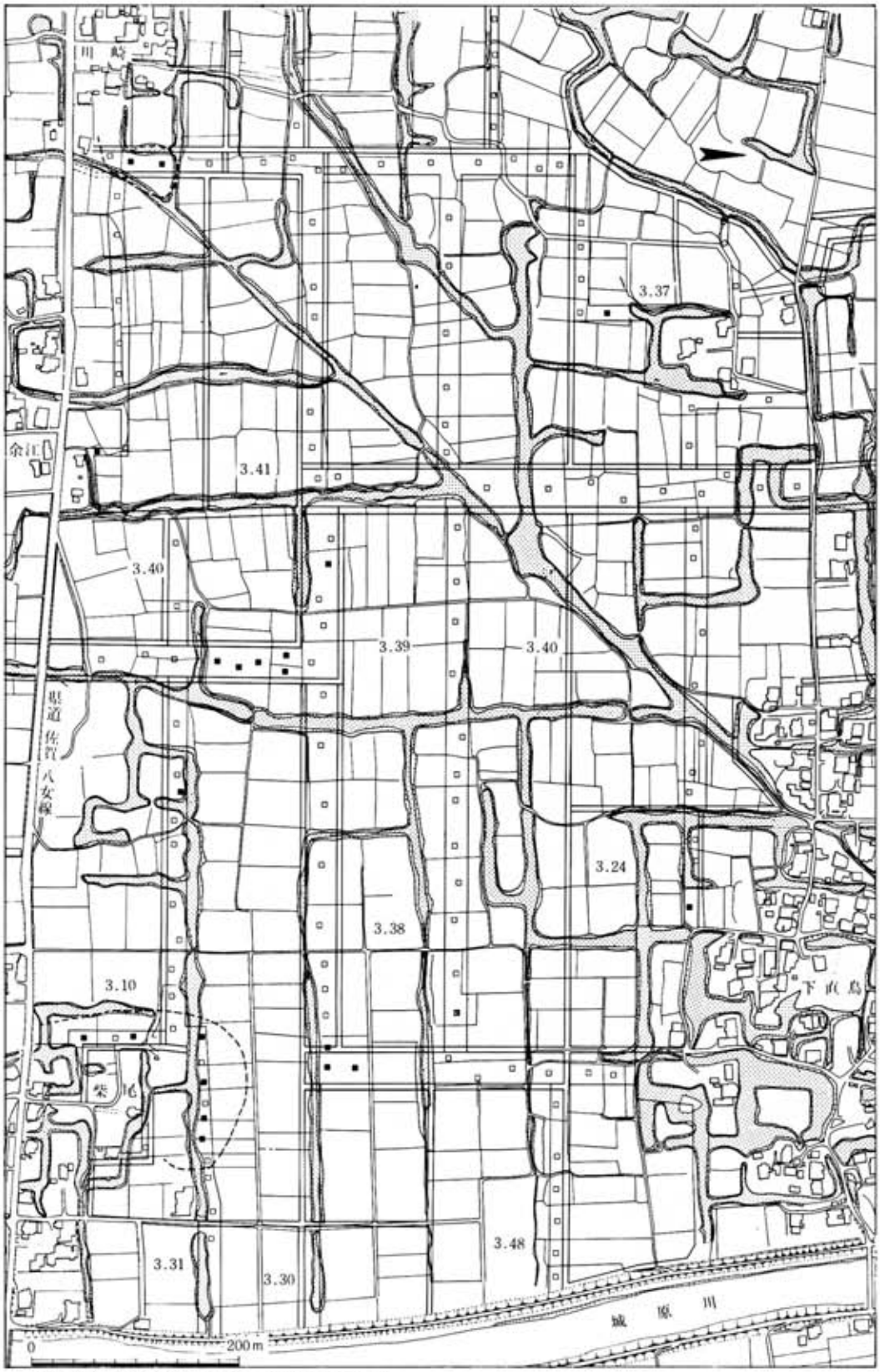
図版６．東脊振村下石動工区
航空写真



第14図
下石動工区基本土層図



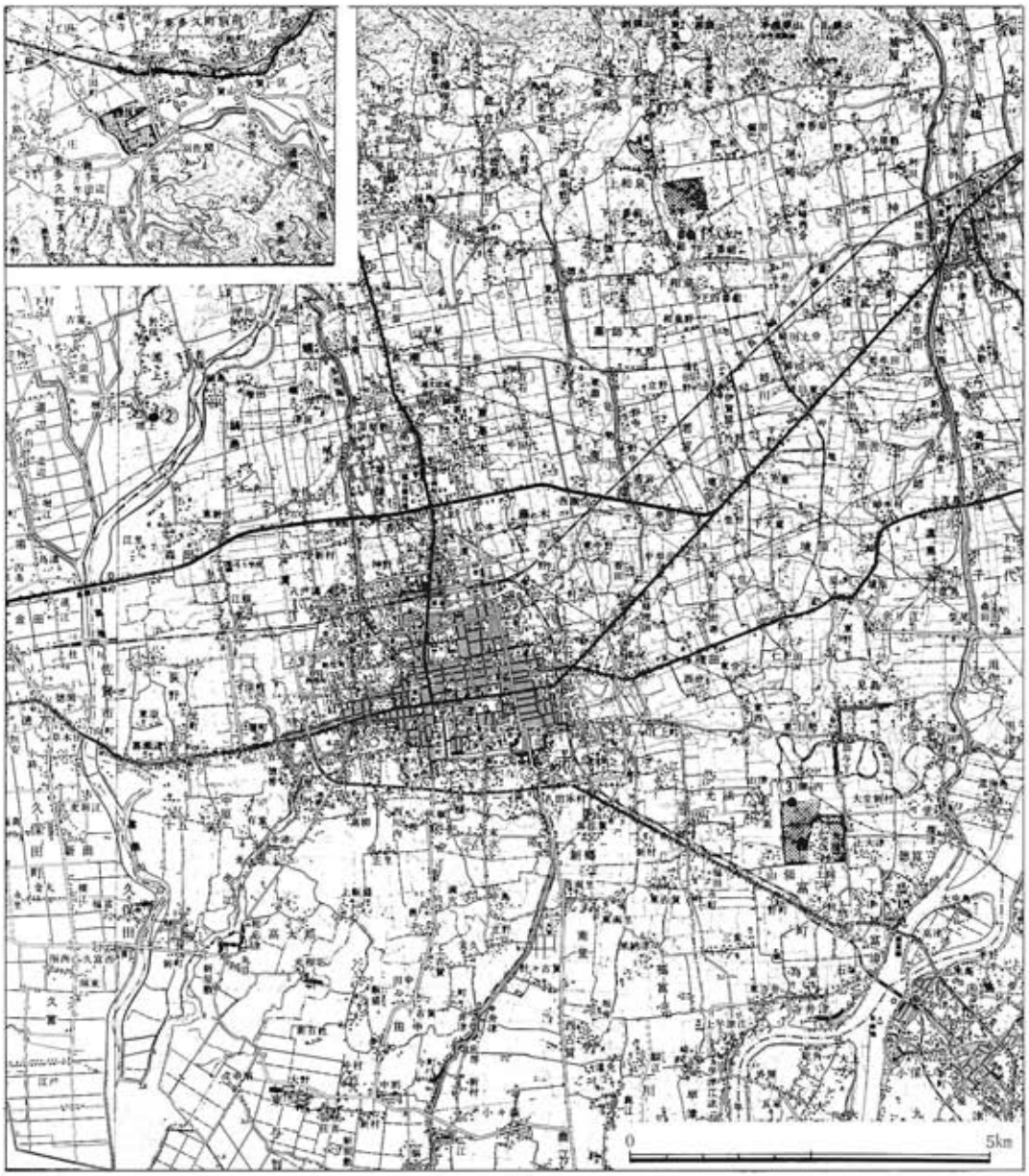
第15図
村先工区基本土層図



第16図　千代田町千代田工区試掘溝配置図

第17図　東脊振村下石動工区試掘溝配置図

2．佐賀西部地区の調査



1．佐賀市（久保泉西部地区）
2．佐賀市（久保泉東部地区）
3．多久市（多久東部地区）
4．諸富町（諸富工区）

① 泉遺跡
② 池の上三本松遺跡
③ 唐人廟遺跡

第18図　佐賀西部地区周辺地形図

(1) 佐賀市（久保泉西部地区・久保泉東部地区、第19・20図）

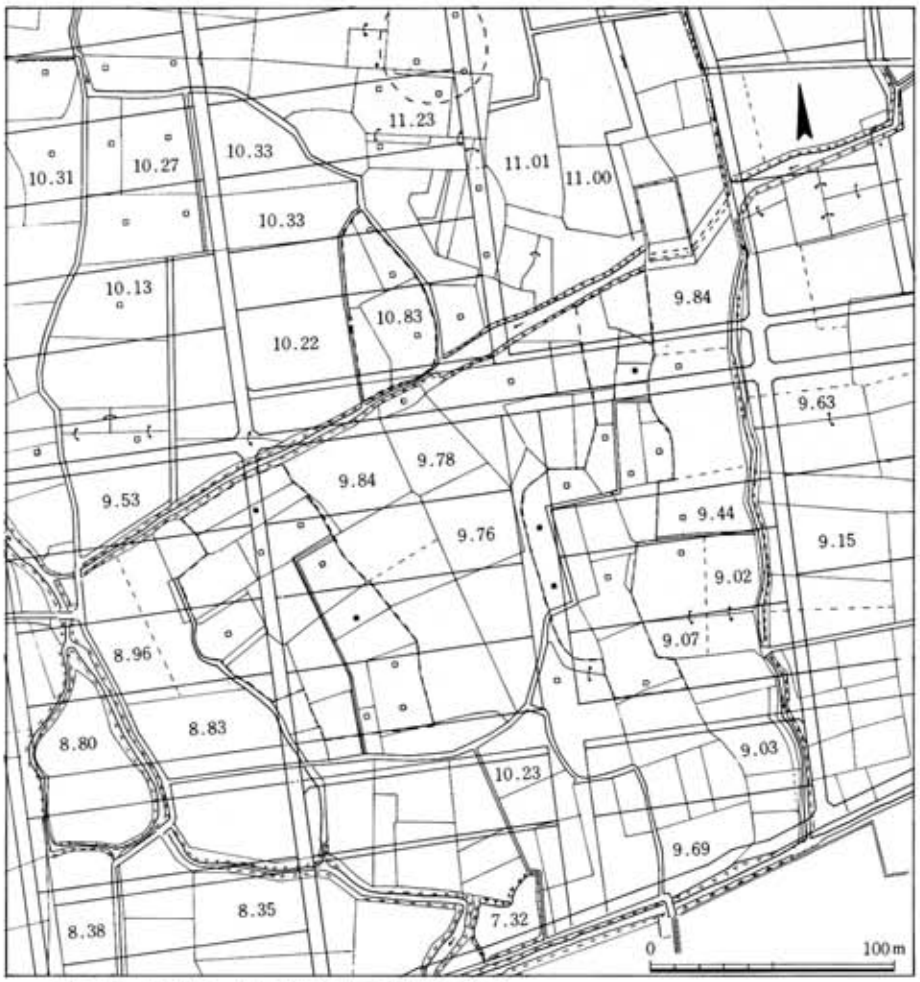
久保泉西部地区は、佐賀市久保泉町大字上和泉に所在する。巨勢川の支流等が作る複合扇状地上の標高13～16mの水田・畑地に立地する。地区一帯は縄文時代～近世までの遺跡が密集している地域である。当地区も北側で屋形遺跡、南側で草場遺跡という弥生時代～中世の遺物散布地が周知されていた。

調査は対象地12haのうち水路予定地及び削平部分に52の試掘溝を設けて行なった。その結果、久保泉小学校西側の“谷”にあたる部分で溝跡・遺物包含層が検出され、弥生土器・土師器が出土した。北部丘陵からの流れ込みとも考えられる。

久保泉東部地区は、佐賀市久保泉町大字下和泉に所在する。県道脊振―佐賀線の東に接する標高約９～11mの複合扇状地上の水田部に立地する。地区一帯は弥生～古墳時代及び中世の遺物散布地である泉遺跡・上和泉遺跡として知られており、地区南側では昭和60年度圃場整備事業に伴って発掘調査が行なわれている（本書77頁）。

調査は対象地12haに76の試掘溝を設けて行なった。その結果対象地南側の微丘陵部分に３ヶ所の遺跡が確認された。Ａ地区で確認された遺構は小穴１個で、遺構の密度は疎であると思われるが、土師器片は多く散布していた。Ｂ地区では竪穴が検出され古墳時代の土師器が出土した。Ｃ地区は、Ａ・Ｂ地区の東の丘陵で溝跡・竪穴が検出され、古墳時代～中世の土師器が出土した。Ａ～Ｃ地区合わせて約12,000m²の古墳時代～中世の集落跡の存在が推測される。

第19図　佐賀市久保泉西部地区試掘溝配置図



第20図　佐賀市久保泉東部地区試掘溝配置図

(2)　諸富町（諸富工区、第21図）

諸富工区は、諸富町大字大堂に所在する。佐賀市・諸富町境をなす新川と県道神埼―諸富線に挟まれた標高2.3～2.8ｍの沖積平野に立地する。地区中央に位置する大田本村集落は、享禄年間（1528～1532）に太田資元が下向してきてそのまま土着したと伝えられる太田城跡と推定されており、また当集落一帯は弥生～古墳時代の遺物散布地としても知られている。

調査は対象地105haのうち水路予定地に89の試掘溝を設けて行なった。その結果、３ヶ所で遺跡の存在が確認された。地区北西部に設けた第19～24試掘溝からは溝跡・小穴が検出され、弥生時代終末期土器、６～８世紀の須恵器・土師器、中世の土師器・青磁・白磁等が出土した。また太田本村集落東側の第８～14・81～84試掘溝で井戸跡・溝跡・小穴が、集落西側の第１～６試掘溝で小穴がそれぞれ検出され、弥生土器、中世～近世の土師器・瓦器・青磁・白磁等が

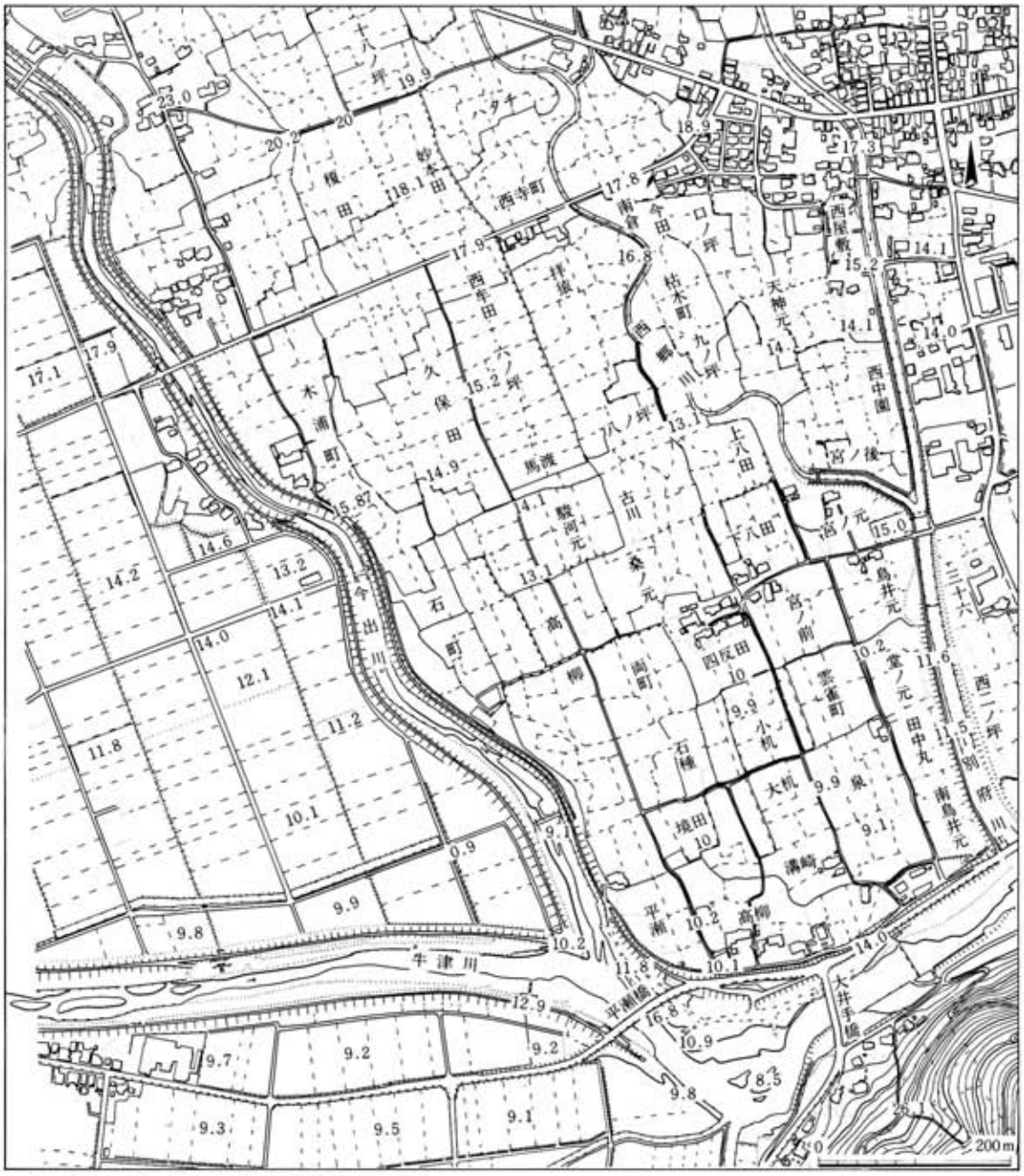
第21図　諸富町諸富工区試掘溝配置図

出土した。それぞれの地区で弥生時代～近世の広範な集落跡の存在が推測され、特に中世～近世期の集落跡の存在は太田城跡との関係で注目される。

(3) 多久市（多久東部地区）

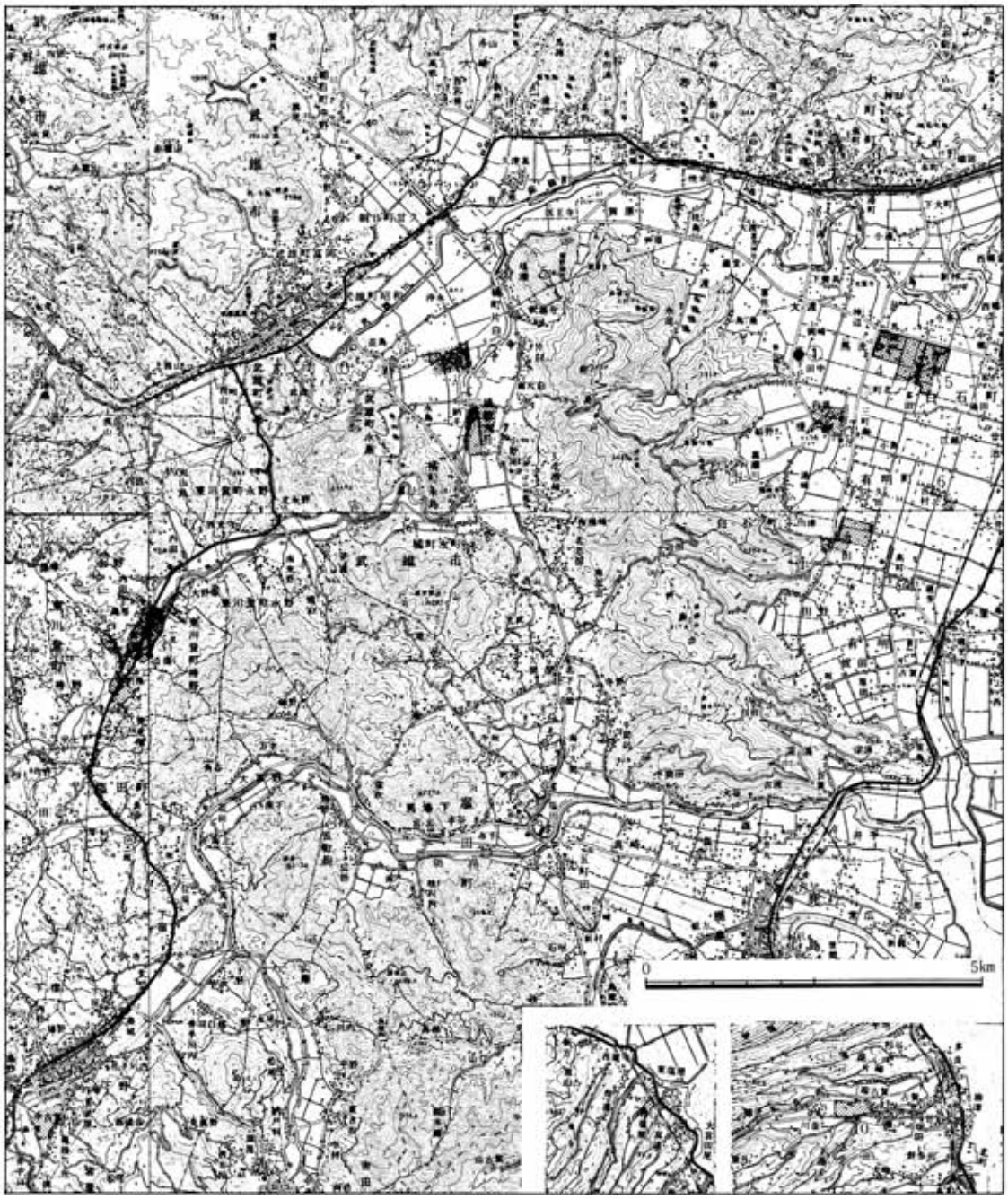
多久東部地区は、多久市東多久町大字別府・南多久町大字下多久に所在する。今出川と別府川によって形成された緩やかな傾斜をもつ扇状地状の水田部で、標高は約８～15ｍである。対象地区の600ｍほど北の地点には縄文～古墳時代の集落跡である大工田遺跡が、今出川を隔てて西へ500ｍの地点には58年度に調査を実施した摺ヶ元遺跡（古墳時代前期）、更に西へ300ｍの所に中小路増富遺跡（弥生・平安時代集落跡）が所在する。また地区一帯は、条里地割りがよく残っている（第22図）。

調査は対象地25haのうち水路予定地及び削平部に248の試掘溝を設けて行なった。その結果、流れ込みによると思われる縄文土器・弥生土器・土師器・青磁等が出土したが、遺構は検出されなかった。



第22図　多久市多久東部地区試掘溝配置図

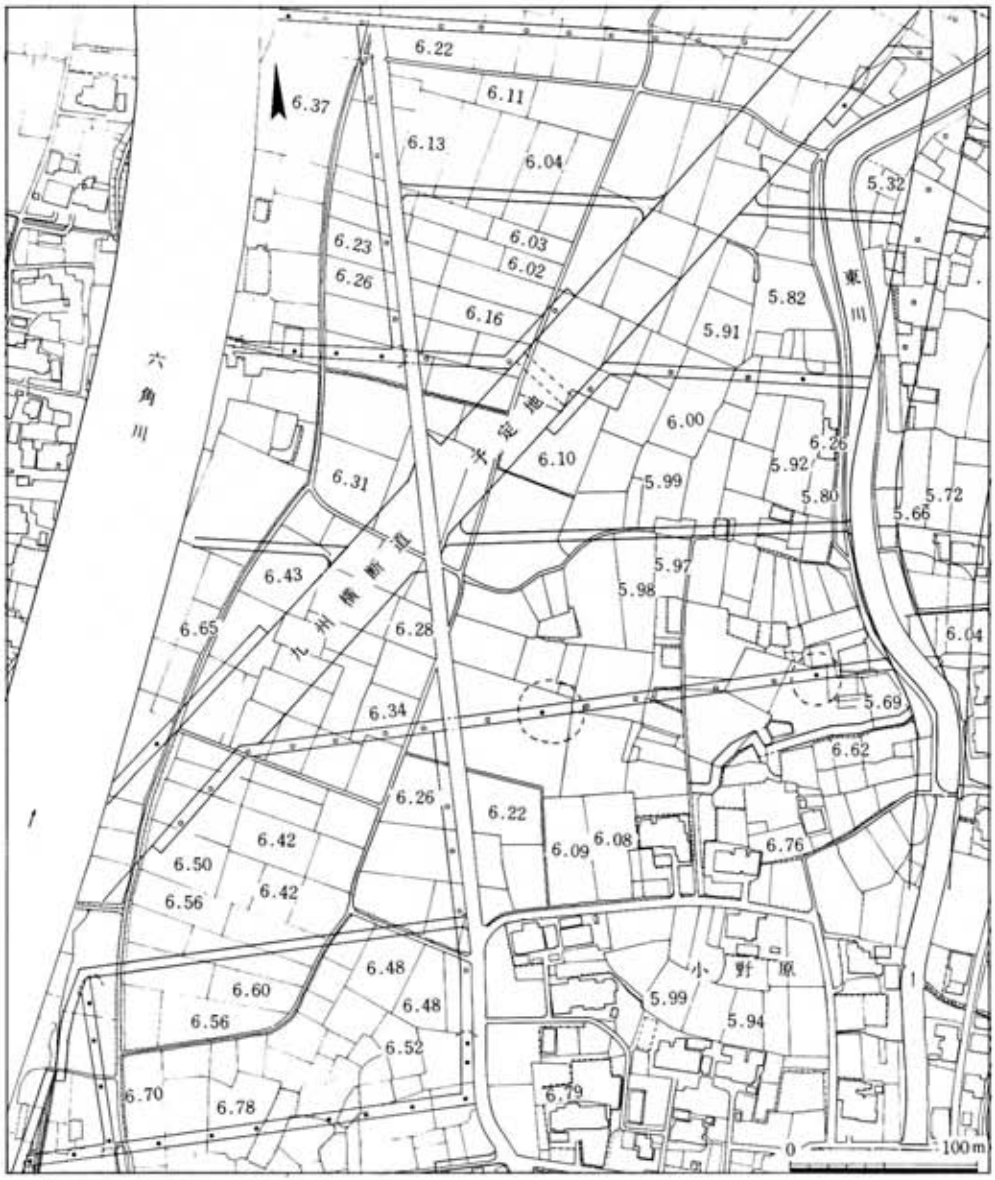
3．佐賀南部地区の調査



1．武雄市（武雄南部地区）
2．武雄市（橘地区）
3．武雄市（川登地区）
4．白石町（白石西第１期地区）
5．白石町（白石西第２期地区）
6．白石町（白石西第３期地区）
7．白石町（白石西第４期地区）
8．有明町（有明第３地区）
9．鹿島市（西塩屋地区）
10．太良町（多良地区）
11．嬉野町（下岩屋地区）

① 馬洗上黒木遺跡

第23図　佐賀南部地区周辺地形図



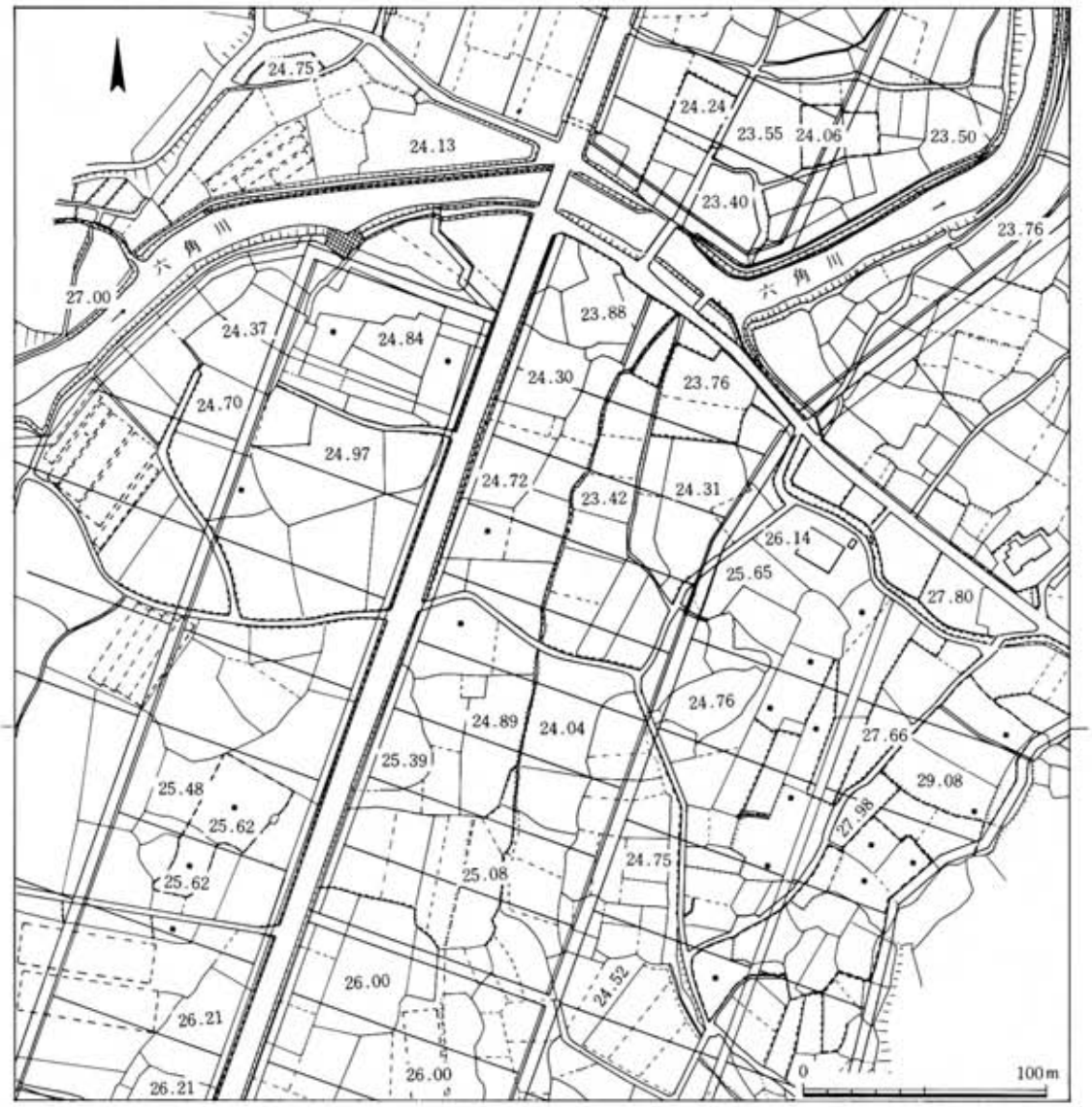
第24図　武雄市橘地区試掘溝配置図

(1)　武雄市（武雄南部地区・橘地区・川登地区、第24・25図）

武雄南部地区は、武雄市橘町大字大日字大日に所在する。六角川左岸の標高４～５ｍの水田部に立地する。当地区の下流部には林副遺跡・庄の前遺跡が存在する。

調査は対象地20haのうち水路予定地に15の試掘溝を設けて行なった。その結果、流れ込みと考えられる若干の遺物のほかは遺構・遺物ともに検出されなかった。

橘地区は、武雄市橘町大字片白字茂手・大字大日字小野原に所在する。六角川と東川に挟ま



第25図　武雄市川登地区試掘溝配置図

れた標高5.3～8.0ｍの水田及び畑地である。六角川の自然堤防上には弥生時代～中世の遺跡が広がっている。本地区内にも茂手遺跡・みやこ遺跡・小野原遺跡が知られている。

調査は対象地21haのうち水路予定地に64の試掘溝を設けて行なった。その結果、調査地区南部、九州横断自動車道計画路線の南側に設けた試掘溝より井戸跡・土壙・溝跡・小穴等が検出され、弥生土器・磁器が検出された。約30,000㎡の広がりをもつ中世を中心とする集落の存在が推測される。

川登地区は、武雄市東川登町大字袴野に所在する。六角川の上流部の潮見川と国道34号線が

交差する付近の標高23～30ｍの水田・畑地に立地する。対象地内に古館遺跡（中世城館跡）・二又遺跡（縄文時代遺物散布地）が知られていた。

調査は対象地22haのうち水路部及び削平部に約70の試掘溝を設けて行なった。その結果、対象地中央に設けた４地点の試掘溝より溝跡・集石遺構・小穴等が検出され、土師器・陶磁器・滑石製品等が出土した。それぞれの地点で中世の集落跡の存在が推測され、特にＡの地点は吉祥寺跡、Ｂの地点は射手塚と称されており遺跡との関連が考えられる。

(2)　白石町（白石西第１期・白石西第２期・白石西第３期・白石西第４期地区）

白石西第１期地区（馬田地区）は、白石町大字馬洗に所在する。杵島平野の北部、六角川左岸の標高約２ｍの低平な沖積平野上に立地する。地区北西端には、古代～中世の遺物散布地である馬田遺跡が含まれており、また北東方の今泉集落付近も同時代の遺物散布地、今泉遺跡が知られていた。

調査は対象地29haのうち水路部及び削平される微高地部分に54の試掘溝を設けて行なった。その結果、地区南部の墓地南側に設けた試掘溝で溝跡・落ち込み状遺構、その東部に設けた試掘溝より杭列が検出された。遺物としては磨耗した土器小片・土錘等が出土しているが、埋土の状態から近世期以降のものと考えられる。

白石西第２期地区（伊ヶ代地区）は、白石町大字今泉に所在する。白石西第１期地区の東に接する標高約２ｍ前後の低平な水田部に立地する。当該地区の北東部に接して古代～中世の遺物散布地として知られる今泉遺跡が、地区南方の多田集落を中心とした地域には弥生～室町時代の遺物散布地多田遺跡が知られていた。また地区一帯は条里的地割りもよく残っている。

第26図　白石町白石西第３期地区試掘溝配置図　▼

調査は対象地24haのうち水路予定部に29の試掘溝を設けて行なった。その結果地区南部に設けた試掘溝より溝跡・土壙が検出され、染付・合子・土器が出土した。これらの遺物は比較的磨耗を受けていないことから近くに江戸時代の集落跡が存在するものと考えられる。

白石西第３期地区（第26図）は、白石町大字廿治（はたち）に所在する。杵島平野の中央部、標高２ｍ前後の低平な水田部に立地する。当地区内に所在する吉村（よしむら）集落付近は中世の遺物散布地、吉村遺跡として知られていた。

調査は対象地15haのうち水路予定部に29の試掘溝を設けて行なった。その結果地区東部に設けた第４試掘溝より土壙状遺構が検出されたが遺物は出土しなかった。地区中央の第４試掘溝では小穴、第10試掘溝では暗灰色の深い堆積が見られ、竹・木片が出土した。地区西部の第15試掘溝で落ち込み状遺構が検出され、土師器等の土器が出土した。溝渠を挟んで南の第19試掘溝では土壙が検出され、13世紀頃の青磁碗・土師器が出土した。地区西部を中心に中世の集落跡の存在が推測される。また、地区内には２基の板碑（１基は庚申塚）が存在し注意を要する。

白石西第４期地区（第27図、図版７）は、白石町大字堤（つつみ）に所在する。杵島山東麓の標高3.1～

第27図　白石町白石西第４期地区試掘溝配置図

3.7mの水田部に立地する。地区一帯は弥生時代～中世の遺物散布地である堤遺跡として知られ、また地区南方の独立小丘陵は隆城跡として知られる。隆城は、高城・須古城とも呼ばれ、文治3（1187）年に白石五郎通益が築城したと伝えられ、その後天文年間（1532～1554）にこの地に移ってきた平井氏の居城となり、天正2（1574）年以降の龍造寺氏の攻撃によって落城、龍造寺氏の居城になった。隆城の東には外堀跡が残り、また北と南には外堀跡の地割りが残る。

図版7　白石町白石西第4期地区（南から）

調査は対象地9haのうち水路部及び外堀跡にあたる部分に20の試掘溝を設けて行なった。その結果堀跡と思われる部分の北側に沿って土塁と考えられる高まりが見られた。遺物は出土しなかった。

(3)　有明町（有明第3地区）

有明第3地区は、有明町大字辺田に所在する。杵島平野南部の標高2.3～2.5mの低平な沖積平野部に立地する。地区西方の杵島山系東麓には稲佐遺跡や稲作古墳群等多くの遺跡が知られており、当地区内にも弥生時代～中世の遺物散布地である辺田二本松遺跡が知られていた。

調査は対象地32haのうち水路予定地に14の試掘溝を設けて行なった。その結果、遺構・遺物ともに検出されなかった。

(4)　鹿島市（西塩屋地区）

西塩屋地区は、鹿島市大字音成に所在する。多良岳山麓から放射状に走る小丘陵によって区分される谷平野のうち七浦漁港に面する地区である。地区を挟む丘陵上には念田遺跡・草場遺跡等の縄文～弥生時代の遺物散布地が知られていた。

調査は対象地27haのうち草場遺跡縁辺に当たる部分に8の試掘溝を設けて行なった。その結果、遺構・遺物ともに検出されなかった。

(5)　太良町（多良地区）

多良地区川原工区は、太良町大字多良に所在する。多良川によって作られた平野部のうち、多良川右岸の標高19～30mの地区である。周辺の丘陵上には喜三郎遺跡等の縄文時代の遺物散布地や城跡等が所在する。

調査は対象地13.4haのうち削平部を中心に30の試掘溝を設けて行なった。その結果、遺構・遺物ともに検出されなかった。

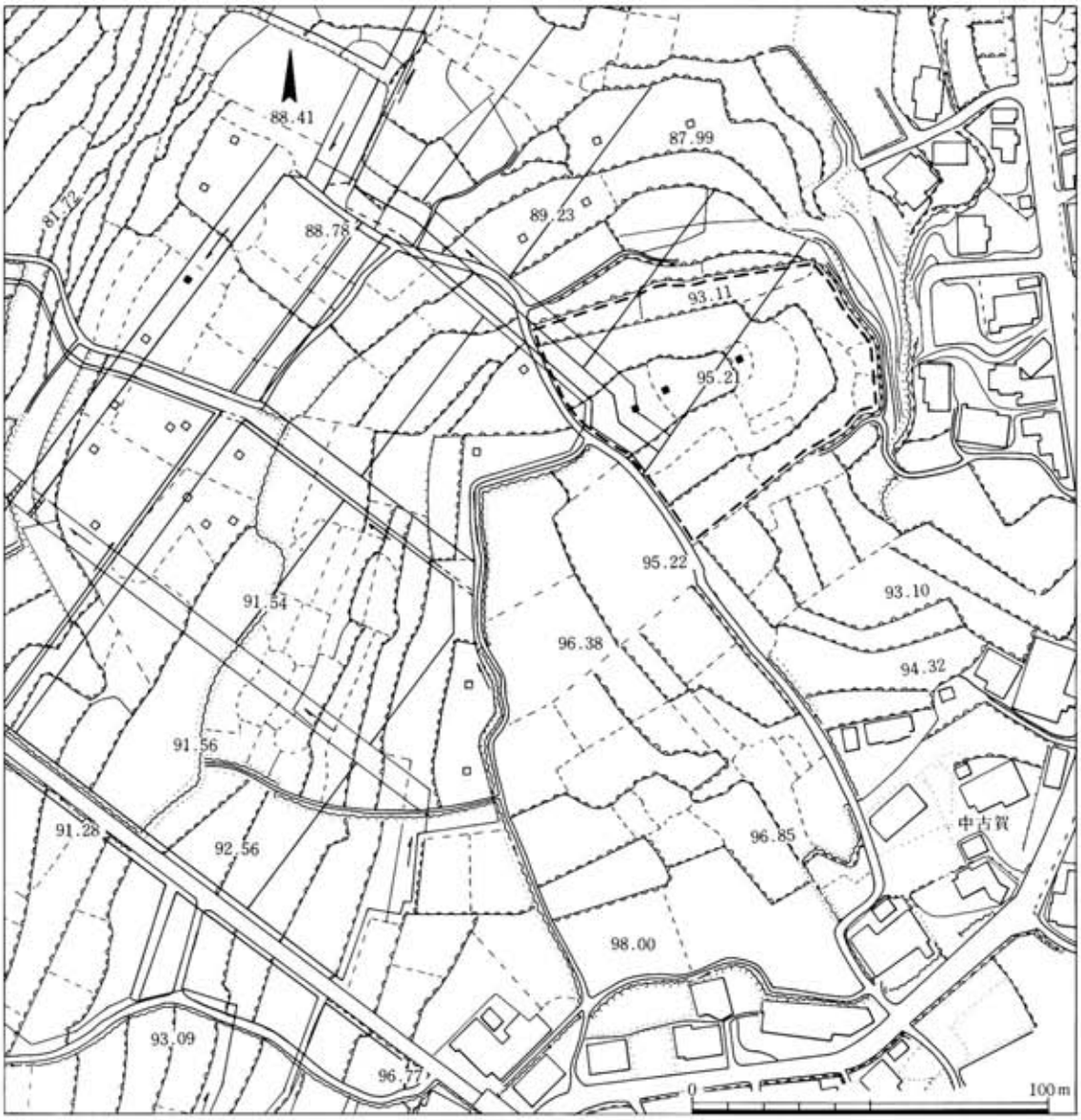
(6)　嬉野町（下岩屋地区、第28図）

下岩屋地区は、嬉野町大字岩屋川内に所在する。塩田川の河岸段丘上の標高80～98mの水田部に立地する。地区一帯は、辻遺跡・原の前遺跡・田ノ頭遺跡・石丸田遺跡等縄文時代の遺物

散布地が知られていた。

調査は対象地10haに15の試掘溝を設けて行なった。その結果、地区東部に設けた試掘溝から遺構・遺物が検出された。第４・11試掘溝からは石組遺構が検出され、土師器等の土器が出土した。また、第７・８試掘溝からは縄文土器・土師器等が出土した。

以上のことから、地区の最高部にあたる一帯に約2,500㎡の近世の生活跡が存在することが推測される。



第28図　嬉野町下岩屋地区試掘溝配置図

4．佐賀北部地区の調査

1．伊万里市（東山代東部地区）
2．伊万里市（東山代西部地区）
3．伊万里市（境地区）
4．西有田町（曲川地区）
5．西有田町（大山地区）
6．西有田町（切楠農道）
7．浜玉町（横田上地区）
8．相知町（伊岐佐地区）
9．北波多村（稗田地区）

第29図　佐賀北部地区周辺地形図

(1) 伊万里市（東山代東部地区・東山代西部地区・境地区）

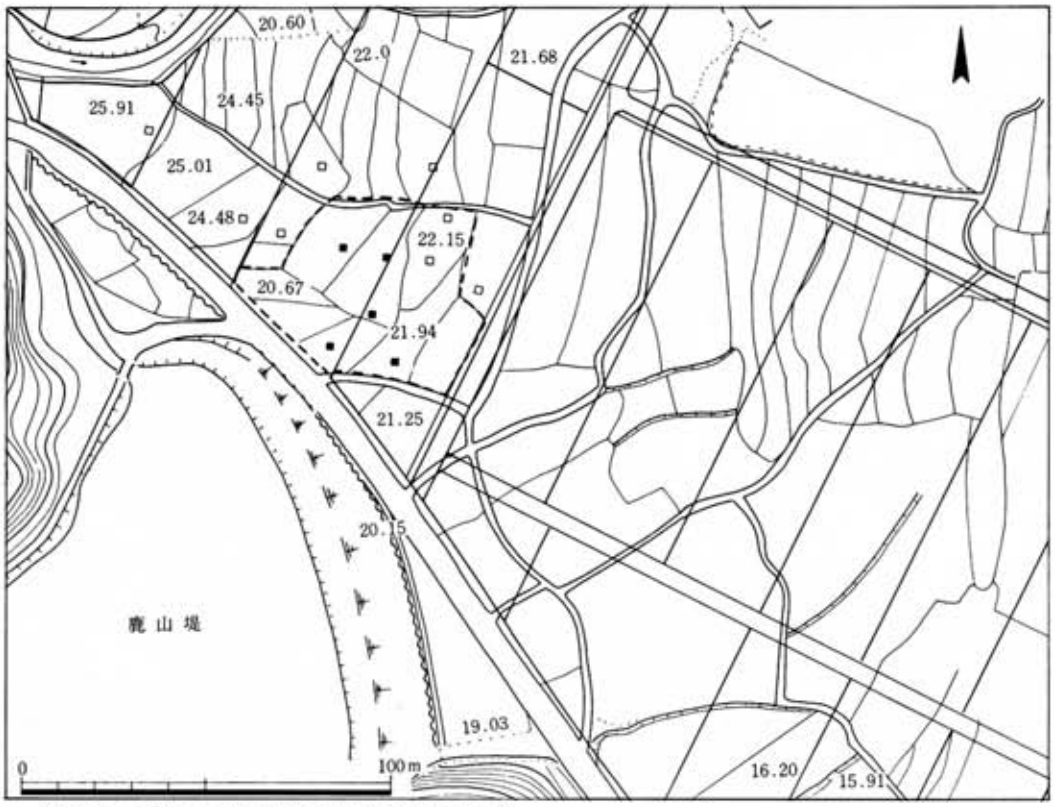
東山代東部地区は、伊万里市東山代町脇野に所在する。伊万里湾に向かって北流する脇野川によって形成された標高7～22ｍの小扇状地で、棚田として利用されている。対象地の南西0.8kmには旧石器～縄文時代の生活遺跡である白蛇山岩陰遺跡が存在する他、周辺には岩戸山貝塚や寺田貝塚等が知られている。

調査は対象地1.5haに19の試掘溝を設けて行なった。その結果、表土下約20cmで大小の岩石を含む礫層が検出された。このことから脇野川の氾濫原にあたると考えられ、遺構・遺物は検出されなかった。

東山代西部地区（第30図）は、伊万里市東山代町里字馬立場に所在する。国見山系から東流する里川によって形成された小扇状地の扇頂部付近、標高22～24ｍの部分に立地する。

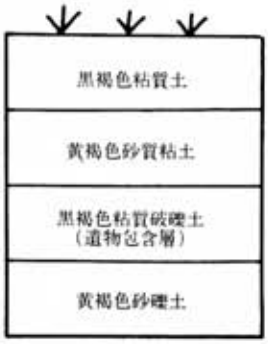
地区周辺は伊万里市内でも比較的遺跡の多い地域で、原始～近世に亘る様々な遺跡が点在している。南方には白蛇山岩陰遺跡や岩戸山貝塚が、東方0.7kmには昭和59年度に伊万里市教委によって調査された天神溜遺跡が、地区の南西0.5kmには近世田尻氏の居館跡と伝えられる鹿山館跡が所在し、その家臣団の居住地が地区の北方0.2kmの里丘陵上に所在する。

調査は地区の東に隣接する地区で、古墳時代前期の小貝塚が発見されたため、対象地2.7haの



第30図　伊万里市東山代西部地区試掘溝配置図

うち約1haについて13の試掘溝を設けて行なった。その結果、表土下約20cmで厚さ20～60cmの黒色粘質土の遺物包含層が検出された。層中から弥生時代終末期・古墳時代前期・平安時代後期の遺物が出土した。特に平安時代後期の小銅鏡（双鳥唐草文鏡）が出土したことは特筆される。東西50m、南北50mの2,500㎡の広がりを持つ遺跡の存在が推定される。



第31図　伊万里市東山代西部地区基本土層図

境地区は、伊万里市東山代町大字川内野字境に所在する。国見岳南麓を西流する志佐川によって開析された標高160～210mの谷水田の傾斜面に立地する。地区の北東部は文珠原と呼ばれる標高500m程の準高原が広がっており、縄文時代～中世の遺跡群や、中世松浦党関連の遺跡として著名な山ン寺遺跡が所在する。

調査は対象地8.1haに10の試掘溝を設けて行なった。その結果、中～近世の開墾による削平を受けており、遺構・遺物ともに検出されなかった。

(2)　西有田町（曲川地区・大山地区・切楠農道、第33図）

曲川地区は、西有田町大字曲川に所在する。有田川の支流蔵宿川が国見山系東麓を削って作った谷水田で、標高は51～107mである。地区北側の丘陵上～裾部にかけて所在する縄文時代の遺物散布地である壁岩遺跡・川良遺跡・横久保遺跡をはじめ、地区周辺には多くの遺跡が存在する。

第32図　西有田町曲川地区基本土層図

調査は対象地18haのうち、水路部及び削平予定部に80の試掘溝を設けて行なった。その結果、地区西方で近世期以降に解体された家の跡と思われる遺物包含層が検出された。また、地区東部で小穴1が検出されたが遺物は出土しなかった。

大山地区は、西有田町大字大木に所在する。有田川の支流、浄源寺川が国見山系東麓を削って作る扇状地上に立地する。標高は42～60m。地区周辺には多くの遺跡が存在し、当地区内にも北側に山本遺跡、西側に東園遺跡という縄文時代の遺物散布地が知られている。

調査は対象地18haのうち、削平を受ける部分に94の試掘溝を設けて行なった。その結果、4箇所から遺構・遺物が検出された。遺構は小穴及び土壙で、遺物は少数の陶磁器片等が出土しており、中～近世の集落跡と考えられる。

切楠農道については、昭和61年度工事予定地区について踏査を行ない、遺跡の存在が考えられた西有田町大字曲川の1地点について調査を実施した。本地区は、国見山系の一支峰八天岳（標高707.4m）から東に延びる丘陵尾根上（標高120～130m）にあり、みかん園として利用されている。当地区は旧石器時代の遺物散布地である矢杖遺跡として周知されており、踏査時に

も黒曜石石核・剥片、サヌカイト剥片が表採された。

調査は対象地100mに4の試掘溝を設けて行なった。その結果、被覆層の一部に黒曜石剥片等の包含が見られたが、その下の層については遺構・遺物ともに検出されなかった。

第33図　西有田町大山地区試掘溝配置図

(3) 浜玉町（横田上地区）

横田上地区は、浜玉町大字横田上に所在する。鏡山東方、横田川右岸の小丘陵上に立地する。本地区は、みかん園造成に先立って確認調査を実施した。本地区は弥生～古墳時代の遺物散布地・墳墓である白野遺跡として知られていたが、後世の開削によってかなり削平を受けているものと思われた。

調査は対象地4.2haに20の試掘溝を設けて行なった。その結果、丘陵上より近世の改葬による拾い残しと思われる人骨・釘が検出された。また丘陵下部では、土師器・須恵器が出土したが、遺構は検出されなかった。

(4) 相知町（伊岐佐地区）

伊岐佐地区は、相知町大字伊岐佐に所在する。伊岐佐川によって形成された谷水田のうち、左伊岐佐川左岸及び伊岐佐下集落南側の水田部について調査を行なった。周辺の水田部に立地する遺跡としては、昭和58年度に調査を実施した伊岐佐中原遺跡、昭和59年度の伊岐佐伊良尾遺跡が存在する。

調査は対象地７haに56の試掘溝を設けて行なった。その結果、明瞭な遺構・遺物は検出されなかった。

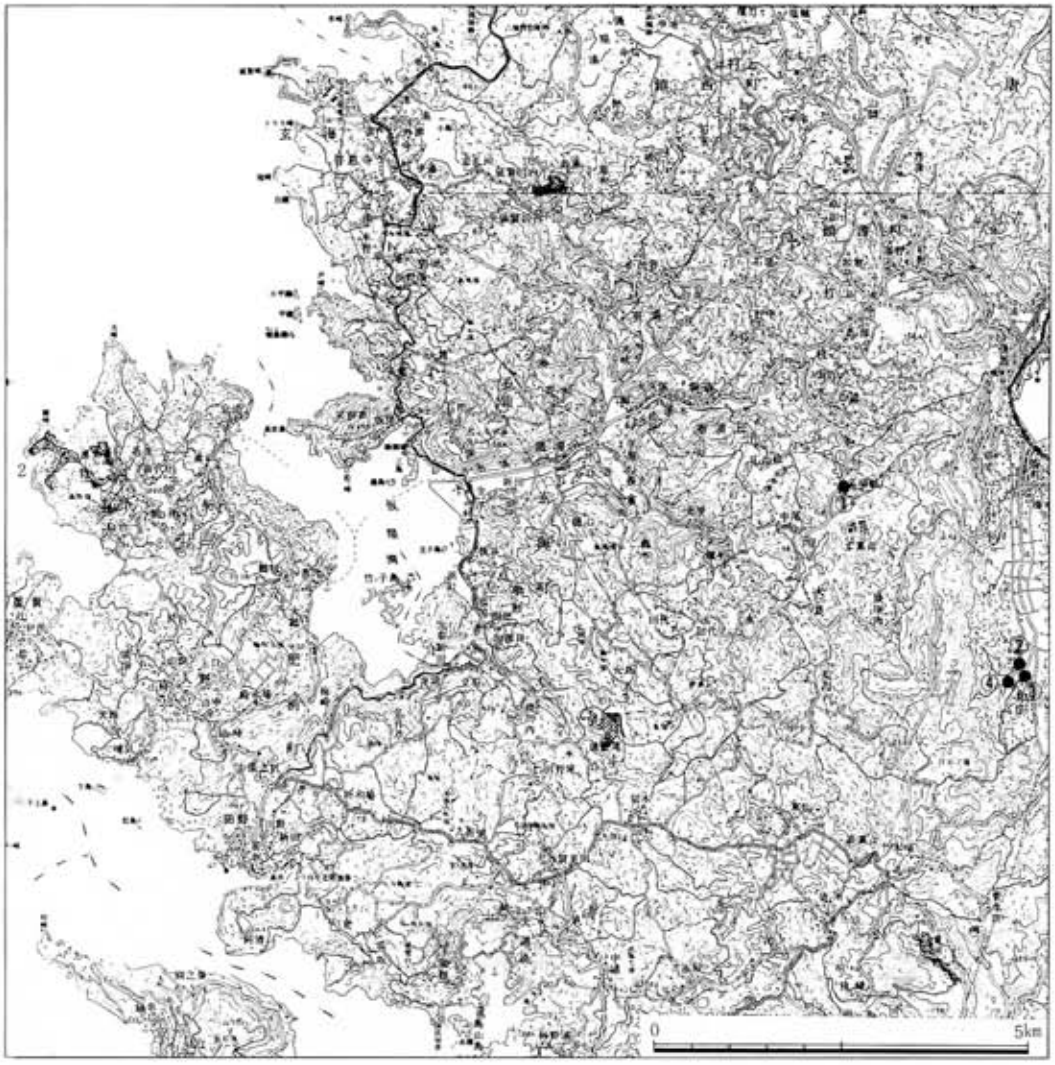
(5) 北波多村（稗田地区 、第34図）

稗田地区は、北波多村大字稗田に所在する。松浦川の支流徳須恵川が作る徳須恵盆地の東部、標高3.8～4.8mの水田部に立地する。今回の調査地区の南西微丘陵上には弥生時代～中世の遺物散布地である稗田遺跡が、北部水田には弥生時代～古代の遺物散布地である川畦遺跡が知られていた。また昭和13年２月の河川改修事業の際発見された徳須恵支石墓群からは、十数基の支石墓が検出され銅鉾等多数の遺物が出土している。

調査は対象地７haに16の試掘溝を設けて実施した。その結果対象地南側の水路予定地に設けた試掘溝より柱穴・遺物包含層が検出され、白磁碗・天目・土師器杯が出土した。稗田遺跡の北端にあたる部分と思われ、鎌倉～室町時代の集落関連の遺跡の存在が予想される。

第34図　北波多村稗田地区試掘溝配置図

5．佐賀上場地区の調査



1．唐津市（重河内地区）　　① 名場越後田遺跡

2．肥前町（今泊地区）　　② 見借野中遺跡

3．肥前町（遠見岳地区）　　③ 見借西の前遺跡

4．玄海町（湯野尾地区）　　④ 見借辻の尾遺跡

第35図　佐賀上場地区周辺地形図

(1) 唐津市（重河内地区）

重河内地区は、唐津市重河内に所在する。松浦川の支流広田川が作る谷水田と、それを囲む丘陵上に立地する。丘陵上には旧石器時代の遺物散布地菅牟田遺跡が、熊ノ峰地区には旧石器～縄文時代の荒谷遺跡・菅牟田黒龍遺跡・谷五郎洞穴等が、また一帯には室町～江戸時代の積石状墓地遺構も分布している。

調査は対象地12.8haに43の試掘溝を設けて行なった。その結果、黒曜石・安山岩剥片・陶磁器（唐津・伊万里）・陶枕等の散布が見られたが、遺構は検出されなかった。周辺の丘陵上に縄文時代・中世の遺構が存在するものと考えられる。

(2) 肥前町（今泊地区・遠見岳地区）

今泊地区は、肥前町大字納所に所在する。遠見岳の西側に広がる台地上に位置し、旧石器～縄文時代の遺跡が濃密に分布する地域で、いたるところに黒曜石の散布が見られるという状況である。

調査は対象地２haに60の試掘溝を設けて行なった。その結果、Ａ地区で小範囲に比較的良好な石器・石材の包含層が確認された。また、Ｂ地区では１ヶ所径約２ｍの不整円形土壙と縄文早期の土器片が若干検出された。広義の荒崎遺跡に含まれる。

遠見岳地区は、肥前町大字納所に所在する。

調査は対象地3.4haに70の試掘溝を設けて行なった。その結果、長田溜周辺遺跡にあたり石鏃・黒曜石片の出土をみたが、包含層がほとんどなく良好な保存状況ではなかった。

両地区あわせて遺物は黒曜石片が大部分で、まれにサヌカイトが混じり、石器は縄文時代の石鏃が約50点と圧倒的に多く、ほかは石さじ１点と今泊地区の縄文土器片数点である。

(3) 玄海町（湯野尾地区・値賀河内地区）

湯野尾地区は、玄海町大字湯野尾に所在する。座川上流の台地上にあり、旧石器～縄文時代の遺物散布地と思われる湯野尾下溜遺跡にあたる。

調査は対象地１haに約100の試掘溝を設けて行なった。 その結果、黒曜石片がまれに出土する程度で石器は出土しなかった。遺構も認められなかったが試掘溝の１ヶ所から弥生時代中期の甕片１点が出土した。周辺を探ったが、耕作により遺構は荒されており不明である。

値賀河内地区は、玄海町大字値賀河内に所在する。

調査は対象地2.5haに約20の試掘溝を設けて行なった。その結果、遺構・遺物とも全く認められなかった。

6．筑後川下流用水事業に係る調査

筑後川下流用水事業に伴う埋蔵文化財確認調査は、佐賀東部導水路の神埼町鶴地区・三田川町田手地区、大詫間幹線水路の神埼町姉地区・諸富町大堂地区について実施した。

(1) 佐賀東部導水路

鶴地区（第36図）は神埼町大字鶴に所在する。吉野ヶ里丘陵西端部の標高約9.5mの畑地で、弥生～室町時代の集落・墓地である吉野ヶ里遺跡の範囲に含まれていた。対象地の西側の水田部は同年度に発掘調査を行なった馬郡遺跡１区にあたる（本書86頁）。

調査は長さ26m、幅11mの水路対象地に３の試掘溝を設けて行なった。その結果、すべての試掘溝から土壙・柱穴が検出され、弥生土器（甕・壺）、土師器（杯・高杯・甕）、須恵器（杯）が出土した。予定地内の300m²に主に弥生時代から古墳時代にかけての遺跡の存在が確認された。

田手地区は三田川町大字田手に所在する。吉野ヶ里丘陵東端部の標高約11mの畑地である。

調査は長さ10m、幅11mの対象地に１の試掘溝を設けて行なった。その結果、遺構・遺物ともに検出されなかった。

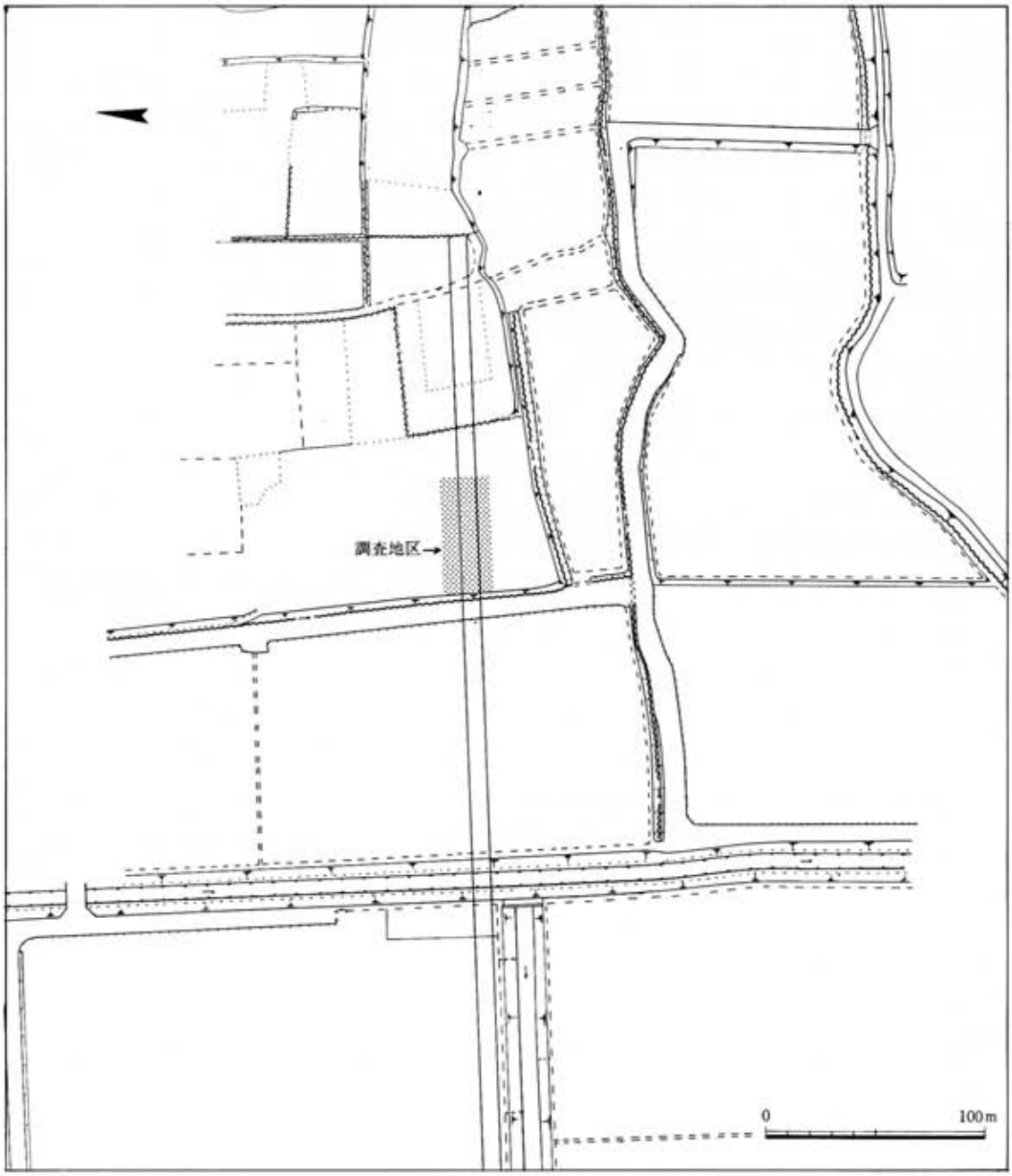
(2) 大詫間幹線水路

姉川地区は神埼町大字姉川に所在する。国鉄長崎本線と国道34号線に挟まれた標高約３mの水田地帯である。対象地の北側に横武四本黒木遺跡、南側に野田城、西側に姉川城等の環濠集落が所在する。

調査は長さ800m、幅46mの水路予定地に18の試掘溝を設けて行なった。その結果、耕作土より磨滅した土器の細片が数点出土したのみで遺構は検出されなかった。

大堂地区は諸富町大字大堂に所在する。佐賀江川南側の標高約２mの水田地帯である。対象地の東側に隣接して弥生～古墳時代の集落跡である太田本村遺跡及び中世の館跡である太田城が存在する。

調査は長さ1,000m、幅31mの水路予定地に22の試掘溝を設けて行なった（第21図）。その結果、対象地北側の３ヶ所の試掘溝から弥生～古墳時代の遺物包含層が検出された。この遺物包含層は灰褐色～黒色土で厚さが約60～70cmほどあり、多量の弥生土器・土師器・陶磁器が含まれていた。水路予定地内に約2,100m²の弥生～鎌倉時代の遺跡の存在が推測される。



第36図　神埼町鶴地区試掘溝配置図

Ⅳ．埋没条里確認調査

1．調査の概要

昭和59年度に引続き埋没条里の確認調査を実施した。調査対象地は佐賀平野のうち比較的良好な状態で条里地割りの遺存している神埼郡神埼町・三田川町、杵島郡白石町・有明町の当該年度工事地区である。

調査の結果、神埼町田道ヶ里地区では湿地であったろうと考えられる土層と溝筋と考えられる溝跡が、本告牟田地区で環濠集落に伴う生活跡、三田川町では時期不明の溝跡、白石町でも時期不明の溝跡、有明町では条里に関係すると思われる遺構は検出されなかった。なお今回の調査については、計画立案・調査等、佐賀大学教育学部日野尚志先生の御助言と御協力をいただいた。

2．調査の内容

(1) 神埼町

神埼町は田道ヶ里地区・本告牟田地区について調査を行なった。

田道ヶ里地区（第38図）は、神埼町大字田道ヶ里に所在する。神納集落の南西部一帯が工事の対象となったため調査を実施した。当該地区内には周知の遺跡は存在しないが、地区の北側に本堀朝日遺跡、西に小津ヶ里遺跡という古代～中世の遺物散布地が所在する。当該地区の条里的地割りをみてみると、周辺の良好な遺存状態に比較して、本地区では不分明である（第37図）。現在の神埼町中心街方面から流れてきた数条の溝渠が、本地区で南東流して三本松川へ合流している。標高は3.9～4.2mである（農林部による工事前測量の1/1,000地図による）[註1]。

本地区周辺の条里地名は日野氏の比定によると[註2]、本地区を含み本堀集落の存在する里を本堀里、その北の里を家中里、その北の里を駅ヶ里、本堀里の北西の里を榎田里、本堀里の西の小津ヶ里集落を含む里を小津ヶ里、その南の永歌集落を含む里を永歌里、その東、本堀里の南にあたる里を野目ヶ里、その東を曽根ヶ里とする。本堀里の東と北東にあたる里の名称は不分明である。本堀里について現存する古文書[註3]で調べてみると、8・9・17・21坪[註4]に関する記事が見られ、これらは現在の国道385号線沿いに分布している。また、家中里と榎田里に関する資料[註5]と考え合わせると、国道385号線付近には屋敷・畑地が多く、水はけのよいやや微高地だったことが推測される。

次にこれらの里が属する郷名を調べてみると、本堀里は本告・土師の両郷に属していたと知れる。家中里は土師郷、榎田里は加崎・東の両郷、小津ヶ里は加崎郷[註6]、永歌里も加崎郷[註7]、野目ヶ里については古記録には残っていないが近世には本告郷となっている。曽根里（曽我部里）は倉戸郷である[註8]。本堀里の東方の里名不明の２つの里についてみてみると、北の里については嘉元２（1304）年５月９日付本告季基譲状写に

「ゆつりたて□□□

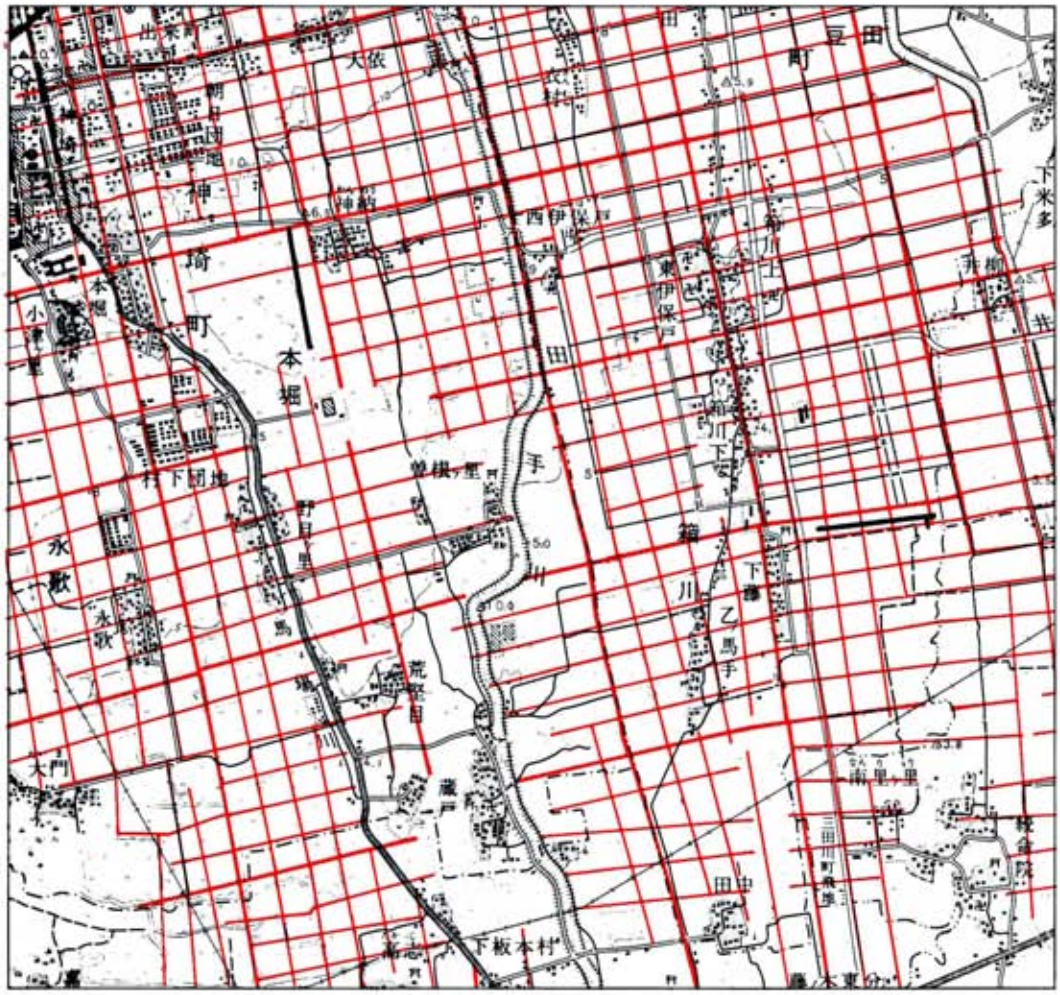
四反かこと□□□

ちうこうおうより□□□ほなり□□□(註9)　」

とあり、大依が中郷に属していたことがわかる（近世も同郷）。神納村は近世には本告郷である。

以上のことから当地区付近の郷の範囲を推定してみると、神埼駅付近一帯に範囲を持つ土師郷が北から一部本堀里に入り込んできている。本堀郷に属する他の里として河依里・牟田里があり、現在の大字本告牟田を中心とする郷と推測されるが、城原川と馬場川に挟まれた地域に範囲を持つ加崎郷に分断された形で当地区から野目ヶ里集落付近に広がっている。当地区を含む本告郷の東に中郷・南に倉戸郷(註10)が所在する。なお榎田里を東郷とする正平22年の資料は、郷の範囲からみれば誤記かあるいは他の原因を考えねばならないであろう。

調査は、本堀里１の坪から24の坪にかけて南北に幅1.2m、長さ337mの試掘溝を設けて行な



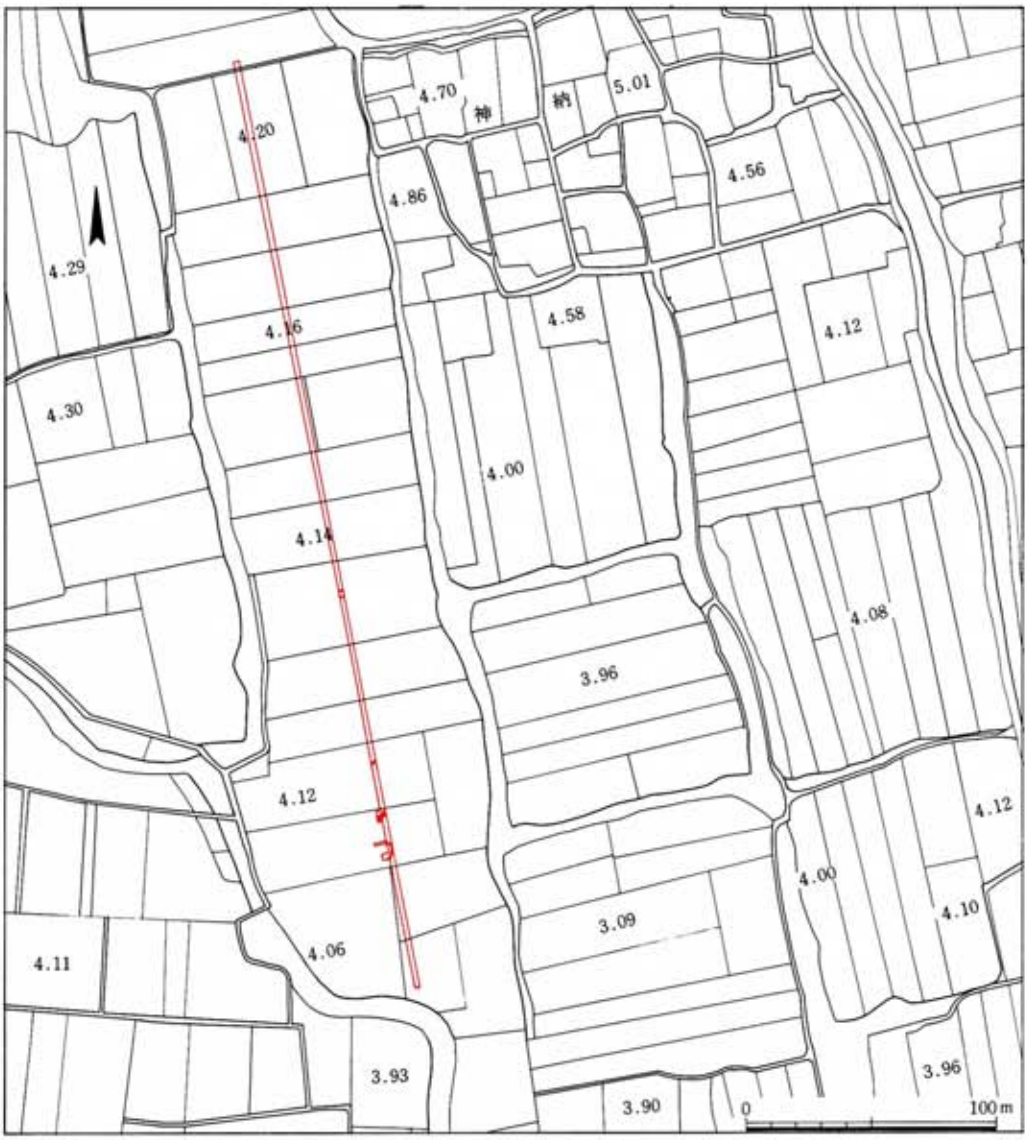
第37図　神埼町・三田川町調査対象地区試掘溝位置図（1/25,000）

った。基本土層は第39図の通りである。Ⅶ層までの深さは1～1.5mほどである。南にいくに従ってⅢ・Ⅳ層は見られなくなる。

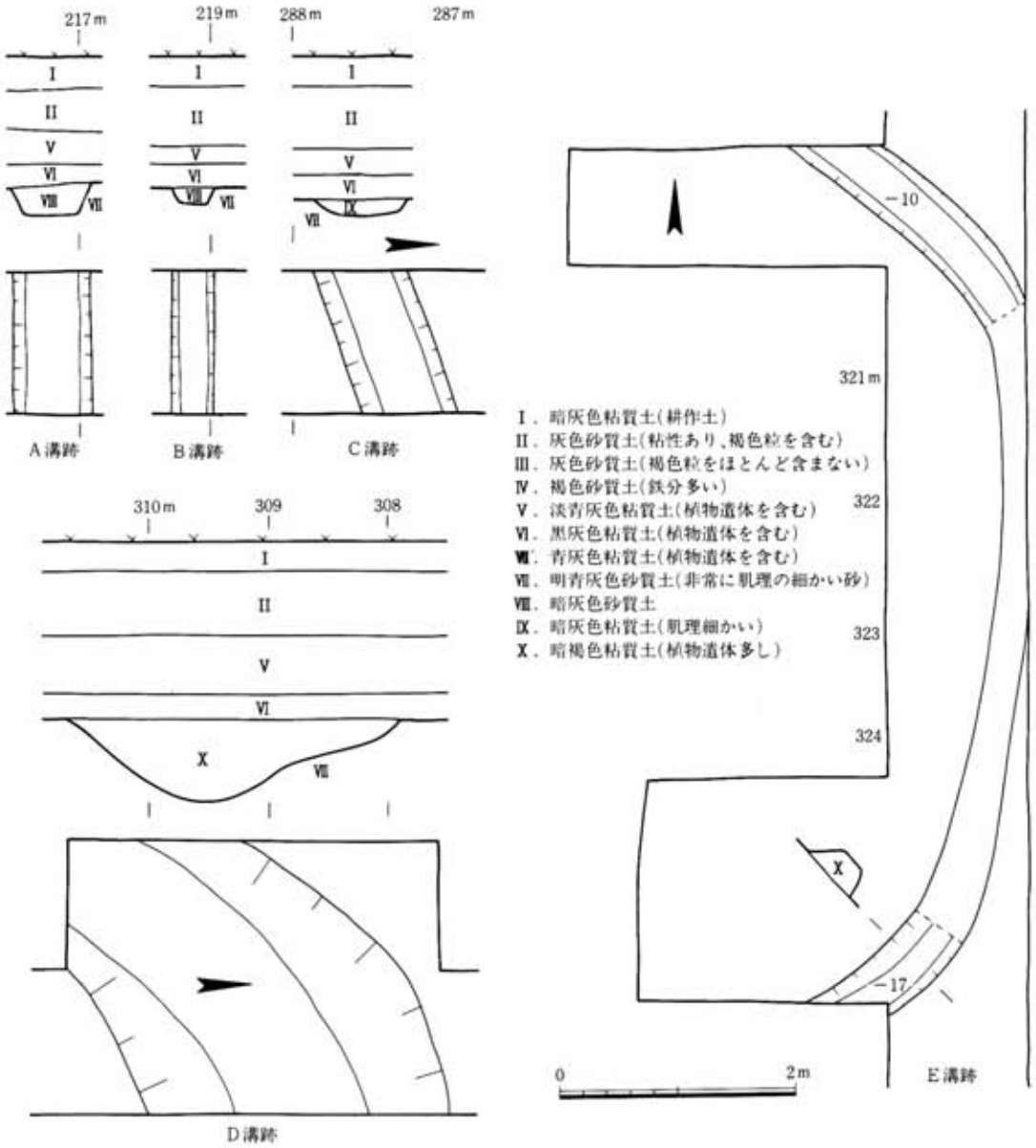
検出された遺構は溝跡５条で、試掘溝北端から測って217m、219m、287～288m、308～310m、319～327m付近でそれぞれ検出された。これらを北よりＡ～Ｅ溝跡とする。

Ａ溝跡は幅0.7m・深さ0.2m、Ｂ溝跡は幅0.3m・深さ0.1mで、いずれも試掘溝に直交して東西に走る。埋土は両溝跡とも暗灰色粘質土で遺物は出土しなかった。

Ｃ溝跡は幅0.8m・深さ0.2mで試掘溝に対してやや斜行する。埋土は暗灰色の肌理の細かい砂質土である。遺物は検出されなかった。



第38図　埋没条里確認調査神埼町田道ヶ里地区試掘溝配置図



第39図　田道ヶ里地区Ａ～Ｅ溝跡実測図

Ｄ溝跡は幅0.5ｍ・深さ0.7ｍ、試掘溝に対しやや蛇行しながら斜行する。埋土は暗褐色の腐植土で、埋土中に木の枝・葉等の植物遺体を多く含む。

Ｅ溝跡は幅0.5ｍ・深さ0.2ｍで試掘溝内で大きく屈曲する。埋土は暗褐色の腐植土で、植物遺体を多く含む。

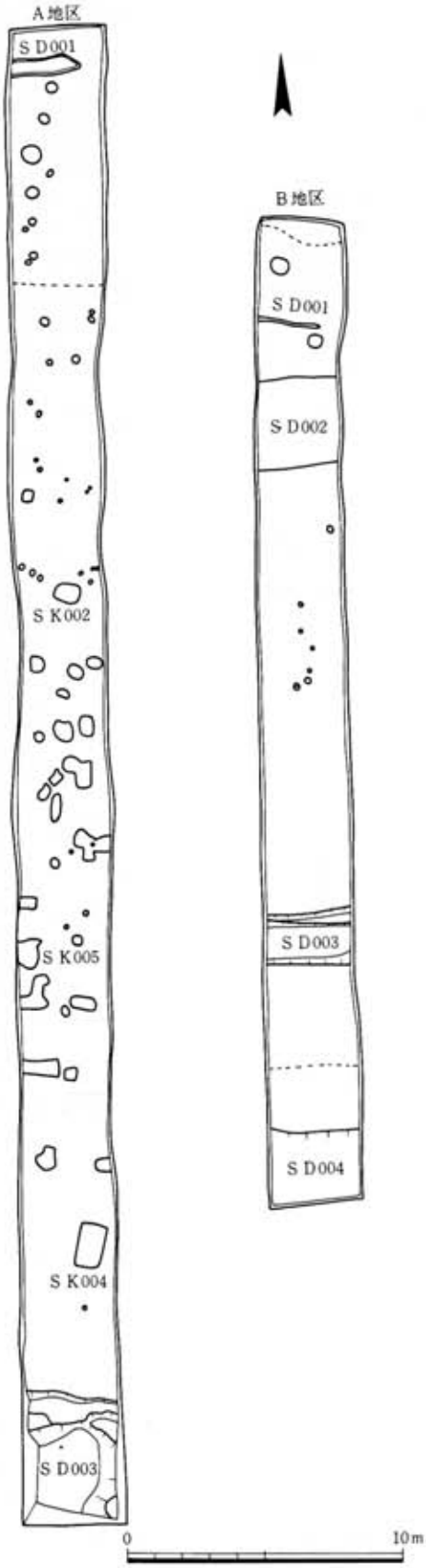
以上の調査で人工遺物は全く検出されず、時間的背景は確認できなかったが、土層から見て湿地帯ないし数次の水田面が存在したと考えられ、最下層より検出された溝跡は澪筋であった可能性がある。地元の言い伝えによると、この付近は〝芦原〟だったと言われており、調査の結果を裏付けるものである。湿地帯が広がっていたとすれば、これが土師郷と本告郷境の設定

に何らかの関係があったことが推測される。

本告牟田地区（第40図）は、神埼町大字本告牟田に所在する。城原川の西、国道34号線より南の地区が工事の対象となったため、主に環濠集落の実態を確認するために調査を行なった。当該調査に併行して、神埼町教育委員会が幹線水路部分について発掘調査を行なっており[註11]、当該調査は補足調査である。ここでは、地理的歴史的背景と調査結果の概述を行ない詳しい考察は本調査の結果報告に俟ちたい。

環濠集落については、米倉二郎氏[註12]によると〝環濠集落〟という名称は用いられていないが「戦国時代になると治安が乱れたので、各村落では一軒一軒の民家も堀をめぐらし、村全体も堀で幾重にも囲んだ」という。また深川保氏[註13]は「中世」に「平坦地域に住む土豪等が防衛上その居館を中心に堀をめぐらした」ものを「いわゆる環濠集落と」し、「濠内には家子郎党、下人・従者を一団とした武士団が居住し、平時は農業を営む者もあった」とされる。環濠集落成立の主体を農村共同体とするか、武士団ないし武士化する土豪ととらえるかは、環濠集落として同定する上で大きな論点となるところである。また防衛的要因だけでなく、居住地の排水や交通的要因等地理学的概念を含め〝環濠集落〟を更に広義にとらえることもできる。これまでにいわゆる環濠集落の発掘調査が行なわれたことがなく、その性格・構造を知る上で今回の一連の調査の持つ意義は非常に大きいといえる。

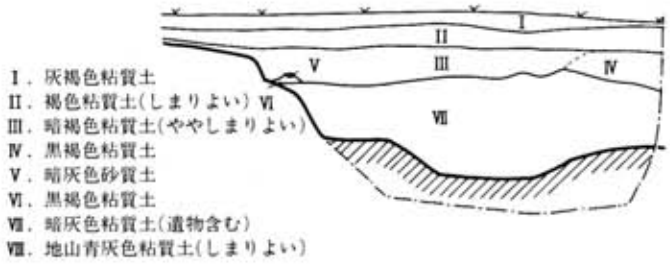
第40図　埋没条里確認調査神埼町本告牟田地区試掘溝配置図



本告牟田集落一帯は以前から「本告牟田遺跡（中世遺物散布地）」「牟田城（中世城館跡）」として周知されていた。集落内には「館の内」という地名が残っており、牟田城の中心であろうと考えられていた。〝本告牟田〟という地名については、条里制に起因するものとして、建武2(1355)年の資料(註14)に本告郷の内に「牟田里」が見え、当地域周辺に比定される。「牟田」という地名からすれば当初は相当の湿田であったろう。牟田城については延文5（1360）年8月12日および11月付高木貞房・龍造寺家経・龍造寺家平の軍忠状(註15)で、同年6月29日に神埼庄松崎・本告両城で合戦があり、その後姉河・牟田城に（菊池方が）陣を張ったことがわかる。これらの資料中の本告城・牟田城は同じ城を指すものと思われる。この合戦を含め肥前における治乱興亡は、江戸時代に成立した『九州治乱記』(『北肥戦史』)が詳しいが、この中に「斯くて近代執行は江上に招かれ、竹原に在城し、本告は牟田に居城を取構えたり。」とある。本告氏は当初勅使として京師より櫛田宮へ下ってきていたがこの地に住みつき（一説に永久年中）「神埼庄鎮守高志・櫛田両宮」の大宮司職に補任され、代々この職を務めている。室町時代には武士化して「城持ち」の一人に数えられていた。

以上の資料から「本告牟田」は城及び居住地の二面性を持つ「環濠集落」で、その主は櫛田・高志神社の大宮司職を務めており、家の子郎党も居住していたと考えられる。

調査は神埼町教育委員会が行なった地区の内「館の内」に当たる部分の東側に、神埼町教委の設定したグリットに



第41図　本告牟田地区遺構平面図　SD003溝跡土層図

あわせて、北に35×54m（A地区）、南に3.5×36m（B地区）の試掘溝を設けて行なった。その結果、中近世期の遺構・遺物が検出された。検出された遺構は、A地区で柱穴・杭穴と思われる小穴約70個、土壙3基、溝跡2条、B地区では小穴9個、溝跡4条である。遺構の内一部のものは掘り下げずに保存した。遺構は表土下約30cmで検出された。検出される面の土質はA地区で第41図の破線より北が灰色砂質土、南は黒色粘質土、B地区は北が黄褐色と黒褐色の混じった粘質土、南は灰褐色粘質土である。

表3　本告牟田地区確認調査遺構一覧表

○A地区

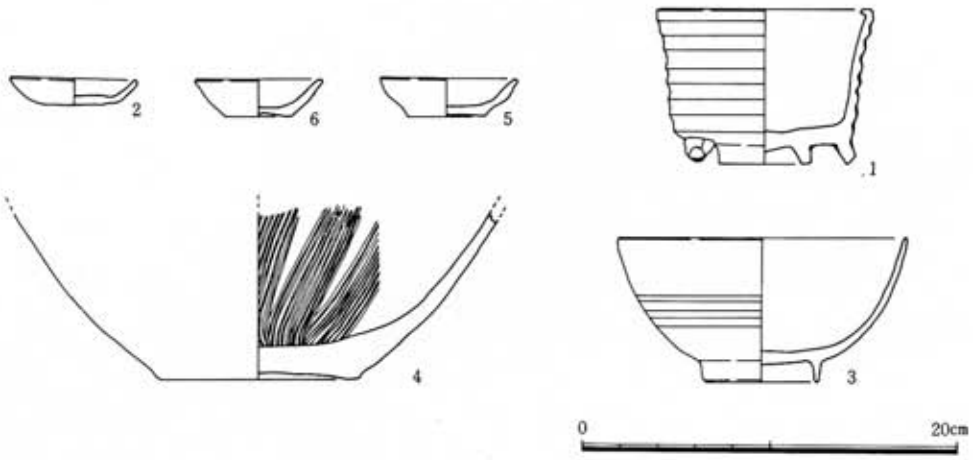
遺構番号	規模（m）			出土遺物	備考
	長さ	幅	深さ		
SD001	—	0.6	0.1	土師質土器（大皿）	
SK002	0.9	0.7	—	土師器椀・土鍋 中国青磁椀	10cm下げ保存 室町時代
SD003	—	(4.6)	1.7	土師器小皿・椀、摺鉢、火鉢、 青磁・白磁・染付、陶器椀・甕　他	近世
SK004	1.6	0.9	—	――	10cm下げ保存
SK005	1.1	0.9	0.3	摺鉢、陶器碗・甕、白磁碗	近世

○B地区

SD001	—	0.1	0.1	――	
SD002	—	3.2	—	土師器小皿	25cm下げ保存
SD003	—	1.8	0.6	土師器小片、陶器碗	近世
SD004	—	—	—	――	近現代、未掘

表4　本告牟田地区確認調査出土遺物観察表

番号	遺構番号	種類	器種	法量（cm）		胎土	釉	備考
				口径	器高			
1	A−SD003	青磁	香炉	10.8	8.2	灰白色	緑色	3脚
2	〃	土師器	小皿	6.6	1.5	明褐色	—	糸切り（右）
3	A−SK005	白磁	碗	15.2	7.6	白色	白色	体部外面下半に5本の沈線
4	〃	陶器	摺鉢	—	—	灰褐色	—	糸切り（右）
5	B−SD002	土師器	小皿	7.1	2.1	明褐色	—	〃（左）
6	〃	〃	〃	6.6	2.0	〃	—	〃　〃



第42図　本告牟田地区確認調査出土遺物実測図

図版 8

1．本告牟田地区（南東から）

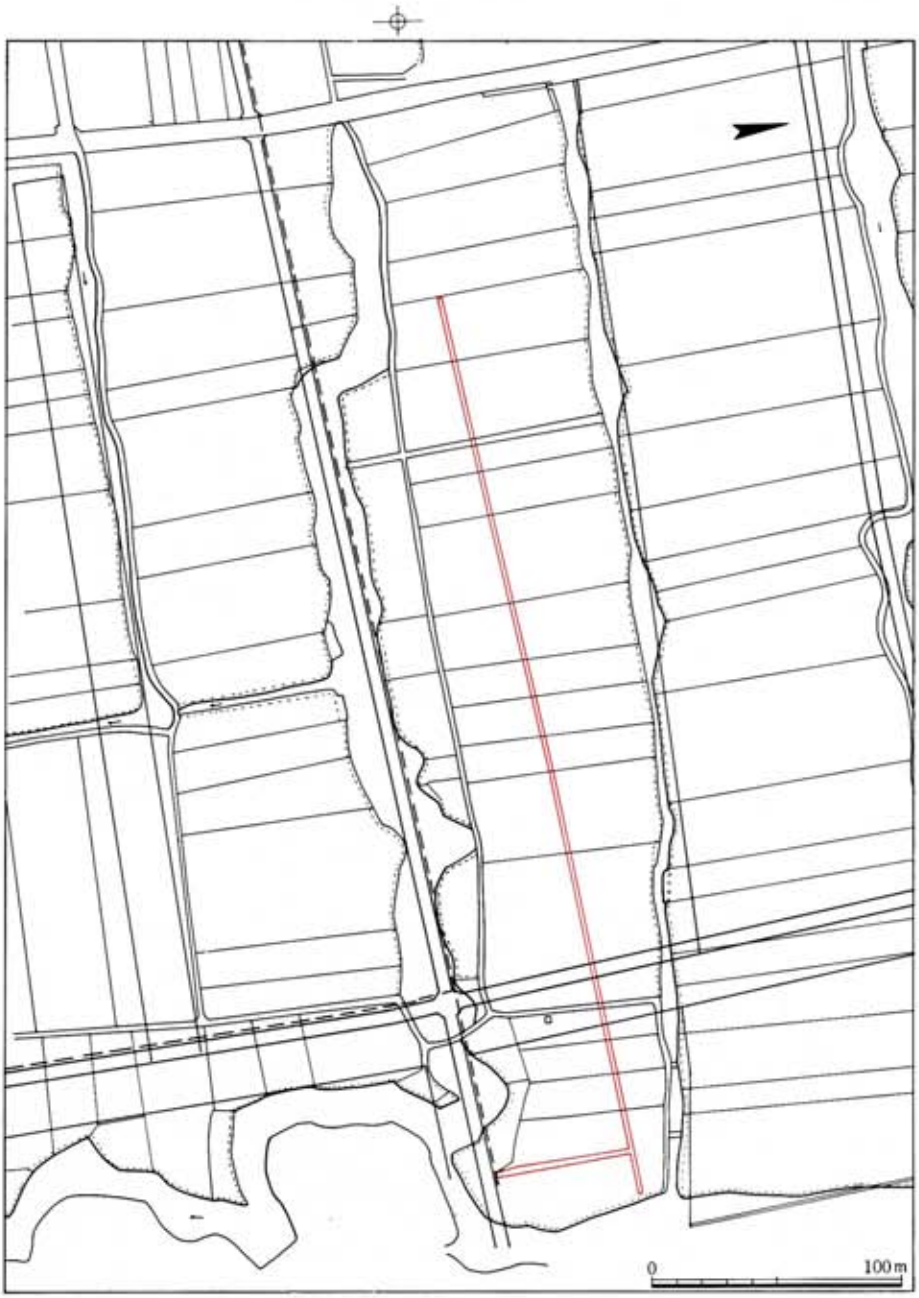
2．A地区SD003溝跡（北から）

3．B地区全景　（南から）

4．A地区SK005土壙遺物出土状況

(2) 三田川町

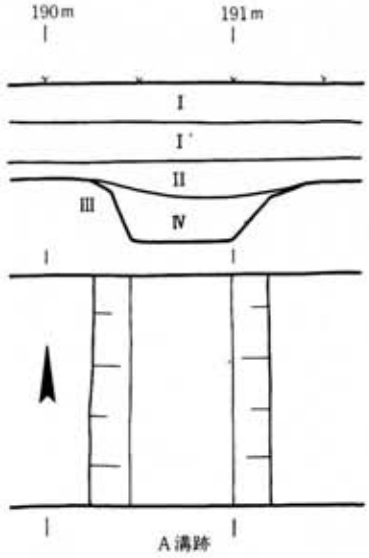
三田川町については、大字箱川の下藤集落の東一帯で圃場整備が施行されることになり調査を実施した。当該地区は標高３ｍ前後の低平な水田地帯である。日野氏の里名の比定によれば、試掘溝を設定した箇所の北の里を上藤里、南の里を下藤里とする。いずれも近世の郷村帳に見



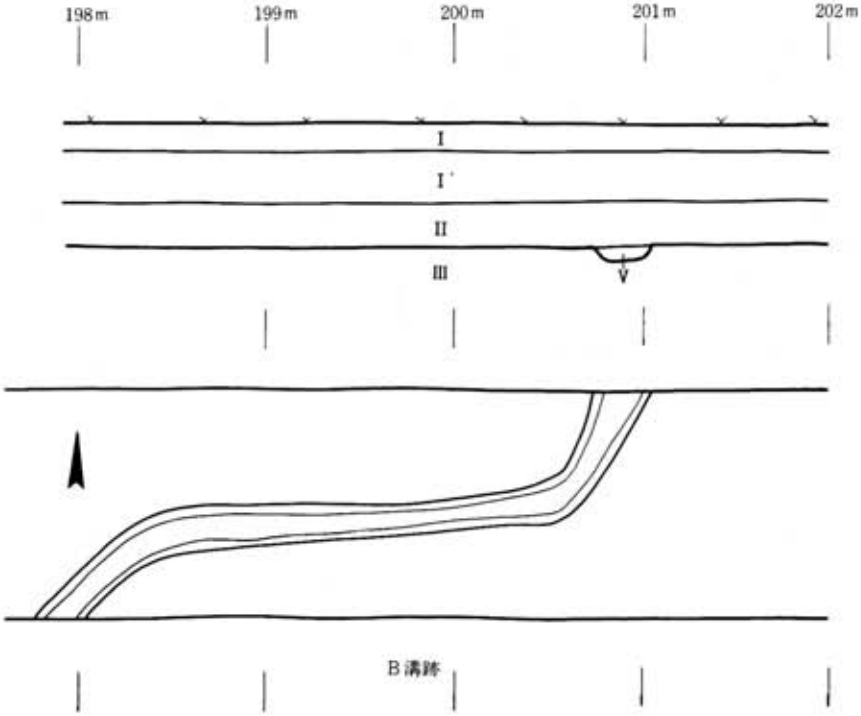
第43図　埋没条里確認調査三田川町箱川地区試掘溝配置図

られる里である。両里の西に接する里をそれぞれ甲馬手里・乙馬手里とし、下藤里の南の里を南里里とする。これらはすべて中郷に属する。東は三根郡との境となっている。

調査は下藤里２～５の坪にあたる部分に東西に幅12m・長さ370m、更にこの試掘溝の西端から353m付近より南へ長さ59mの試掘溝を設けて行なった。基本土層は第44図の通りである。検出された遺構は、溝跡２条で試掘溝西端より191m、198～201m地点でそれぞれ検出された。西のA溝跡は幅0.95m、深さ0.25mで試掘溝内を南北に走る。埋土は黒色粘質土で植物遺体を含む。東のB溝跡は幅0.5m、深さ0.15mで試掘溝内をS字状に蛇行する。埋土は黒色粘質土。いずれも人工遺物は全く含まず時期は不明であり、条里遺構との係わりも確認できなかった。



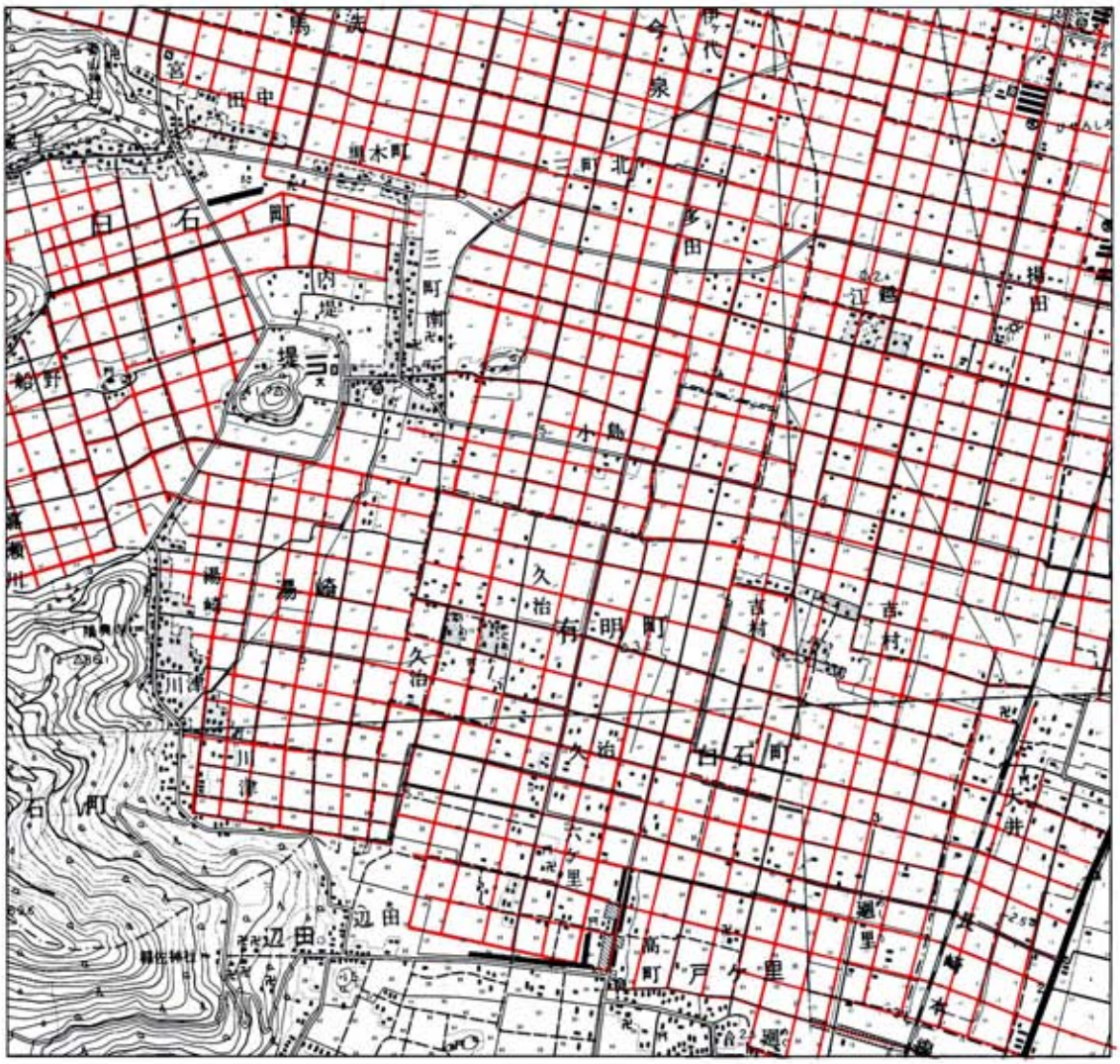
I．暗灰褐色粘質土　III．灰色粘質土(褐色酸化粒含む)
I．灰褐色粘質土　IV．黒色粘質土(植物遺体含む)
II．黒褐色粘質土　V．黒色粘質土



第44図　三田川町箱川地区遺構実測図（1/20）

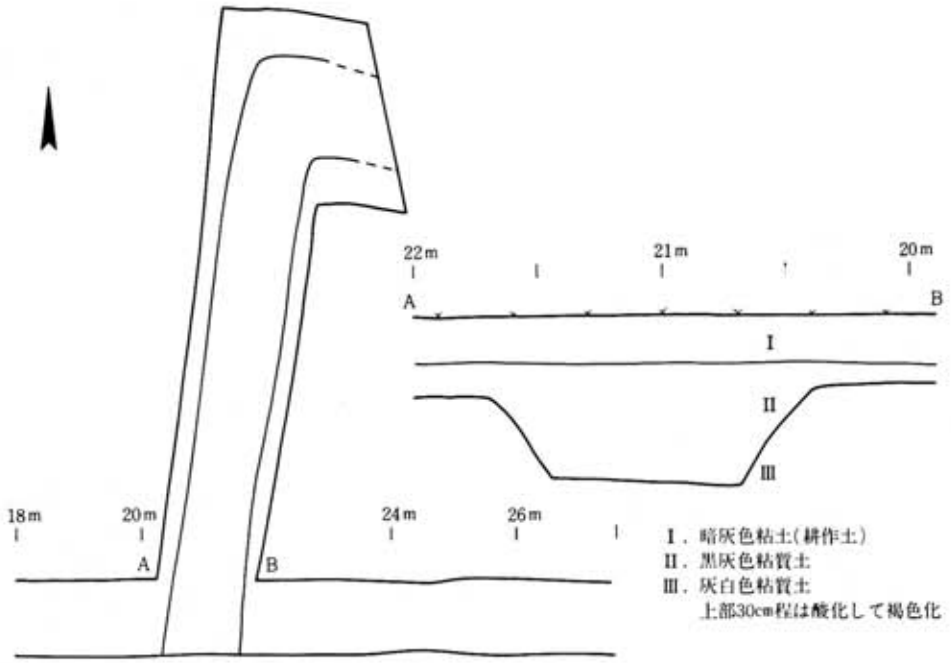
(3) 白石町

白石町は大字馬洗(しらい)について調査を行なった。当該地区は杵島山地東麓、標高3.6m前後の低平な水田上に立地する。本地区の北部には妻山(つまやま)丘陵から延びる微高地があり、弥生時代～中世の遺物散布地である馬洗上黒木遺跡や馬洗下黒木遺跡が所在する。当地区付近の条里的地割りをみてみると、東部は白石平野の大部分を占めるやや東（N－16°－E）に偏った地割りが見られ、西部は船野集落一帯に見られるやや西（N－14°－W）に偏った地割りが見られる。昭和59年度の確認調査で三町南(さんまちみなん)集落東方の地区に試掘溝を設けたが、その結果現地割りの行われる以前に本地区西部に見られる地割りに近い偏りを持った溝跡が検出された。また東偏した地割りが行なわれている地域でも、本地区の西に見られる地割りに近い偏りを持つ斜向道路・溝渠が見ら



第45図　白石町・有明町調査対象地区位置図（1/25,000）

第46図　白石町埋没条里確認試掘溝配置図



第47図　白石町埋没条里確認調査検出溝跡実測図(平面図1/120・土層図1/30)

れることから、広範囲に西偏する条里地割りが存在した可能性も考えられた。

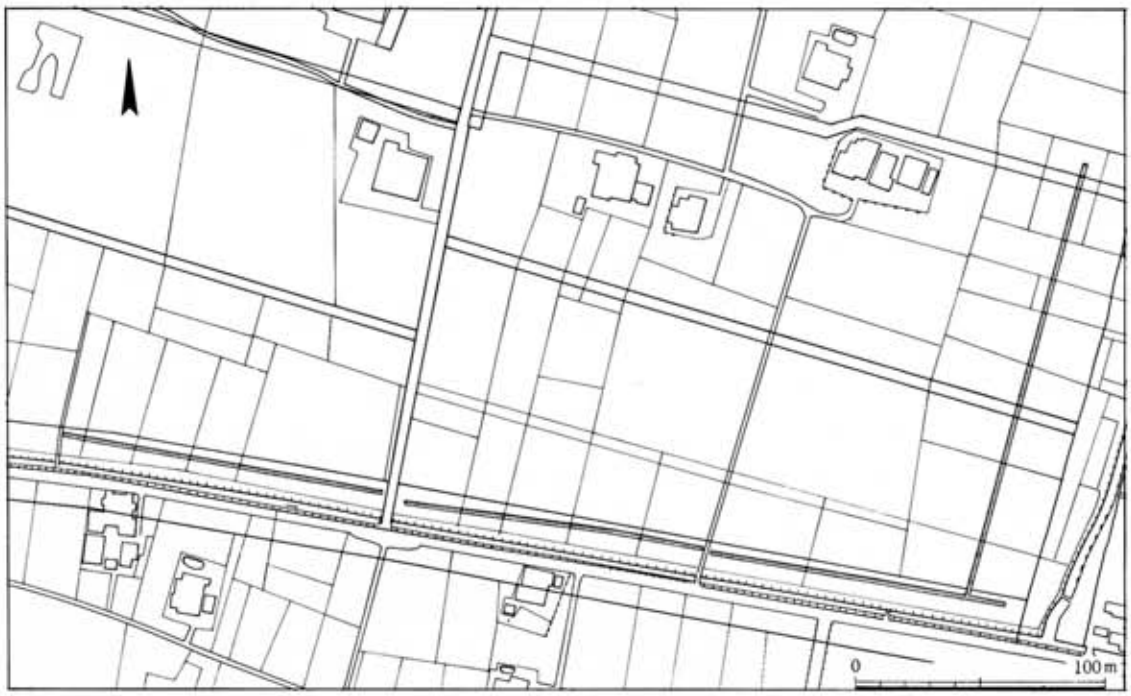
当該地区の南には条里の坪の数え方が北西隅で起算し、南北隅に数える千鳥式であることを示す「一の坪」「二の坪」等の遺称が残っており、また地区の西部にも「西里」という地名が残っている。

調査は対象地に東西に幅1.2m、長さ178mと105mの試掘溝を設けて行なった。その結果、東側の試掘溝で溝跡が一条検出された。幅約1.5m、深さ0.4mで、南北に走る。埋土は黒灰色粘質土で、基本土層の第II層との区別はできなかった。この溝跡を追って北へ拡張したところ、ほぼ直角に東へ曲っていることが確認された。更に試掘溝東端で斜行する溝跡一条が検出されたが、深いところでも0.3mで、ほとんどが削平を受けていた。前記溝跡の延長部に当たるものと思われる。溝跡からの遺物は検出されなかった。

今回の調査で検出された溝跡は、当初仮定していたもの、現在の地割りとも偏りを異にしており、性格は不明である。

(4) 有明町

有明町は、杵島山地東麓、昨年度調査地区の北の標高1.8～2.2mの水田部について調査を行なった。大字は、辺田(へた)・戸ヶ里(とがり)である。当該地区付近には六ヶ里(むつかり)・戸ヶ里・廻里(めぐり)などの条里制に起因すると考えられる地名が残っていることや、『河上神社文書』の内正応5（1292）年8月16日付「河上宮造営用途支配惣田数注文」の中に見える「公田分」の「六箇里保二十丁」が、



第48図　埋没条里確認調査有明町辺田地区試掘溝配置図

本地区付近に比定されることから調査を行なった。

調査は、稲佐神社参道沿いに東西に390m、南北に180mの試掘溝を設けて行なった。基本土層は耕作土下約20cmで灰白色のいわゆる潟土が検出される。遺構としては小穴・土壙が検出されたが、条里制に関連すると思われる畦畔等の跡は検出されなかった。

註

1．『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書4』佐賀県教育委員会　1986　P51註2参照

2．日野尚志「固有里名の現在地への比定について――肥前国神埼郡の場合――」『地域――その文化と自然』1982

3．正応2（1289）年3月13日付蒙古合戦勲功賞配分状案「肥前国慕崎後藤十郎宗明法師子息五郎於明」に「畠地　土師郷加納、本告郷本堀里　十七坪内一段　恒安」(武雄鍋島家文書『佐賀県史料集成6』)

元徳元（1329）年12月12日付沙弥寂照本物返売券写「めんてん（免田）」として「合四反四丈定もとほりのかうもとほりかりせ一つほ」(東妙寺文書『佐賀県史料集成5』)

建武2（1335）年6月付東妙・妙法両寺寺領坪付注文写「多久五郎入道子息道文」分として「土師郷本堀里九坪屋敷一宇」、「塚崎後藤五郎頼明孫子時明」分として「土師郷加納　本吉（告）郷本堀里畠地一段」、「中元寺孫三郎跡浄印」分として「本吉（告）郷本堀里八坪畠地二段」(東妙寺文書『同前』)

4．神埼郡条里の坪数は北東隅で起算し、東西隅に数える千鳥式である。

5．正応2（1289）年3月12日付蒙古合戦勲功賞配分状案「肥前国青方弥三郎家高」に「屋敷　土師郷家中里卅四坪一宇（西依三反）　真（『肥前国神埼荘史料』では直）元居薗」(『青方文書』続群書類従刊行会)

正応2年3月12日付蒙古合戦勲功賞配分状案「筑前国榊定禅領主西願」に「加崎郷　榎田里卅五・六坪内　一宇（二段西依南）　当国尼居屋敷内」(榊文書『肥前国神埼荘史料』)

正平22（1367）年正月11日付増成譲状「修密房増鍛」に「神埼庄内櫛田神宮寺免、東郷内榎田里卅坪、参段参杖、(屋敷在之、)」(実相院文書『佐賀県史料集成1』)

6．元享2（1322）年4月27日付前対馬守某下知状案「□□□次余残分賀崎郷小津里廿八坪田□□杖、」（修学院文書『佐賀県史料集成5』）

7．正平22年正月11日付増成譲状「神埼庄内櫛田神宮寺免、賀崎郷長歌里壱坪、陸段二杖、」（実相院文書『佐賀県史料集成1』）

正平24（1369）年4月10日付藤原朝臣裁許状「当庄賀崎郷長歌里拾坪田地壱町壱段事、」（東妙寺文書『佐賀県史料集成5』）

8．「倉戸郷の内　一、曽我部ヶ里　一所」(『北肥戦史巻18』)

9．東妙寺文書『佐賀県史料集成5』

10．註1資料p.41～43参照

11．八尋実編『本告牟田遺跡・的小渕遺跡（概報）』神埼町文化財調査報告書第13集　1986

12．米倉二郎『わが郷土』佐賀県郷土研究叢書第一巻　1950

13．深川保「佐賀平野農村の地理Ⅳ」『佐賀東高紀要7』1970

14．建武2年6月付東妙・妙法両寺寺領坪付注文写「畠地　土師郷加納　本吉（告）郷牟田り卅三坪

内一所三丈一所一反（弥永吉）」「一、森山兵衛三郎入道道恵　本告郷年田里　十四坪一段二丈」（東妙寺文書『佐賀県史料集成５』）

15．「深堀文書」及び「龍造寺文書」『神埼荘史料』

Ⅴ．昭和60年度農業基盤整備事業に係る発掘調査の概要

1．船石南遺跡（略号：ＦＩＭ）

遺跡の所在地

三養基郡上峰村大字堤字一本谷

調査主体者

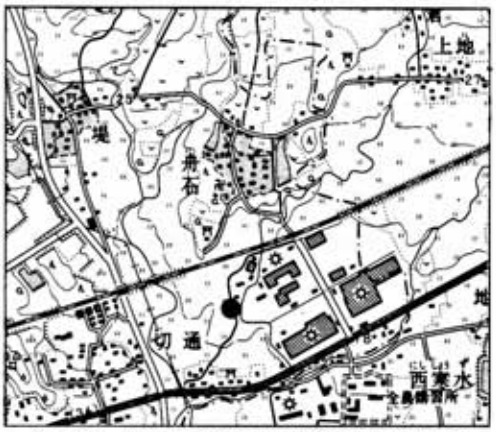
上峰村教育委員会

調査期間

昭和60年５月～昭和61年１月

調査面積

4,500㎡



第49図　船石南遺跡周辺地形図（1/25,000）

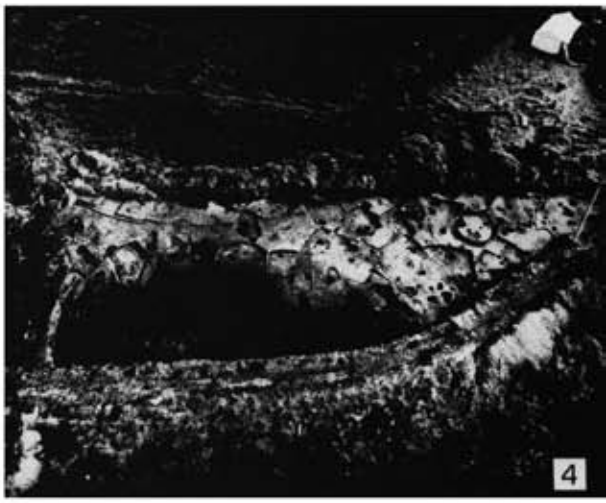
遺跡の概要

船石南遺跡は、佐賀平野東部、脊振山地の鎮西山（202.1ｍ）に源を持つ切通川左岸の河岸段丘上、標高16ｍの水田部に立地する。地区北側には、昭和57年度の上峰村教育委員会による調査で、支石墓・土器棺墓・古墳等が検出され、蛇行状鉄剣・蛇行状鉄矛等貴重な遺物が出土したことで知られる船石遺跡が所在する。また南西方には多数の竪穴住居跡が検出された一本谷遺跡が存在する。更に地区東では船石工業団地の調査が行なわれ、土器棺墓群が検出されたが、以前はこの付近を"千人塚"と呼んだということで、調査前もこの一帯では大甕片の散布や土器棺墓が開口しているのが見られた。

調査は船石工業団地から延びる微丘陵及びその西の削平部分、南の水路予定地部分について行なった。その結果検出された遺構は、弥生時代前期末～中期前半の土器棺墓545基・土壙墓49基・石棺墓３基の他、弥生時代中期の竪穴住居跡１軒・後期の竪穴住居跡47軒・掘立柱建物跡６軒等がある。なかでも中期前半の土器棺墓が多数検出された。出土した遺物は土器・石斧・石庖丁等で、副葬品としては土器棺墓から検出された石剣２点がある。１点は切先、もう１点は長さ20cmの完形品である。

今回の調査では、墓地がほぼ全掘され、また集落跡の一部も発掘できたので墓地や集落の構成、集落内の社会状況を知る上で貴重な資料を得ることができた。また東西に連なる前期末の土器棺墓と南北に列なる中期前半の土器棺墓が一部重なって検出されたので、土器棺の変遷を知る好資料となろう。

当該地区付近では農業基盤整備事業により今後更に発掘調査が行なわれることが予定されており、同地域内の資料が更に増加することにより同地域内の集落構造が明らかになるであろう。



1．船石南遺跡Ⅰ区全景（南西から）
2．Ⅲ区全景（北から）
3．Ⅲ区住居跡検出状況
4．Ⅴ区全景（南から）
5．Ⅰ区合口土器棺出土状況
6．Ⅰ区小児用土器棺出土状況

2．本分（ほんぶん）遺跡（略号：ＨＯＮ）

遺跡の所在地

三養基郡三根町大字西島

調査主体者

三根町教育委員会

調査期間

昭和60年５月～７月

調査面積

800㎡

第50図　本分遺跡周辺地形図（1/25,000）

遺跡の概要

本分遺跡は筑後川中流域右岸の自然堤防上に形成された、弥生時代を中心に中世まで続く遺跡である。国道264号線沿いのラインは弥生時代の貝塚が多いが、本分遺跡もその代表的な遺跡として知られている。今回の調査はⅠ～Ⅵ区に分けて行なったが、その内比較的まとまって遺構が検出されたのはⅠ・Ⅱ・Ⅵ区で、他は若干の小穴と遺物の散布が見られるのみであった。

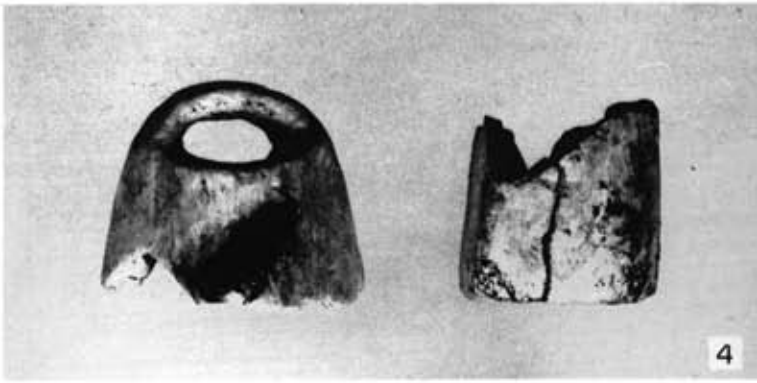
Ⅰ区は旧微高地の東端にあたる。検出された遺構は約50基の土壙及び小穴・井戸跡１基・竪穴１基・溝状遺構２条である。年代は土壙ＳＫ219が中世であるほかは、いずれも弥生時代中期～後期である。土壙は、円形・楕円形及び隅丸長方形の三形態があり、規模はさまざまである。隅丸長方形のもののうちＳＫ206土壙の平坦底部の長軸両側方に板痕が認められたことから、木棺墓が含まれている可能性がある。また竪穴ＳＫ202の埋土中位に厚さ約30cmの炭化物及び灰の層があり、籾殻・藁・獣骨が検出された。貯蔵穴と考えられるが、湧水が著しく、どのような貯蔵機能を果したか一考する必要があろう。その他ＳＥ232井戸跡の埋土中には若干の貝層が見られた。

Ⅱ区も微高地の東端にあたる。約70基の土壙及び小穴・溝跡１条等が密に切り合って検出された。年代はＳＫ293土壙が古墳時代前期、ＳＤ279溝跡が中世、他は弥生時代中期～後期である。土壙はⅠ区と同じく各形態があり、貯蔵穴と考えられるが立地条件からみて問題が残る。ＳＤ279溝跡は断面Ｕ字形で、東南隅の自然落ち込みに続いており、埋土上層に貝層が認められた。

Ⅵ区は周囲を溝渠に囲まれた小区画にあり、井戸跡２基の他土壙・小穴数基が検出された。遺構の年代は弥生時代中期～後期にわたる。

出土遺物は弥生時代の土器がほとんどで、他に古墳時代前期の土器、中世陶磁器、磨石・砥石・石剣等の石製品、木製鍬１点、猪等の獣骨、カキを主とする貝類等がある。特に注目されるのはⅠ区の自然落ち込みから出土した鐸形土製品である。１点は朝鮮式小銅鐸に近い古式形態をなし、他の１点は小片である。

今回の調査で検出された遺構は貯蔵穴を中心に井戸跡・溝跡が見られ、住居跡が見られないのは集落跡のはずれに当たるからと思われる。また出土遺物等貴重な資料を得ることができた。



1．本分遺跡Ⅰ区全景（南から）
2．Ⅱ区全景（東から）
3．Ⅰ区発掘調査状況
4．鐸形土製品

3．大曲（おおまがり）遺跡群

○松本Ａ遺跡（略号：ＭＭＴ-Ａ）…1

○松本Ｂ遺跡（略号：ＭＭＴ-Ｂ）…2

遺跡の所在地

神埼郡東脊振村大字大曲字松本

調査主体者

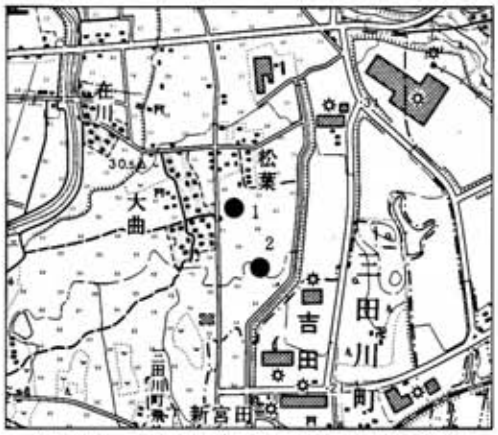
東脊振村教育委員会

調査期間

昭和60年５月～11月

調査面積

2,500㎡



第51図　大曲遺跡群周辺地形図（1/25,000）

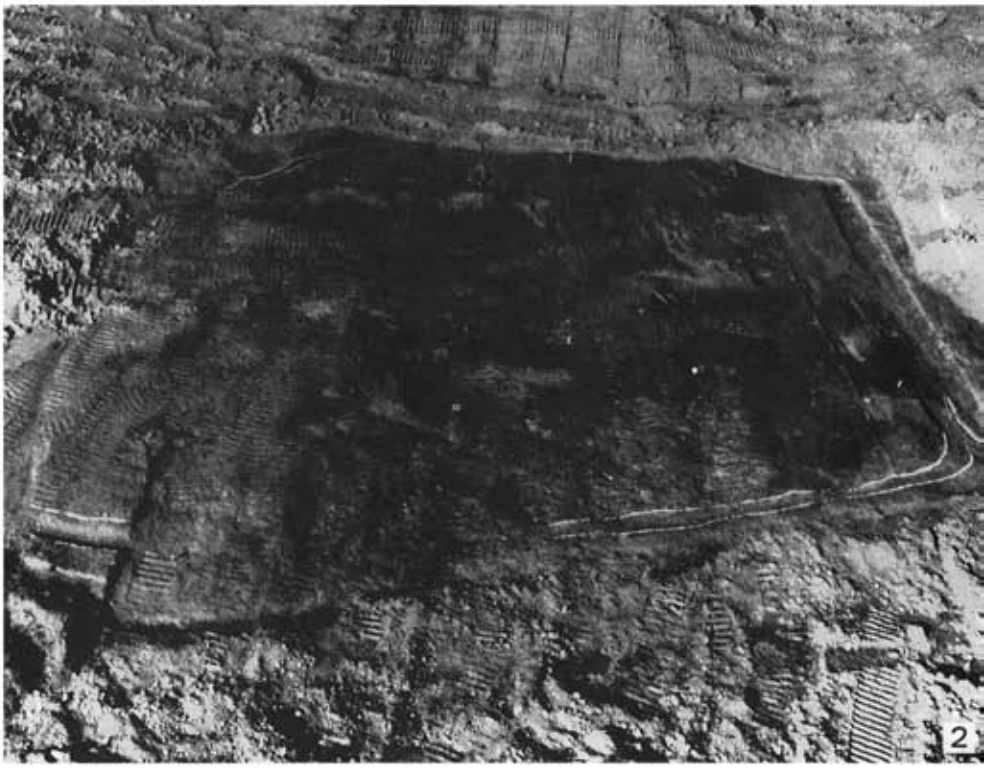
遺跡の概要

東脊振村は佐賀県の東部で脊振山系の南麓に位置し、高中位段丘が南北に細長く広がる丘陵地帯である。大曲遺跡群はこれらの段丘の中の目逢原（めたばる）段丘上標高27ｍ付近に立地する弥生時代から中世に至る遺跡群で、周辺には青銅器や鉄器を出土した三津永田（みつながた）遺跡・二塚山（ふたつかやま）遺跡などがあり遺跡の密度が高い地区である。

松本Ａ遺跡は松葉地区の南側に広がる遺跡で、現在多くは水田・畑地として利用されている。調査は水路予定地と平面削平部で、確認できた遺構は発掘調査面積に比して少なかった。主な遺構としては鎌倉～室町時代の大形土壙１基・川状の落ち込み２ヶ所・土壙１基・小溝跡１条・小穴若干と、縄文時代以前にできたと思われる、いわゆる風倒木を多数検出することができた。遺構埋土の中からは、土師器を中心にして青磁・白磁器が散在した形で出土したが、小破片が多く器種を十分に特定できるものは少なかった。

松本Ｂ遺跡は松葉地区の南東に位置し、松本Ａ遺跡とは小さな川を隔てて隣接した範囲100ｍ四方の遺跡である。調査は平面削平部で、確認できた遺構の数は後世の攪乱の為に少なかった。調査地は周辺より50cmほど高い微高地になっており、遺構は最高所を中心に広がっている。確認できた遺構は鎌倉～室町時代の「く」の字形に屈曲した溝跡が１条と、削平されて不明確な小溝跡が数条、それに風倒木が５ヶ所検出できた。また、屈曲した溝跡の周辺には薄い包含層が堆積していた。屈曲した溝跡からは土師器を中心に青磁・白磁器などの遺物が検出できたが他の遺構からは遺物の出土はほとんどなかった。

松本Ｂ遺跡は、大曲Ａ・松本Ａ遺跡などの大きな遺跡の周辺に立地する付属的色彩のある遺跡であり、この遺跡だけで独立する性格をもつとは考えられない。



1．松本Ａ遺跡第１地区全景（南から）
2．松本Ｂ遺跡第１地区　　（南から）

4．石動（いしなり）遺跡群

○西石動Ａ遺跡（略号：ＮＩＮ-Ａ）…1

○西石動Ｂ遺跡（略号：ＮＩＮ-Ｂ）…2

遺跡の所在地

神埼郡東脊振村大字石動字西二本杉

調査主体者

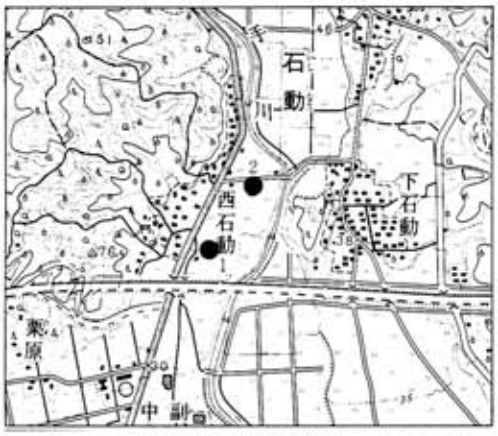
東脊振村教育委員会

調査期間

昭和60年10月～昭和61年３月

調査面積

4,000㎡



第52図　石動遺跡群周辺地形図（1/25,000）

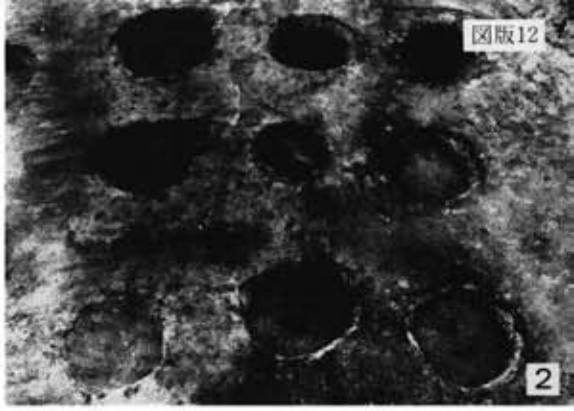
遺跡の概要

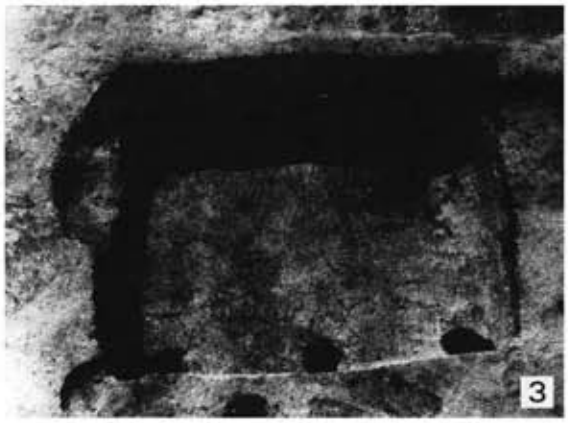
石動遺跡群は田手川が佐賀平野に注ぎ出す場所に位置し、標高35ｍ前後の田手川両岸の河岸段丘上に広がる先土器時代から中世にいたる遺跡群である。調査区は工事区内の水路部と切土部の予定地を中心に4,000㎡を調査した。

西石動Ｂ遺跡の調査で検出された遺構は、弥生時代後期末から古墳時代前期の竪穴住居跡が６＋α軒・溝跡３条・小溝跡１条、古墳時代後期の竪穴住居跡２＋α軒、奈良時代の掘立柱建物跡７＋α棟・竪穴住居跡２軒・焼土穴（小鍛冶？）１基・土壙３基、時期不明の箱式石棺墓１基・小穴約300個などで、調査面積が狭かったが遺構密度は高かった。掘立柱建物跡は２×9間・２×３間・２×２間の３種類が検出されており、特に２×９間の大形掘立柱建物跡は県内で調査された同時代の建物の中でも最も大きなもののひとつである。出土遺物は、縄文土器・石器・弥生土器・土師器・須恵器・鉄滓などで出土量は多かった。

西石動Ａ遺跡の調査で検出された遺構は、平安時代から鎌倉時代と考えられる掘立柱建物跡３棟・大形土壙１基・溝跡４条・方形土壙１基・土壙１基・川状落ち込み１ヶ所・小穴約200個などで、遺構の密度は比較的低かった。掘立柱建物跡は３棟とも２×２間の総柱（内１棟は未確認）で、建物の軸線は西石動Ｂ遺跡で検出されたものと同様に北からあまり振れない範囲に留まっている。出土遺物は、土師器・須恵器・黒色土器・青磁器・白磁器・緑釉陶器・平瓦・石鍋などの石製品で、川状落ち込みを中心に多く出土した。

石動遺跡群は、その中央部を九州横断自動車道が通っておりその建設に伴っての埋蔵文化財調査によって多くの遺跡が調査されている。昭和60年度の農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査ではこの時の調査を補足する形になった。その結果、西石動地区には田手川沿いに弥生時代から中世期に至る集落跡を中心にした広範囲の遺跡群が所在することがわかった。





1．西石動Ａ遺跡第２・３地区全景（真上）
2．第２地区ＳＢ212掘立柱建物跡（北から）
3．第２地区ＳＫ203土壙（北から）
4．西石動Ｂ遺跡第１地区全景（西から）
5．ＳＣ016石棺墓
6．ＳＢ026掘立柱建物跡、ＳＨ019竪穴住居跡
7．ＳＫ020焼土穴（南から）

5．大石（おおいし）遺跡（略号：ＯＩＳ）

遺跡の所在地

神埼郡千代田町大字姉

調査主体者

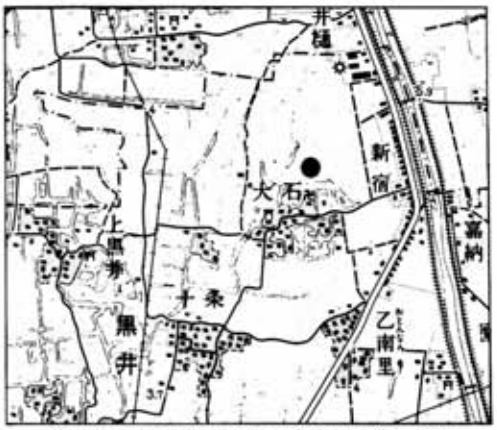
千代田町教育委員会

調査期間

昭和60年10月

調査面積

500㎡



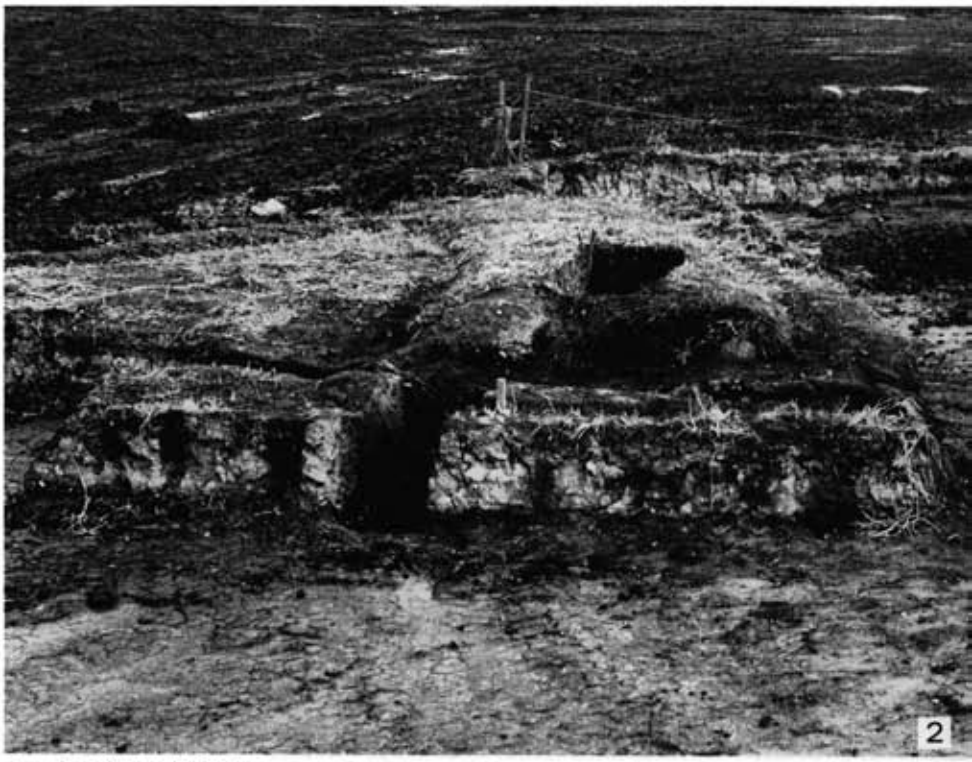
第53図　大石遺跡周辺地形図（1/25,000）

遺跡の概要

大石遺跡は千代田町の北西部、城原川の西方の標高３～４ｍの沖積平野上に立地する。遺跡の西側には上黒井貝塚、西大石遺跡、東側には東大石遺跡、南側には黒井遺跡、黒井八本松遺跡[註1]などの弥生時代～中世にかけての遺跡が点在している。また、遺跡に南接して中世の環濠集落が存在し、現在でも溝渠（クリーク）を利用した生活が営まれている。調査は、削平を受ける微高地について実施した。

調査区中央には、「大権言」と刻み込まれた縦２ｍ、横１ｍ、厚さ0.2ｍの長方形の自然石の立石と、その下に伏石の２個の石があり古くから支石墓ではないかと言われていた[註2]。また、付近には弥生土器片が散布しており、遺跡の存在が推定されていた。しかしながら今回の調査で、２個の自然石の下からは支石墓と考えられる主体部は検出できず、後世に盛られた人為的微高地に祭られた信仰石碑であることが判明した。また周辺からは、弥生時代中期の遺物包含層を検出したのみである。この包含層は、弥生時代中期の甕・壺・高杯・器台・鉢などの土器類が約20cmの厚さで堆積しており、南接する西大石遺跡との関連が想定された。

註１　堤　安信　『黒井八本松遺跡』（千代田町文化財調査報告書第５集）千代田町教育委員会　1986
註２　松尾禎作　『佐賀県下の支石墓』（佐賀県文化財調査報告書第４集）佐賀県教育委員会　1965



1．大石遺跡調査区全景
2．調査後全景

6．上黒井貝塚（略号：ＫＫＩ）

遺跡の所在地

神埼郡千代田町大字姉

調査主体者

千代田町教育委員会

調査期間

昭和60年11月～昭和61年３月

調査面積

3,800㎡

遺跡の概要

第54図　上黒井貝塚周辺地形図（1/25,000）

上黒井貝塚は、千代田町の北西部、城原川の西方の標高３～４ｍの沖積平野上に立地する。遺跡の南方には黒井遺跡、黒井八本松遺跡[註]、東方には大石遺跡、西大石遺跡などの弥生時代を中心とした遺跡が点在している。また東方の大石地区には、中世の環濠集落が存在し、現在も溝渠（クリーク）を利用した生活が営まれている。調査は掘削を受ける水路部分、削平される島状地についてＡ～Ｃの小調査区に分けて実施した。

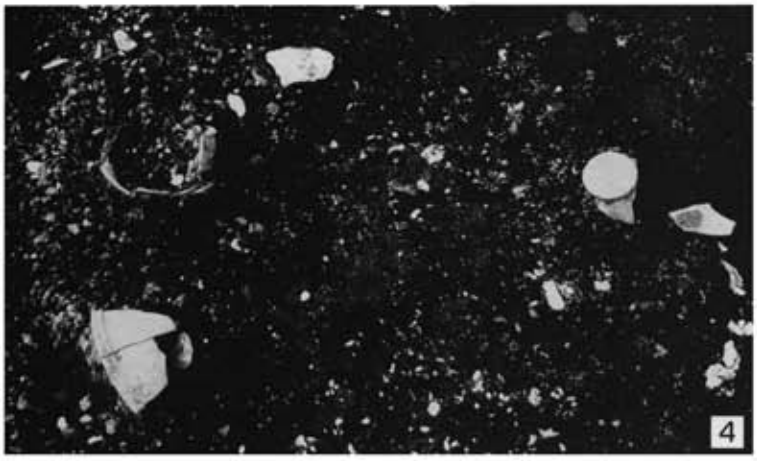
Ａ区からは、縄文時代晩期～中世の土壙・井戸跡・貯蔵穴・大小の柱穴の各遺構が検出された。中央に大きく広がるＳＫ005土壙は、縄文時代晩期～弥生時代前期でⅠ～Ⅲ層に分れ、部分的に貝層の堆積が見られた。遺物は甕・壺・高杯等の土器類の他、獣骨が多量に出土し当時の食生活の一端を知ることができた。

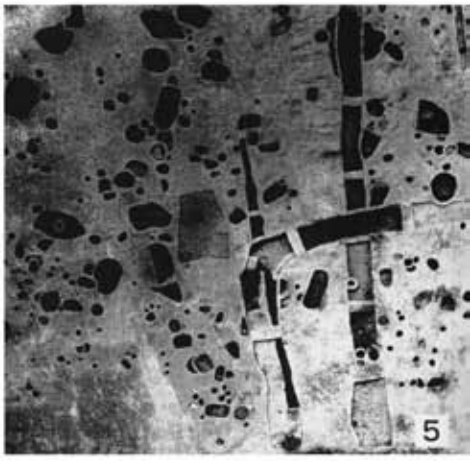
Ｂ区からは、弥生時代前期～中世の土壙・井戸跡・貯蔵穴・溝跡・大小の柱穴など多数の遺構を検出した。遺構は中央部より西側、南側に集中し、北側、東側は稀である。出土遺物は、弥生土器（甕・壺・器台・高杯・鉢）・瓦器・土師器・青磁・白磁の土器類の他、石庖丁・石斧・砥石・石鏃などの石器類が出土した。また注目される遺物としては、ＳＫ057土壙より朝鮮系の黒塗りの長頸壺２点が、弥生時代中期初頭の遺物と共に出土した。

Ｃ区からは、弥生時代中期～中世の土壙・貯蔵穴・溝跡・大小の柱穴など多数の遺構を検出した。遺構は全体に濃密で、Ａ・Ｂ区に比べると新しい時期の遺構が多くなる。出土遺物は弥生土器（甕・壺・器台・高杯・鉢）・瓦器・土師器・瓦質土器・青磁・白磁の土器類の他、少量の石器が出土した。

以上のように上黒井貝塚は、縄文時代晩期～中世にかけての長い間営まれた集落跡であり、今回の調査で多くの資料を得ることができた。特にＡ区より検出した縄文時代晩期の土壙・大小の柱穴は、有明海沿岸部地域では初めての発見で、佐賀平野南部の古代史を解明する上で貴重な発見となった。

註　堤　安信『黒井八本松遺跡』（千代田町文化財調査報告書第５集）千代田町教育委員会　1986





1．上黒井貝塚調査区全景（西から）
2．調査区全景（東から）
3．A区ＳＫ005土壙
4．A区ＳＫ005土壙遺物出土状況
5．C区近景

7．柴尾遺跡（略号：ＳＢＯ）

遺跡の所在地

神埼郡千代田町大字用作

調査主体者

千代田町教育委員会

調査期間

昭和60年７月～10月

調査面積

1,200㎡

遺跡の概要

第55図　柴尾遺跡周辺地形図（1/25,000）

柴尾遺跡は千代田町の南部、城原川の西方の標高３～４ｍの沖積平野上に立地する。遺跡の南側には柴尾橋下流遺跡[註]、西方には川崎遺跡、北方には下直鳥貝塚など弥生時代～中世にかけての遺跡が点在している。また北方の直鳥地区には、中世の環濠集落の直鳥城が存在し、現在も溝渠（クリーク）を利用した生活が営まれている。調査は掘削を受ける水路部分について実施した。

調査区はクリークを隔て柴尾橋下流遺跡と隣接しており、本来的には同一遺跡として考えられる。昭和56年佐賀市教育委員会が実施した柴尾橋下流遺跡の調査で、土壙・貯蔵穴・土器溜・井戸跡・溝跡・大小の柱穴が検出され、出土遺物は弥生時代後期～中世までの各時期の遺物が出土している。また佐賀平野南部では初めての長宜子孫連孤文鏡が出土している。

本遺跡も性格が似ており、土壙17基・井戸跡15基・溝跡９条・甕棺１基・大小の柱穴多数を検出した。出土した遺物は弥生土器（甕・壺・器台・高杯・鉢・支脚）・古式土師器・土師器・瓦器・青磁・白磁の他、砥石・石鏃・石庖丁などの石器類が出土した。

ＳＤ001溝跡より検出された甕棺は、弥生時代後期のものである。出土状況より、この甕棺は甕棺墓として使用されたものではなく、意図的に溝に投げ捨てられたものと考えられる。また、調査区に東西に流れる３条の大きな溝跡は、約15ｍ間隔で平行に走っており、何らかの意味を持たせ掘られたものと考えられる。

以上のように柴尾遺跡は、弥生時代中期～中世にかけての集落跡であるが、中心は弥生時代後期～古墳時代初頭である。この時期の遺跡は佐賀平野南部、有明海沿岸部において検出された例は少なく、この時期の生活等を解明するにあたり、貴重な資料を与えてくれた。

註　福田義彦　『柴尾橋下流遺跡』（佐賀市文化財調査報告書第14集）佐賀市教育委員会　1982

1．柴尾遺跡全景（南から）
2．遺構検出状況
3．遺物出土状況
4．遺物出土状況

8．的小渕遺跡（略号：IWO）

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字的

調査主体者

神埼町教育委員会

調査期間

昭和60年7月～昭和61年3月

調査面積

約6,000㎡

第56図　的小渕遺跡周辺地形図（1/25,000）

遺跡の概要

的小渕遺跡[註]は、神埼町の北部に所在する的遺跡群の1つである。脊振山系南麓に派生する標高26～39mの段丘上で、城原川左岸に立地する。的遺跡群は旧石器時代～中・近世に及ぶ広汎な集落跡・墳墓群で、総面積136,000㎡に及んでいる。これまでの調査で志波屋五本松遺跡（弥生時代後期～古墳時代初頭の集落跡）、志波屋六本松遺跡（縄文・古墳時代集落跡）、船塚遺跡（旧石器～古墳時代集落跡）、的五本黒木遺跡（弥生時代～古墳時代集落跡）等が知られている。調査は、便宜的に1～11区の調査区に分けて行なった。

調査の結果検出された遺構は、古墳時代後期の古墳6基、中世～近世に至る掘立柱建物跡23＋α棟、土壙49基、井戸跡2基、柵列1列、溝跡64条である。

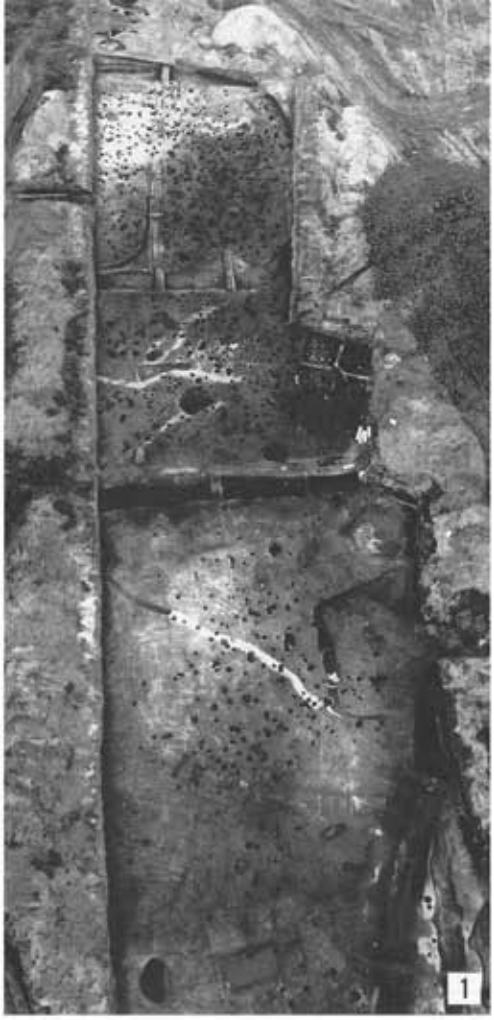
古墳は、複室両袖型の横穴式石室を内部主体とする円墳で、南に開口している。周溝を検出し、墳丘径11～15mである。遺物は、須恵器杯・高杯・提瓶、土師器壺・高杯等の土器類、鉄鏃・刀子等の鉄器類、内行花文仿製鏡・耳環・勾玉等の装身具などの副葬品がある。

掘立柱建物跡は、1間×2間が7棟、1間×3間が3棟、2間×2間が8棟、2間×3間が3棟、2間×5間が2棟で、桁行は南北方向12棟、東西方向9棟である。このうち、9区の建物跡は周囲を溝により区画し、大型の建物が配置されており中心的な建物跡として興味深い。井戸跡は7区より検出し、平面円形で径3.8×3.4mの二段掘りで石積み井戸である。

出土した遺物は、平安時代末～鎌倉時代の土師器小皿・杯・椀・土鍋、石鍋、輸入陶磁器と近世の土師器小皿・杯・銅銭が出土した。

以上のように、的小渕遺跡は、山麓地帯に多数分布する古墳群を形成する古墳の形態・構造・規模など明らかにすることができた。また、中世～近世の集落形態を知る上で良好な資料を数多く得ることができた。

註　八尋実・緒方祐次郎『本告牟田遺跡、的小渕遺跡』（神埼町文化財調査報告第13集）神埼町教育委員会　1986



1．的小渕遺跡Ⅲ区全景（西から）
2．Ⅳ区全景
3．ＳＴ501古墳全景
4．ＳＴ701古墳全景
5．４区ＳＢ403・404・405掘立柱建物跡

9．本告牟田遺跡（略号：ＭＭＴ）

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字本告牟田

調査主体者

神埼町教育委員会

調査期間

昭和60年４月～昭和61年２月

調査面積

7,300㎡

第57図　本告牟田遺跡周辺地形図（1/25,000）

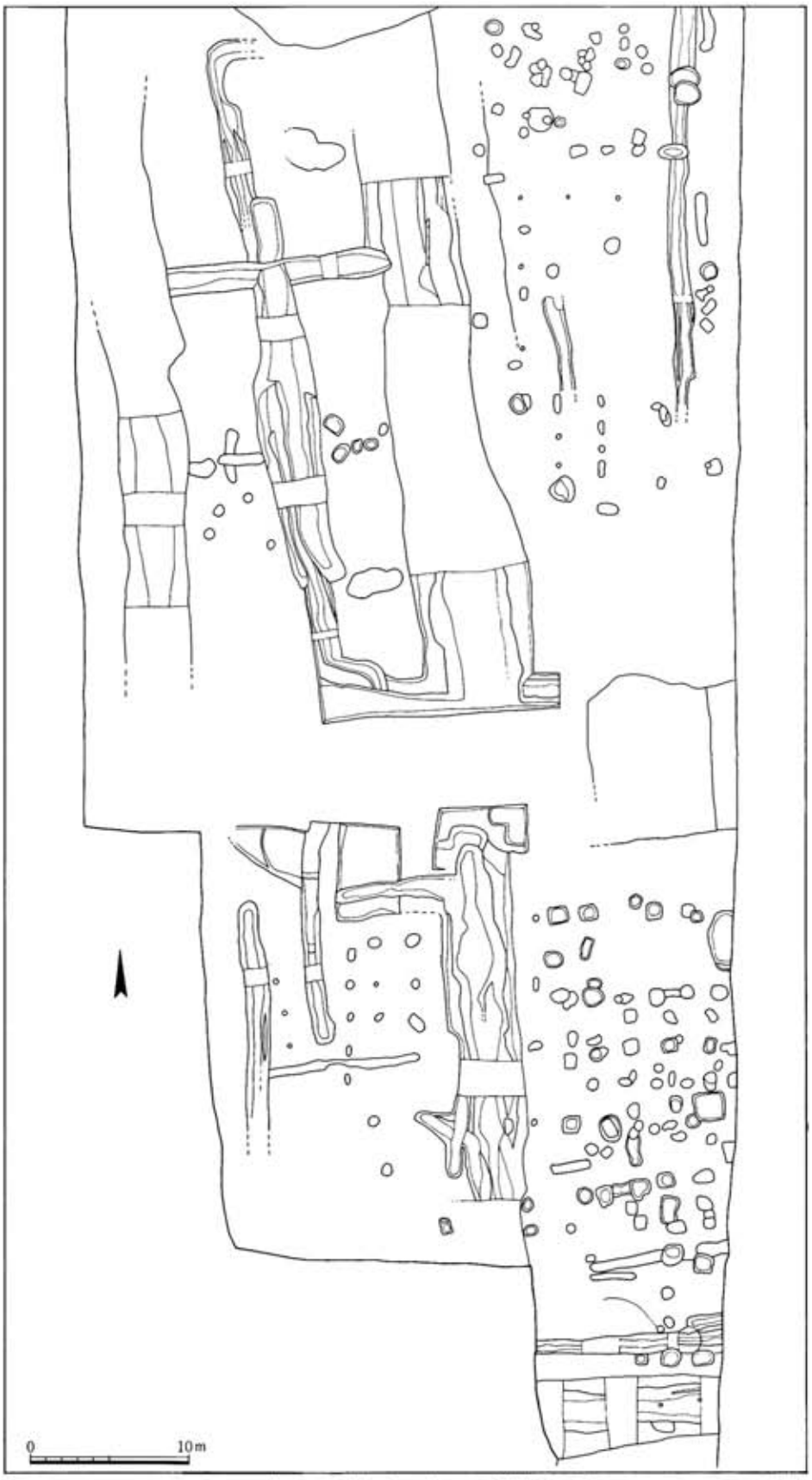
遺跡の概要

本告牟田遺跡は神埼町南部、城原川右岸に広がる標高約３～3.5ｍの低湿水田地帯に立地する。以前より『本告城跡』として知られていた遺跡で、周囲をクリークによって囲まれた環濠集落の構造を有している。周辺には、莞牟田環濠集落遺跡、野田城跡、姉川城跡、横武城跡等中世～近世にかけて形成された城館跡が集中的に分布している。

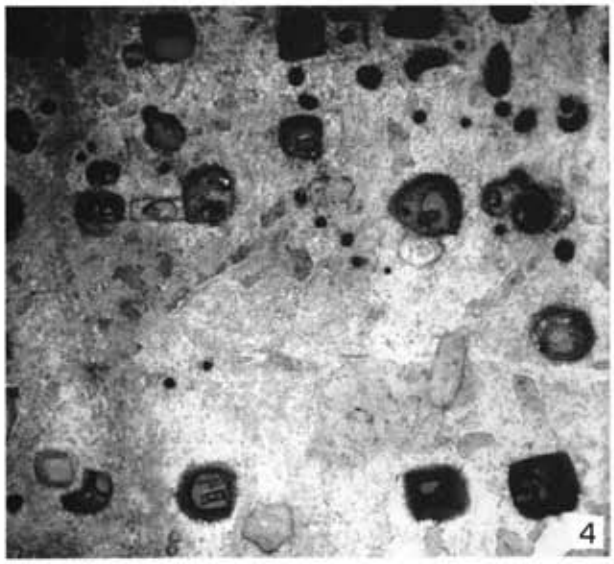
調査は、当遺跡を構成する通称『奥の浦』(Ⅰ区)・『館の内』(Ⅲ区）と呼ばれている島を南北に掘削される水路部分について実施した。その結果、掘立柱建物跡20棟以上・溝跡34条・井戸跡３基・土壙墓８基・土壙等を検出した。遺構の大きな特徴として、各島内部を大小の溝によって方形ないし長方形に区画し、その内部に建物跡等を配することがあげられる。Ⅰ区では、東西・南北方向に規則的に掘削された溝跡により、１辺約８～10ｍの区画を形成し、内部に１～２棟の掘立柱建物跡が存在する。建物区画は、中央部の道路状遺構によって東西に３区画を配列している。Ⅰ区の南半部では､中央部を東西に走る幅約10ｍの溝跡により２分されそれぞれに掘立柱建物跡が存在する。南半の第８建物跡区内には、大形の掘立柱建物跡３棟以上と柵列？が存在する。この区画は、建物廃絶後土壙墓が形成される。３区は、当遺跡内で最も大規模な島でⅠ区同様溝跡により区画を形成する。この中で、第８建物区は南北30～35ｍの規模を有し、掘立柱建物跡５棟以上を検出した。１間×３間・２間×３間・３間×３間と10間分の柱穴列がある。柱穴は、方形で一辺0.5～1.2ｍ、深さ0.3～1.5ｍと大形のものが多い。また、底面には直径0.3～0.5ｍの丸太を半截した礎板をもっている。東半部は調査区外となる。第８建物区の西には、溝跡を境に第７建物区が存在し、橋状遺構によって結ばれている。３区内ではこの２つの建物区のみに掘立柱建物跡が形成されている。

遺物としては、土師器小皿・杯、瓦質の鉢・摺鉢、青磁、白磁、染付、木製品として漆器、曲物、桶、下駄、建築材などがある。

以上のように、当遺跡の内部構造は建物跡などの各施設単位で区画を形成し、環濠集落内部の様相の一端を知ることができ、今後の研究にとって基準資料となる重要な内容をもっている。



第58図　本告牟田遺跡Ⅲ区遺構配置図



1．本告牟田遺跡調査区全景（南から）
2．Ⅰ区北半建物区検出状況（南から）
3．Ⅲ区第８建物区全景（北から）
4．第８建物区掘立柱建物跡

10．泉遺跡（略号：ＩＺＭ）

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字下和泉

調査主体者

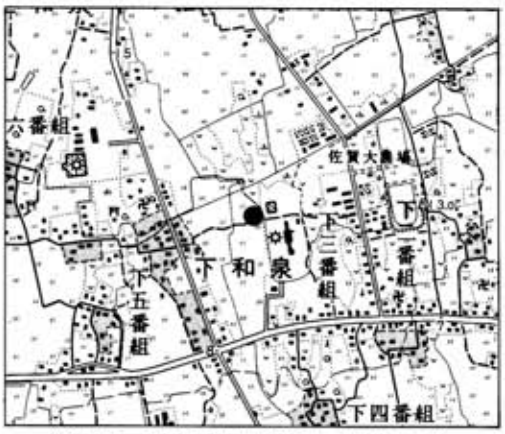
佐賀市教育委員会

調査期間

昭和60年７月～８月

調査面積

1,200㎡



第59図　泉遺跡周辺地形図（1/25,000）

遺跡の概要

泉遺跡は佐賀市久保泉町大字下和泉字三本栗に所在し、遺跡の範囲は同町大字上和泉にまで及んでいる。脊振山系から南方に広がる平野には、いたる所に舌状の微高地・低丘陵があるが、当遺跡もその基部の中ほどに位置している。標高は８～９ｍを測り、近接する水田との比高は0.5～1.0ｍを測る。当遺跡が立地する低丘陵は長さ300ｍ程度であるが、部分的に畑地を水田に転用してあるため、２～３の丘陵に見える。

今回の調査で住居跡状遺構（竪穴遺構）・溝跡・土壙を検出した。住居跡状遺構は、南北2.97ｍ、東西4.6ｍ、深さ0.29ｍを測る。壁面は比較的ゆるやかに掘り込まれており、床面はわずかな起伏がある。遺構は黄褐色砂混じりの地山に掘り込まれており、床面には柱穴・炉跡等の掘り込みは全く検出しなかった。埋土は黒色土層と淡黒褐色土層に大別でき、その中から土師器小皿の細片を微量検出した。いずれも細片のため時期判定は難しいが、その胎土からしておそらく中世～近世の所産ではなかろうかと思われる。

このほか、土壙・溝跡等を検出したが、出土遺物が少なくその性格は不明である。

調査が部分的なものであったため、その全容はつかむべくもないが、遺構の規模、遺物の量からして、今回の調査区は中近世期集落の周縁部にあたるものと考える。

1．泉遺跡ＳＢ001住居跡状遺構
2．溝跡
3．溝跡

11．池の上三本松遺跡（略号：ＩＵＭ）

遺跡の所在地

佐賀郡大和町大字池上字三本松

調査主体者

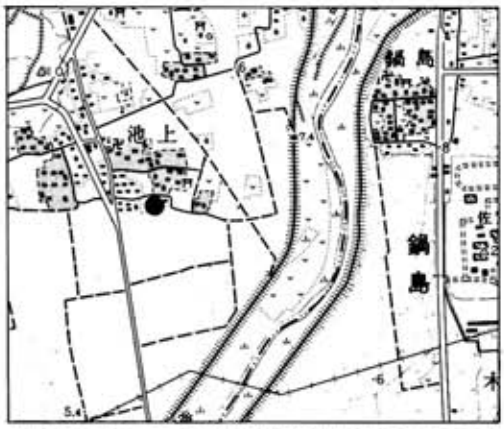
大和町教育委員会

調査期間

昭和60年９月

調査面積

1,000㎡



第60図　池の上三本松遺跡周辺地形図(1/25,000)

遺跡の概要

池の上三本松遺跡は大和町の南部、東平川の東側に位置する。標高５～６ｍの低湿地にあり、池上部落の南側に隣接する。周囲には弥生時代の生活跡・洗場跡等が検出された久留間遺跡[註1]や久留間カミ塚遺跡[註2]、弥生時代～古墳時代にかけての住居跡と中世の井戸跡を検出した楢田三本松遺跡や楢田遺跡が存在する。また、池上部落の北西には大和町の史跡指定をうけた道善寺古墳や現在も墓地として利用されている風楽寺古墳など町内に６基ある前方後円墳のうち２基が池上地区にあることは古墳時代の重要な部分を占めていると思われる。今回発掘調査を実施した池の上三本松遺跡は工事前の確認調査の結果、約20,000㎡の広がりを持つ遺跡と考えられていた。その中で、今回の工事により削平される水路部分の幅10ｍ、長さ100ｍについて調査を実施した。

調査の結果、中世の溝跡と土壙を検出した。出土遺物は、鎌倉時代の火鉢片・土鍋片・石鍋片・軽石・龍泉窯系磁器片等である。

今回の調査は、水路部分という限られた狭い範囲内での調査であったため遺跡の全貌を明らかにすることはできなかったが、本遺跡が中世の集落跡であったことが判明した。また現在の池上地区は、すでに鎌倉時代には集落として成立しており、中世の豪族、於保氏の成り立ちと大きく係わってくると思われる。

註１　七田忠志・松尾禎作　『久留間遺跡調査概報』（佐賀県史蹟名勝天然紀念物調査報告書第10集）佐賀県教育委員会　1951

註２　西田和己他『久留間カミ塚遺跡Ａ地点・Ｂ地点』（佐賀県文化財調査報告書第63集、同64集）佐賀県教育委員会　1982

池の上三本松遺跡全景

12．唐人廟遺跡（略号：ＴＺＶ）

遺跡の所在地

佐賀郡諸富町大字大堂字陣内

調査主体者

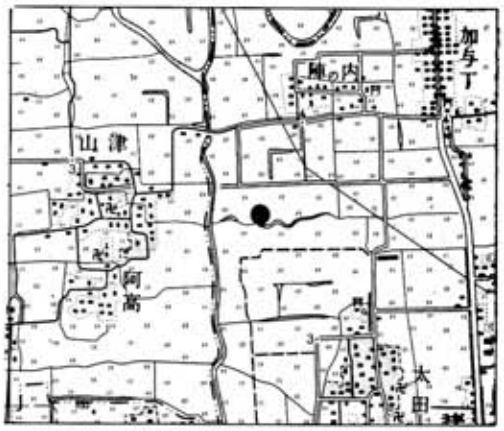
諸富町教育委員会

調査期間

昭和60年９月～昭和61年３月

調査面積

3,000㎡



第61図　唐人廟遺跡周辺地形図（1/25,000）

遺跡の概要

唐人廟遺跡は諸富町の北西部、標高2.8～2.9ｍの低平地に位置する。町の中央を南北に流れる新川と陣内・太田地区の地区境クリークとの接点付近に約25,000㎡の広さを有する遺跡の存在が確認された。遺跡は現在水田となっているが、標高2.98～2.88ｍと周辺の水田面よりやや高くなっている。調査の対象となったのは、地区境クリークをほぼ中央にし、東方へ200ｍ延びる水路部分約3,000㎡である。調査区はクリークの蛇行の為、北岸の東側を１区・２区、南岸を３区に分け実施した。

１区は、接点から東に延びるクリークの第１回蛇行部分東側に位置する。調査区の西側隅より南側にかけて近世に埋没したと思われるＳＤ001溝跡が東へ延びている。この溝跡北側部分に弥生時代後期終末、古墳時代前期・後期、奈良時代、鎌倉～室町時代にかけての溝跡６条・井戸跡14基・土壙７基・柱穴多数が検出された。遺構は西側～中央部分に集中し、東側に向かって少なくなる。標高は西側2.13ｍ、中央2.16ｍ、東側1.60ｍと東側に向かい緩やかに低くなる。弥生時代後期終末～古墳時代前期の遺構が最も多く、新しくなるに従い少なくなる。特に調査区中央北側に位置する井戸跡より弥生時代後期終末の大形甕・中形甕・壺・広口壺・鉢等が完形で多数出土した。広口壺は肥後沿岸地域に特徴的にみられる土器である。

２区は、１区西側に位置する。調査区西側と東側にクリークと思われる溝跡が見られ、弥生時代後期、鎌倉時代の井戸跡１基・溝跡２条・柱穴等が確認された。

３区はクリーク南側部分に位置する。遺跡の南側隅に位置する部分で、遺構はあまり見られなかった。

この地域には、これまで弥生時代後期～古墳時代にかけての遺跡は確認されておらず、佐賀平野の陸化を考える上で重要な遺跡である。

1．唐人廟遺跡１区近景
2．２区近景（西から）
3．ＳＥ742井戸跡
4．１区東側調査風景

13．馬洗上黒木遺跡（略号：ＭＫＫ）

遺跡の所在地

杵島郡白石町大字馬洗字上黒木

調査主体者

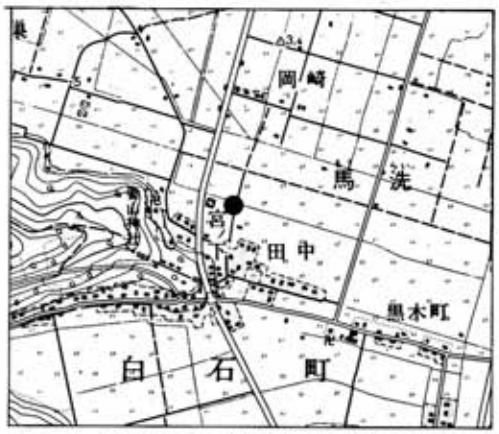
白石町教育委員会

調査期間

昭和60年９月～10月

調査面積

250㎡



第62図　馬洗上黒木遺跡周辺地形図（1/2,5000）

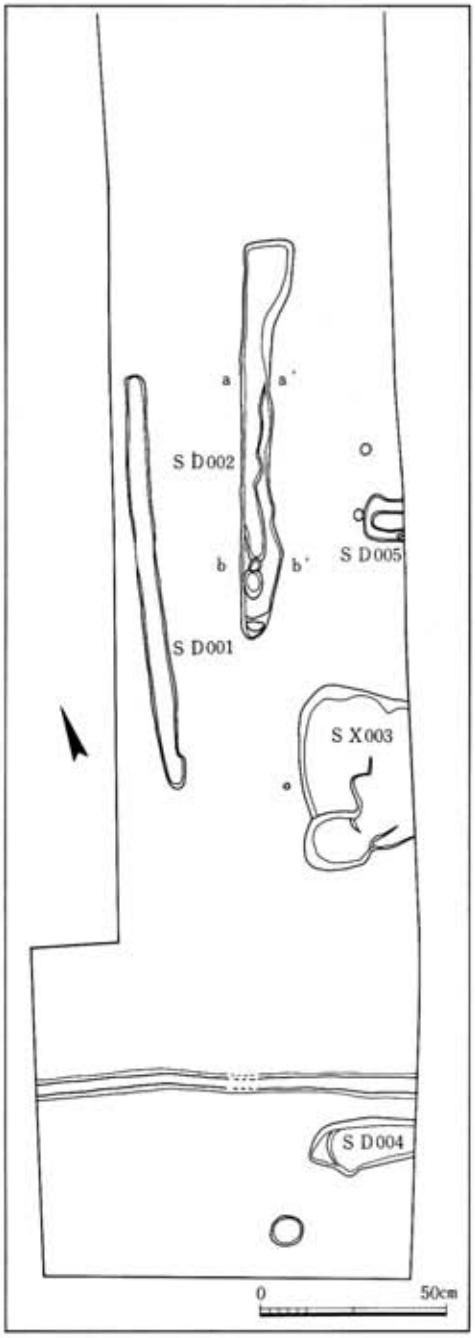
遺跡の概要

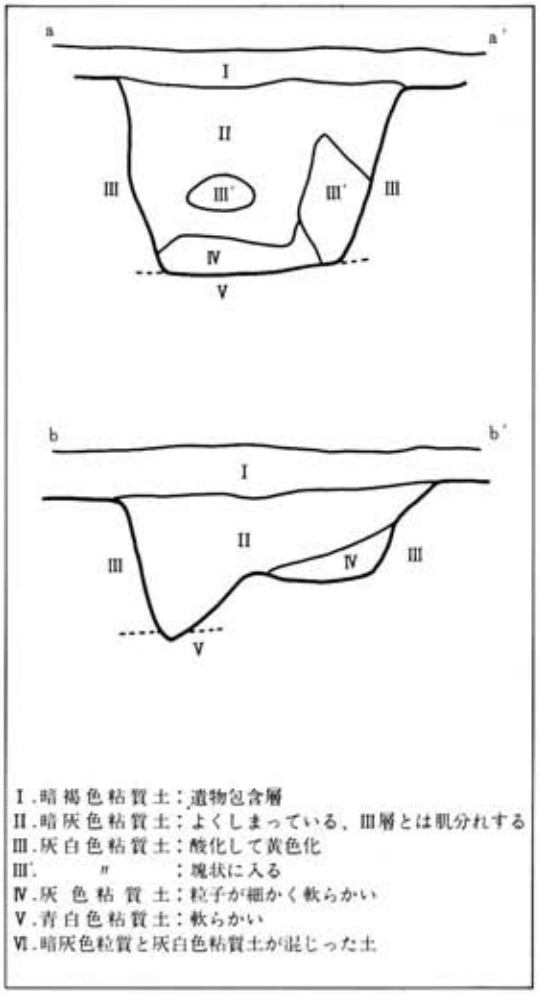
馬洗上黒木遺跡は、杵島山系北東部の191.5ｍの支峰より東に延びる丘陵麓の標高約3.5ｍの水田部に立地する。本遺跡南の丘陵部付近には、妻山遺跡・馬洗下黒木遺跡・大渡下三本松遺跡等の縄文時代～中世に渡る多くの遺跡が密集している。馬洗上黒木遺跡も、以前より弥生時代～中世の遺物散布地として知られていた。

調査の結果、約15cmの耕作土下に暗褐色粘質土の遺物包含層があり、その下の灰白色粘質土に掘り込んだ遺構が検出された。検出された遺構は、溝跡４条・不定形落ち込み１基等である。溝跡のうち調査区中央を南北に走るＳＤ002溝跡は、長さ10.7ｍ、幅約１ｍ、深さ約0.5ｍで調査区内で完結する。溝跡の北端は土壙状を呈し、底面に藁灰状のものを薄く敷いており、また木片等も見られた。中央から南部にかけては、埋土の下部に地山がブロック状に混入し、人為的に埋められたことが考えられる。遺物としては、土師器・輸入陶磁器等の小片が見られた。調査区南側で検出されたＳＤ004溝跡には低い畦状のものが付属して見られた。ＳＸ003不定形落ち込み遺構は調査区南東部にある。埋土は奈良～平安期の遺物包含層となっており、土師器・須恵器等の土器が出土したが、一部攪乱が見られた。

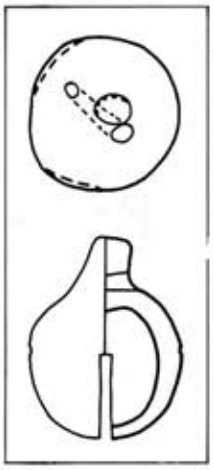
馬洗上黒木遺跡より出土した遺物としては、弥生時代中期を中心とする土器・土弾、古墳時代土師器・須恵器、古代・中世の土師器・須恵器・磁器等のほか、妻山丘陵部に立地する遺跡からの流れ込みと思われるサヌカイト・黒曜石の剥片、土錘・土鈴（第65図）等の土製品や地区南側で鉄滓と思われる鉱滓・鉄製品・木杭等がある。これらの遺物は一般に磨耗しており小片が多い。

今回検出された遺構は古代～中世の生活遺構のはずれにあたるものと思われるが、現在の耕作地における遺物の散布状況から東の方へ延びる可能性がある。また、遺跡が密集していることが考えられる妻山丘陵の周辺遺跡にもあたり、これらの遺跡の様相を明らかにするための資料を得ることができた。





▲第63図　馬洗上黒木遺跡遺構配置図
◀第64図　ＳＤ002溝跡土層断面図（1/20）
▼第65図　土鈴実測図
図版21　1．馬洗上黒木遺跡全景（南から）
　　2．ＳＤ002溝跡（南から）



14．見借遺跡群

○見借野中遺跡　（略号：ＭＫＮＯ）…１
○見借西の前遺跡（略号：ＭＫＮ）……２
○見借辻の尾遺跡（略号：ＭＫＴ）……３

遺跡の所在地

唐津市見借字野中・西の前・辻の尾

調査主体者

唐津市教育委員会

調査期間

昭和60年７月～９月

調査面積

4,615㎡

第66図　見借遺跡群周辺地形図（1/25,000）

調査の概要

見借遺跡群は、唐津市西部を北流する佐志川の上流域にあり、当地域は、標高150～200ｍの上場台地と平野部との接点としての要路となっている。遺跡は、標高20ｍ前後の丘陵端部に立地し、弥生～中世にいたる集落・墳墓群である。佐志川流域には女山古墳・惣原古墳群等があり、見借遺跡群は昭和59年に見借柳井町遺跡（弥生、古墳、中世の集落）、見借倉瀬戸遺跡（弥生、古墳時代の集落跡）が調査されている。

見借野中遺跡は、佐志川西側上流で合流する支流中代川の形成する枝状谷に延び出す緩丘陵、標高15～20ｍに位置する。検出された遺構は、古墳１基・土壙３基・集石遺構・柱穴・包含層等で、古墳時代～鎌倉・室町時代（13～14世紀）のものを主体とする。古墳は丘陵の尾根筋に形成されたもので径10ｍの周溝をもつ円墳である。主体部は大形の花崗岩で石室を構成するものと考えられるが、水田造成時に削平を受け遺存度は悪い。土壙は、径1.0～2.0ｍの隅丸三角形の平面形態を呈し、壁面が厚く焼けるもので床面近くには多量の炭化物が検出された。包含層は、土壙や円墳の周辺にあり中国製の青磁、白磁の碗・皿、褐釉四耳壺、須恵質捏鉢等が出土した。また、鉄滓・窯壁破片が多量に出土しており、製鉄遺構（小鍛冶）の存在も窺わせるものである。

見借西の前遺跡は、佐志川と中代川の合流地点に延び出す丘陵端にあり、標高10～12ｍである。遺溝は、柱穴・包含層・水田跡が検出された。柱穴群と包含層は弥生時代中期～古墳時代にいたるもので、中世期に削平を受けている。水田跡と遺跡全体を被う包含層からは鎌倉～室町時代の遺物が多量に出土した。遺物は、弥生土器、土師器の甕・壺・高杯・椀等があり、中国製青磁、白磁、朝鮮の象嵌青磁等の陶磁器の他、滑石製品、陶硯、銅銭がある。また、高台内底に墨書のある陶磁器も出土している。

見借辻の尾遺跡は、見借地区の中央に延びる丘陵の西側水田部にあたり、標高10mに立地する。遺構は、平安時代末～鎌倉時代の水田遺構と包含層を検出した。水田遺構は、水田4区画・畦14・杭列27と水路等よりなり、水田は現存するもので面積約80㎡と比較的小規模のものである。平面形は長方形を呈し、この長軸が丘陵斜面に平行になるように営まれ、畦は矢板等の施設のない微高状の凸部を形成するもので、丘陵に沿って各水田標高が低くなっている。杭列も水路護岸杭と考えられ、打込み間隔は粗になっている。水田内堆積層を中心に、白磁・青磁・褐釉陶器の他、土師質の皿、椀、黒色土器・瓦器等の土器類、陶硯・銅銭・滑石製品・砥石が出土した。また、自然遺物も多く有機質土層より検出され、炭化米等の種子類の他、加工品として木札状木製品・蓋・船形等も出土した。

以上のように佐志川上流域の見借地区は、弥生～古墳時代以降古代交通路の拠点として重要視される地域であり、昭和59年度の集落跡の調査、それに今回の各時代の遺構群の存在はこうした要路「加周」の駅以後の周辺の様相を示すものと考えられる。

1．見借遺跡群遠景
2．見借野中遺跡全景
3．見借西の前遺跡包含層
4．見借辻の尾遺跡水田跡

15．名場越後田遺跡（略号：ＮＡＵ）

遺跡の所在地

唐津市枝去木名場越字後田

調査主体者

唐津市教育委員会

調査期間

昭和60年10月～11月

調査面積

1,700㎡

第67図　名場越後田遺跡周辺地形図（1/25,000）

調査の概要

名場越後田遺跡は、唐津市の西部の標高150～200ｍ、東松浦玄武岩質安山岩の溶岩風化台地である上場地域内の盆地状低地帯に位置する。遺跡は、有浦川上流域の水田部に延び出す標高120ｍ前後の丘陵端部に立地する。周辺の丘陵地には、中尾二ッ枝遺跡、枝去木山中遺跡等の旧石器～縄文時代の遺跡が数多く知られており、岸岳系唐津の古窯である小十窯跡は、南西3.5㎞の低地帯の最奥部にある。

遺構は、掘立柱建物跡14棟・土壙５基・井戸跡３基・溝跡・柵列及び柱穴群が検出され、掘立柱建物群を主体とする集落跡と考えられる。また、遺構群の南側の谷に沿って、複数の堆積層があり遺物包含層となっている。この包含層の中にも丘陵斜面に付設された護岸状石組み遺構が認められ、この遺構下段に有機質層の堆積があり、水田遺構とも考えられた。掘立柱建物群は、梁行・桁行がそれぞれ２間×２間、３間×３間、２間×４間等の構造規模をもつもので、その棟方位による建物群の構成は南北２群、遺構変遷としてはほぼ３期に分類される。また、井戸跡・柵列・溝跡等の建物群に付設する施設も、こうした建物群に対応した状況が認められる。遺物には、包含層を中心に中国製青磁、白磁、青花染付の碗・皿、朝鮮の象嵌青磁、李朝陶磁器等の輸入陶磁器、美濃・瀬戸系の灰釉皿、備前系のすり鉢、唐津系の皿・碗等の国産陶磁器と、須恵質や土師質の鍋・火舎・皿が出土した。また、石鉢・石臼・砥石・銅銭・念珠玉もあり、井戸跡等からは桶底・蓋・木製品・柱根も検出された。

本遺跡は以上のように、室町時代後期（15～16世紀）の上場台地の集落様相を知る上で重要なものである。遺物として多くの輸入陶磁器と同時に、日本国内各地の中世窯跡で生産された陶磁器が出土し、また、これに伴って唐津系陶器の検出は室町期の商品としての陶磁器の流通経済の一端を示すものであり、16世紀後半とされる唐津陶創業期の問題に対しても好資料になると考えられる。

1．名場越後田遺跡全景（南から）
2．集落跡（北から）
3．包含層
4．井戸跡

16．馬郡（まごい）遺跡（略号：ＭＧＩ）

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字鶴

調査主体者

佐賀県教育委員会

調査期間

昭和60年８月～昭和61年１月

調査面積

1,800㎡

第68図　馬郡遺跡周辺地形図（1/25,000）

遺跡の概要

馬郡遺跡は、馬郡集落の南側、三本松川左岸の水田部から吉野ヶ里丘陵南端部の畑地にかけて広がる遺跡である。標高7.5～9.5ｍ。北側には弥生時代、古代～中世の遺物散布地である中園遺跡・枝町遺跡が、東側の丘陵上には吉野ヶ里遺跡・田手一本黒木遺跡等の弥生時代～中世の集落跡・墳墓跡が所在する。調査は１～３区の水田部、４区の畑地にわけて行なった。

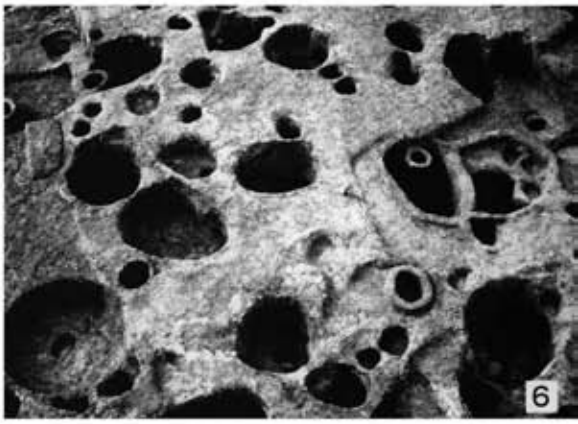
１区は東側の丘陵部から西側の湿地帯に移行する部分にあたる。遺構は調査区の東端部の小高い部分から小穴数個を検出したのみで調査区のほとんどは湿地帯であり、厚さ50cmほどの遺物包含層が見られた。この包含層からは弥生～鎌倉時代の多量の土器、土製品（土錘・土弾）、木製品（杭）及び自然遺物（桃などの植物種子）が出土した。

２区は西側の小高い部分から井戸跡・溝跡・小穴が検出された。井戸跡は平安時代のもので二段掘りの掘り方内部に井戸材・井戸枠が良好な状態で残存していた。井戸内から土師器（杯）、須恵器（杯）、瓦器碗、木製品（櫛・板）、自然遺物（瓢箪の実・ドングリ類種子）が出土している。

３区からは溝跡・土壙・柱穴が検出された。これらの遺構からは奈良～平安時代の土師器・須恵器が出土したが小破片のため時代は明確にできない。３区の南西部は段落ちになっており、弥生時代前期の遺物包含層が検出された。

４区は吉野ヶ里丘陵の西端部にあたり、弥生～鎌倉時代の多数の遺構が密集して検出された。弥生時代の遺構は土壙と柱穴で、遺物は土器・石器（石庖丁）が出土した。古墳～奈良時代の遺構は竪穴住居跡・柱穴・土壙で竪穴住居跡内部に炉が見られた。掘立柱建物跡は２×２間の総柱で倉庫と考えられる。遺物は土師器・須恵器・ガラス小玉が出土している。平安～鎌倉時代の遺構は土壙と柱穴で遺物は土師器（杯）・瓦器（碗・皿）が出土した。

以上の調査で吉野ヶ里遺跡の周辺遺跡である馬郡遺跡の西・南端部が確認できるなど多くの成果があがった。また２区で検出された平安時代の井戸跡は、板材や角材を用いた井戸枠がほぼ完存しており貴重な資料となる。



1．馬都遺跡１区全景（東から）　2．２区井戸跡検出状況　3．３区全景（西から）
4．４区全景（東から）　5．４区遺構検出状況　6．４区建物跡（東から）
7．２区井戸跡検出作業　8．４区遺構検出作業

Ⅵ．総　　括

昭和60年度に実施した農業基盤整備事業に係る文化財調査のうち確認調査は、佐賀東部地区で鳥栖市・基山町・北茂安町・三根町・上峰村・神埼町・千代田町・東脊振村の14地区、佐賀西部地区で佐賀市・多久市・諸富町の４地区、佐賀南部地区で武雄市・鹿島市・白石町・有明町・太良町・嬉野町の11地区、佐賀北部地区で伊万里市・西有田町・浜玉町・相知町・北波多村の８地区、佐賀上場地区で唐津市・肥前町・玄海町の６地区である。また三田川町三田川工区・東脊振村広域基幹林道・脊振村脊振中部地区・三瀬村広瀬第２地区・佐賀市嘉瀬地区・多久市宿地区・大和町川上南部第１・２地区・武雄市本部地区・北方町橋下地区・大崎地区・鹿島市竹ノ木庭地区・塩田町北大草野地区・光武地区・西有田町黒岩地区・切楠農免道路・上内野農免道路、玄海町棚橋地区については踏査を行なった。また神埼町・三田川町・白石町・有明町については埋没条里確認調査を実施した。その他筑後川下流用水事業に係る文化財確認調査は神埼町・三田川町・諸富町について行なった。

発掘調査は佐賀東部地区10遺跡、佐賀西部地区３遺跡、佐賀南部地区１遺跡、佐賀上場地区３遺跡について実施した。以下確認調査については地区ごとに、発掘調査については各時代ごとにまとめる。

文化財確認調査

佐賀東部地区　鳥栖市籠第二地区、基山町園部地区、北茂安町北茂安西部地区、三根町三根東地区、上峰村上峰北部地区、神埼町六丁工区・竹原工区、千代田町直鳥工区、東脊振村下石動工区・村先工区で遺跡の存在が確認された。籠第二地区では腰石以下のみではあったが、７世紀代の古墳が確認された。園部地区では土壙・小穴が検出されたが出土した遺物から奈良・平安期の集落跡と考えられる。北茂安西部地区では１ヶ所で、三根東地区にまたがって弥生時代遺物包含層が、またその南の個所で土壙・溝跡が検出され遺物より古墳～平安時代の集落跡の存在が考えられた。また近世のものと思われる木棺墓も検出された。上峰北部地区では弥生時代を中心とする集落跡が検出され、同年度発掘調査が行なわれた船石南遺跡との関連で注目される。六丁工区では２地点で中世のものと思われる溝跡が検出されたが、本地区は環濠集落の密集する地域でこれとの関連で興味が持たれる。竹原工区では広範囲で住居跡・井戸跡・土壙が検出され弥生土器・須恵器・土師器が出土したが、特に古代官道の推定地で道路敷遺構が検出されたことは、古代におけるこの地域の性格ということからも興味深い。直鳥工区では幾つかの遺構と遺物包含層が検出され、出土した遺物から弥生時代～中世の集落跡の存在が考えられる。下石動工区では幾つかのまとまりを持って遺構が検出されたが、出土した遺物から中世を中心とする弥生時代～中世の集落跡と考えられる。村先工区では小穴が検出されたが、遺物

と遺跡の立地から中世山城に関連した遺跡である可能性がある。

佐賀西部地区　佐賀市久保泉西部地区・久保泉東部地区、諸富町大堂地区で遺跡の存在が確認された。久保泉西部地区では、溝跡及び弥生～古墳時代の遺物包含層が検出された。久保泉東部地区では溝跡・竪穴が検出されたが、出土した遺物から古墳時代～中世の生活跡と考えられる。大堂地区では３地点で弥生時代～近世にわたる長期間営まれた集落跡が検出された。特に中世～近世期の集落跡は太田城との関連で注目される。

佐賀南部地区　武雄市川登地区・橘地区、白石町白石西第３・第４地区、嬉野町嬉野西部地区で遺跡の存在が確認された。川登地区・橘地区、白石西第３地区では井戸跡・溝跡・集石・土壙等の遺構が検出され、出土した遺物より中世の集落跡と考えられる。白石西第４地区では顕著な遺構・遺物は検出されなかったが、現存する地割りから須古城の堀跡の存在が考えられる。嬉野西部地区では近世の掘立柱建物跡などの存在が確認された。

佐賀北部地区　伊万里市東山代西部地区、西有田町大山地区、北波多村北波多東地区で遺跡の存在が確認された。東山代西部地区では弥生時代終末期～平安時代の遺物包含層が検出されたが、特に双鳥唐草文鏡の出土は注目される。大山地区では小穴が検出されたが、出土した遺物から中世の生活跡と考えられる。北波多東地区では中世の小穴・落ち込み及びその下より弥生時代の遺物包含層が検出された。

佐賀上場地区　肥前町今泊地区で遺跡の存在が確認された。検出された遺構は遺物包含層などで、縄文土器・黒曜石製石器・剥片等が出土した。

筑後川下流用水事業　神埼町鶴地区・諸富町大堂地区で遺跡の存在が確認された。鶴地区では土壙・小穴が検出されたが、出土した遺物より弥生～古墳時代の集落跡と考えられる。大堂地区では弥生～鎌倉時代の遺物包含層が検出された。

発掘調査

縄文時代　縄文時代の調査は従来上場地区・佐賀北部地区で主に行なわれてきたが、本年度の調査のうち注目されるものとして千代田町上黒井貝塚の縄文晩期末の遺物があげられる。佐賀平野平坦地での縄文時代に遡る遺物の出土はこれまでもいくらか指摘されたことがあるが、上黒井貝塚である程度まとまって土器が出土したことは当地域の開発を考える上で重要な資料となるであろう。

弥生時代　本分遺跡で弥生時代中期～後期の集落跡の調査が行なわれ、土器・石器・木製鍬等多くの遺物が出土した。特に弥生時代中期初～中頃の土器と共伴して出土した鐸形土製品２点は、これまで出土例の中でも古い時期のものの一つとして注目される。また船石南遺跡でも中期～後期の竪穴住居跡・掘立柱建物跡群が検出されたが、他に545基に及ぶ土器棺墓等の墓壙の検出は貴重な資料であろう。その他西石動Ｂ遺跡（後期末）・上黒井貝塚（前期～中期）・柴尾遺跡（中期～後期）・唐人廟遺跡（後期末）・見借西の前遺跡等で集落跡等の調査が行なわれた。

古墳時代　古墳時代の遺跡の調査は、本分遺跡・西石動Ｂ遺跡・的小渕遺跡・柴尾遺跡・池の上三本松遺跡・唐人廟遺跡・見借野中遺跡・見借西の前遺跡で行なわれた。このうち集落跡の多くは弥生時代後期から引き続いて営まれたものである。墳墓については的小渕遺跡で後期の円墳、見借野中遺跡で円墳がそれぞれ調査された。

古代（奈良・平安）　古代に係る調査として注目されるものに西石動Ｂ遺跡の調査があげられる。奈良時代の掘立柱建物跡が比較的まとまって検出されており、この中には２×９間の大きなものも含まれていることから、この地域の古代史を考える上で貴重な資料である。このほか馬洗上黒木遺跡では遺物の包含が見られた。

中世（鎌倉・室町時代）　中世に係る調査は本分遺跡・西石動Ａ遺跡・松本Ａ遺跡・的小渕遺跡・莞牟田遺跡・本告牟田遺跡・泉遺跡・池の上三本松遺跡・唐人廟遺跡・馬洗上黒木遺跡・見借野中遺跡・見借西の前遺跡・名場越後田遺跡等がある。本年度調査したもののうち注目されるのは莞牟田・本告牟田の環濠集落の発掘調査が初めて行なわれたことである。環濠集落は佐賀平野の低湿地部に所在する特殊な集落形態で、当地区の開発過程を調べる一つの鍵となるものであろう。また名場越後田遺跡でもまとまった中世の集落跡が調査されており、出土した遺物と共に貴重な資料である。

近世（安土・桃山・江戸時代）　近世に係る調査は的小渕遺跡・莞牟田・本告牟田両環濠集落遺跡・泉遺跡・唐人廟遺跡で行なわれた。

佐賀県文化財調査報告書第85集

佐賀県農業基盤整備事業に
係る文化財調査報告書5

発行　昭和62年3月31日
佐賀県教育委員会
佐賀市城内1-1-59

印刷　株式会社副島印刷
佐賀市高木瀬町大字長瀬
1136の52